

營業者ハ第四號雜形ニ倣ヒ各自標札ヲ調製シ營業場戶外ニ掲出セシムヘシ

第十二項

製造人ヨリ差出スヘキ製造高及賣上金高届書ハ第五號雜形ニ據リ調製セシムヘシ

第十三項

菓子營業者ニハ左ノ通帳簿ヲ調製セシムヘシ
製造人

菓子製造帳

製造ノ年月日種類數量及代價等ヲ記シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

菓子賣上帳

賣渡ノ年月日種類數量及代價並買主ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

但小賣ヲ兼タルモノニシテ自製ノ菓子ヲ需用者ニ賣捌キタル分ハ其日締高ヲ以テ記入シ買主ノ住所氏名ヲ記入スルニ及ハス

製造原品買入帳

製造原品ノ種類數量及代價並買入先ノ住所氏名等ヲ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

卸賣人

菓子買入帳

買入ノ年月日種類數量及代價並買入先ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置ク

モノトス

菓子賣渡帳

賣渡ノ年月日種類數量及代價並買主ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

小賣人

菓子買入帳

卸賣人ノ買入帳記載方ニ同シ

第十四項

郡區長ハ製造人ヨリ差出シタル賣上金高届書ニ據リ製造税ノ額ヲ定ムヘシ但検査員ヨリ送致セシ検査報告書ト照査スルコトアルヘシ

第十五項

左ノ諸表ハ各其雜形ニ照準毎半期之ヲ調製シ翌月二十五日差立主税局ニ送付スヘシ

菓子營業稅表 第六號雜形

菓子製造稅表 第七號雜形

營業鑑札受拂計算表 第八號雜形

仕入出賣鑑札下渡高表 第九號雜形

菓子營業人員調査表 第十號雜形

(雜形畧)

尋テ同年六月十一日菓子税ニ關スル検査手續ヲ各府縣知事令ニ内達セリ該手續ノ全文左ノ如シ
菓子税検査手續

第一項

菓子税ハ明治十八年五月第十一號布告菓子税則並ニ同年大藏省第二十四號菓子税則取扱心得書ニ依リ検査ヲナスヘシ

第二項

管内ヲ數部ニ區畫シ每部其擔當検査員ヲ定メ隨時其検査ヲ爲サシムヘシ

第三項

前項検査員ノ處分ヲ監督スル爲メ臨時監督員若干名ヲ派出スルコトアルヘシ

第四項

検査員ハ別紙様式ノ如ク營業人ノ氏名ヲ記シタル検査簿ヲ製シ置キ常ニ之ヲ提携シテ其検査セシ月日及其他ノ事項ヲ記載シ之ニ檢印ヲ爲シ置クヘシ但諸帳簿附込金高ハ其前月末迄ノ合計高ヲ検査シテ記載スヘキモノトス

第五項

第二項ノ検査ノ外毎年一月七月ノ兩度ニハ成ルヘク製造人一般ノ賣上高検査ヲ爲スヘシ

第六項

検査員隨時ノ検査ヲ爲ストキハ其部内營業者町村ノ列次家並ノ順序等ニ拘ハラヌ臨檢スヘシ

第七項

検査ハ力メテ便捷ヲ主トシ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ

第八項

検査員第五項ノ検査ヲ了スルトキハ各製造人一人別賣上高検査報告書ヲ作り郡區長ニ送付スヘシ

第九項

検査上ニ關スル尋問應答等ハ營業者ニ就キ之ヲ爲スヘシ若シ營業者不在ナルトキハ代理ノ責任アル者ニ就キ之ヲ爲スヘシ

第十項

検査上最モ精細ニ觀察スヘキ要領ハ左ノ如シ

- 一 製造原品ノ數量及其買入金額等ヲ製造高ニ參看シ其數量適當ナルヤ否
- 一 製造人菓子賣上高ハ製造高及其店舗ノ商況雇人ノ員數等ニ相應スルヤ否
- 一 雇人ノ員數並ニ住所氏名等ハ其届出正確ナリヤ否
- 一 諸帳簿記載方正確ナリヤ否
- 一 露店又ハ呼賣專業ノ名義ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル者其資格ヲ犯ス者ニアラサルヤ否
- 一 免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲スモノナキヤ否

第十一項

前項記載ノ廉又ハ其他ノ事項ニシテ若シ疑フヘキコトアルトキハ相當ノ取調ヲ爲スヘク若シ取調上不明瞭ノ廉アリ検査ヲ了シ難キ場合ニ於テハ監督員ニ通知シ立會ノ上詳細ノ取調ヲ爲

スコトアルヘシ

第十二項

稅則第十六條ノ場合ニ於テ家宅内ニ立入り取調ヲ要スルトキハ十六年大藏省第七十七號達ニ依リ取扱フヘシ

第十三項

帳簿ノ検査ヲ了シタルトキハ其箇所ニ年月日検査員何府縣官氏名檢了ト書記シ檢印スヘシ
尙ホ同年七月訓示シテ菓子營業者カ死亡其他ノ事故ニヨリ俄カニ廢業セル場合ニ於ケル殘品ノ取締方ヲ明ニセリ該訓示ノ全文ハ左ノ如シ

大藏省訓示 (明治十八年七月八日)

菓子營業者廢業セントスルトキハ其所持ノ菓子ヲ廢業前ニ於テ悉皆賣捌クヘキハ勿論ノ處萬一不得止事故アリテ俄ニ廢業スル時營業中ノ殘品ハ三十日以内相當ノ日限ヲ定メ左ノ區分限リ賣捌ヲ爲スヘキ旨其時々本人ニ示達シ戶長奧印ノ請書ヲ出サシメ不取締無之様取計フヘク但此場合ニ於テ其菓子ハ店頭ニ排列セシメサルモノトス

一 廢業ノ製造人所持ノ菓子ハ其見積リ代金ニ依リ製造稅ヲ納メタルトキハ卸賣人又ハ小賣人ニ賣渡ス事

一 廢業ノ卸賣人所持ノ菓子ハ卸賣人又ハ小賣人ニ賣渡及ヒ製造人ニ賣戻ス事

一 廢業ノ小賣人所持ノ菓子ハ製造人又ハ卸賣人ニ賣戻ス事

而シテ同年八月二十二日大藏省訓示ヲ以テ菓子營業權ヲ有スル資格ノ件ヲ定メ菓子營業者ノ内

同居ノ家族ニハ製造小賣或ハ卸賣營業ヲ許可セサル旨ヲ訓示セリ越テ明治二十一年二月二十四日勅令第八號ヲ以テ菓子稅ノ負擔ヲ公平ナラシメ稅額決定ノ方法ヲ鄭重ニシ併セテ検査手續上ノ缺點ヲ補ハシカ爲メニ菓子稅則中ニ左ノ如ク改正ヲ加ヘ此年七月一日以降實施スルコトナセリ

勅令第八號 (明治二十一年二月二十四日)

明治十八年五月第十一號布告菓子稅則中左ノ通改正シ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第八條中

製造營業稅第四項雇人二人ノ下以下ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者 一箇年金參圓

卸賣營業稅第四項雇人二人ノ下以下ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者 一箇年金參圓

小賣營業稅第二項雇人二人ノ下以下ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者 一箇年金貳圓

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム

第十六條 削除

第十八條中又ハ第十四條ノ帳簿ノ九字ヲ削除シ記載ヲ爲シノ下又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミノ

十二字ヲ加フ

第二十條中及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ノ十八字ヲ削除ス

而シテ菓子税則ノ改定ニ伴ヒ同税則ノ取扱方ヲ定ムル必要アルヲ以テ同年三月三十日左ノ如ク内訓ヲ發セリ

本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子税則中改正之件有之就テハ本年七月以後該税則取扱方要領左ノ通心得ヘシ

第一項 郡區長ニ於テ菓子製造税額ヲ調査スルニ當リテハ前記ノ製造高賣上高等ヲ参照シ尙ホ爾後營業上ノ盛衰ヲ商量シテ其期届出ノ當否ヲ調査スヘシ

第二項 前項ノ場合ニ於テ郡區長ハ租税検査員ノ意見ヲ聽キ其届出ノ當否ヲ審案スルヲ要ス

第三項 郡區長ハ豫メ各製造人ノ原品仕入高製造高賣上高及其分限高ヲモ視察シ置キ第一項調査ノ資ニ供スヘシ

第四項 郡區長ハ租税検査員ノ報告書ヲ参照シテ賣上高ノ當否ヲ考察スルハ勿論當時宜ニ應シ收税長ニ協議シテ更ニ實地検査ヲ求ムルコトアルヘシ

第五項 賣上高届書ニ對シ郡區長之ヲ不當ト思料スルトキハ先ツ營業人ヲ懇篤説諭シテ之ヲ訂正セシムルコトヲ要ス

第六項 租税検査員ハ常ニ菓子營業人ノ分限并ニ其正否ニ注意シ資力アリ且正業ト認ムル者ニ對シテハ務メテ之ヲ寬待シ其不正業者ト思料スル者アル場合ニ於テハ税則第十五條ニ依リ隨時臨檢シ其製造高賣上高ノ調方ヲシテ正實ナラシムルヲ要ス

尋テ此年十月五日菓子營業者雇人現在人員ノ届方ニ付キ訓示ヲ發シ菓子税則第十二條同業者雇人現在人員數届ハ新規開業及人員異動ノ場合ヲ除クノ外自今其届書ヲ省クモ妨ナキ旨ヲ訓示シ更

ニ明治二十三年三月ニ至リ大藏省訓令第三十二號ヲ以テ明治十八年大藏省達第二十四號菓子税則取扱心得第三項中第二號雛形ニ倣ヒ「ハ」字ヲ削除シ管應ニ於テ「ノ」下ニ「適宜」ノ二字ヲ加ヘタリ蓋シ從來第三號雛形ニ於テハ木製ト爲スノ規定ナリシヲ地方ノ便宜ニヨリ紙製ト爲スモ妨ナキノ趣旨ニ改メタルナリ

斯クテ菓子税ハ其後別段ノ變革ナクシテ存續シタリシカ途ニ二十九年四月六日法律第六十五號ヲ以テ此年限リ廢止セラル、コト、ナレリ蓋シ菓子税ノ一部タル製造税ハ其收入寡少ナルニ拘ラス課税上ノ手數繁雜ニ涉リ且ツ種々弊害多クシテ國稅トシテ適當ナラサルノミナラス菓子税ハ明治二十九年法律第三十三號一般營業税法ノ制定ト共ニ重複ノ課税ヲ避ルノ必要アリタルニ由ルナリ

菓子税收入額

| 年 度 | 製造税 | 營業税 | 鑑札料 | 合 計 |
|---------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 明治十八年度 | 一四九、六六四、二四一 | 二八八、二二八、七五三 | 〇 | 四三七、八九二、九九四 |
| 同 十九年度 | 三二二、二二七、七六三 | 二〇三、六九六、一六九 | 二八、五六四、九〇〇 | 五四四、九〇一、一三二 |
| 同 二十年度 | 三五七、八四九、三二一 | 二二一、二三四、八二八 | 二六、六五三、七七三 | 五九五、七三七、九二四 |
| 同 二十一年度 | 三八四、三五八、〇〇〇 | 二一八、九五三、〇〇〇 | 二四、九三一、〇〇〇 | 六二八、二四二、〇〇〇 |
| 同 二十二年度 | 三七八、五六二、〇〇〇 | 二二九、三三七、二〇〇 | 二九、〇九九、〇〇〇 | 六四七、〇三三、〇〇〇 |
| 同 二十三年度 | 三六一、七〇五、五七七 | 二六五、七四六、五〇〇 | 三五、〇五〇、九八 | 六六二、五〇二、一七五 |

| | | | | |
|----------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 同 二十四年度 | 三一七〇八四・四六六 | 二六八・八七九・五五八 | 二八・二二七・六五〇 | 六一四・一九一・六七四 |
| 同 二十五年度 | 三〇五・〇六二・〇七二 | 二八一・九二二・五四六 | 二六・五〇〇 | 五八七・〇〇一・二一八 |
| 同 二十六年年度 | 三〇二・九八七・四〇五 | 二九〇・八二一・六七九 | 〇 | 五九三・八〇九・〇八四 |
| 同 二十七年年度 | 三三四・七七〇・八七一 | 三〇二・八五五・二三〇 | 〇 | 六三七・六二六・一〇一 |
| 同 二十八年年度 | 三七三・七七七・九二五 | 三一五・三九四・五七五 | 〇 | 六八九・一三二・五〇〇 |
| 同 二十九年年度 | 三八四・〇〇二・五〇三 | 一六二・一三二・一一八 | 〇 | 五四六・一二五・六二二 |

第十一節 砂糖消費稅

砂糖消費稅ハ明治三十四年法律第十三號砂糖消費稅法ヲ以テ新設スル所ナリ蓋シ該稅法ハ明治三十年清國事件ノ爲ニ要スル經費ノ支辨ニ充テ併テ軍艦水雷艇補充基金、災害準備基金、教育基金ノ三基金ヲ補充シ又從來公債支辨ニ屬セシメタル計畫ヲ變更シテ租稅收入ノ支辨ニ屬セシムル等歲入増加ノ必要ヲ生シタルヲ以テ比較的稍ヤ奢侈ニ屬スル砂糖ニ課稅シ以テ是等ノ財源トナスヲ相當トシ遂ニ第十五期帝國議會ノ協贊ヲ經以テ之ヲ公布スルニ至リシナリ今同法ノ規定ニ依レハ内地ニ於テ消費スル砂糖、糖蜜及糖水ニ對シテ消費稅ヲ課スルモノニシテ其課稅ノ時期ハ製造場稅關又ハ課稅倉庫ヨリ取引ヲナス際ニ於テシ又其稅率ハ和蘭標本色相ヲ標準トシテ四種ニ分チ百斤ニ付壹圓、壹圓六十錢、二圓二十錢、二圓八十錢ノ四等トナセリ其法律ノ全文左ノ如シ

法律第十三號 (明治三十四年三月三十日)

砂糖消費稅法

第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル、砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其消費ト看做ス

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

第一種 砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜 百斤ニ付 金一圓

第二種 砂糖色相和蘭標本第八號以上第十五號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 金一圓六十錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第十五號以上第二十號以下ノ砂糖及糖水 百斤ニ付 金二圓二十錢

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十號ヲ超ユル砂糖及水砂糖 百斤ニ付 金二圓八十錢

第四條 前條ノ消費稅ハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六ヶ月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得前項ニヨリ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還附ス擔保ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 内地消費ノ目的ニ非ラスシテ製造場税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラル、砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費税ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニヨリ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費税ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ附シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還附ス

第六條 消費税納附前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費税納附前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條 收入官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其他ノ製造出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ノ承認ヲ得消費税ヲ課セラレタル砂糖又ハ糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタル者ハ原料トシタル砂糖又ハ糖蜜ノ消費税ニ相當スル金額ノ下附ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

製造後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタルモノハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 收税官吏其職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限りニ在ラス

第十七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附 則

第十八條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

右砂糖消費税法ノ制定ニ伴ヒ明治三十四年八月勅令第六十九號ヲ以テ砂糖消費税法施行規則ヲ公布シ其細則ヲ定メタリ右施行規則ニ於テハ砂糖製造者ノ申告義務、收税官吏ノ製品又ハ書類ノ検査、製造場税關又ハ課税倉庫ヨリ引取ル者ノ申告義務、消費税徴收猶豫ニ關スル手續、金庫所左地外ニ於ケル特別徴税法、消費税法ニヨリ提供スル擔保ノ提供、公賣消費税ノ下戻手續、製造者販賣者ノ帳簿記載ノ義務等ノ規定ヲ爲セリ即左ノ如シ

勅令第六十九號 (明治三十四年八月二十二日)

砂糖消費税法施行規則

第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條 製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ

第五條 第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 收税官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

第八條 收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條 砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收税官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ内地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トヲ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 砂糖消費税法第四條第一項但書ニ依リ消費税ノ徴收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

第十二條 第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費税法第三條ノ種別及斤數ヲ查

定シ其ノ直ニ消費税ヲ徴收スヘキモノハ其徴收ノ手續ヲ爲シ消費税ノ徴收猶豫ノ申請アルモノ又ハ直ニ消費税ノ徴收ヲ要セサルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ

第十三條 收税官吏ハ金庫所在地外ニ限り自ら消費税金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得
納税義務者ハ金庫所在地外ニ限り收入印紙ヲ以テ砂糖消費税ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費税査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

第十四條 收入官吏ハ口頭ヲ以テ納税告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條 砂糖消費税法第四條及第五條ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル
擔保ヲ提供セントスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條 有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十七條 砂糖、糖蜜、糖水製造者稅關又ハ保税倉庫砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費税納付濟又ハ擔保提供濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第十八條 砂糖消費税法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十九條 砂糖消費税法第四條第二項及第五條第二項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ

之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第二十條 前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條 公賣決行前ニ消費税及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條 砂糖消費税法第四條第二項但書及第五條第二項但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十三條 砂糖消費税法第十一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ原料トスヘキ砂糖又ハ糖蜜ヲ製造場ニ移入スルトキ其ノ種類、量目及使用ノ時期ヲ當該官吏ニ申出豫メ使用ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得テ砂糖糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ其ノ種類、量目ヲ當該官吏ニ申告スヘシ

第二十四條 前條ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ消費税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第二十五條 砂糖消費税法第十一條ニ依リ金額下付ヲ請求スルトキハ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

- 二 使用シタル原料ノ種類量目及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル砂糖糖蜜糖水ノ種類量目及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル砂糖糖蜜糖水ノ種類量目價額引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所氏名又ハ名稱

第二十七條 砂糖糖蜜糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル砂糖糖蜜糖水ノ種類量目價額引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル砂糖糖蜜糖水ノ種類量目價額販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條 收稅官吏砂糖糖蜜糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅務支署ノ設アル地方ニ於テハ稅務支署之ヲ行フ
附 則

第三十條 砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

又砂糖消費稅法施行上ニ付其取扱方ニ關シ內訓ノ必要アルヲ以テ大藏省ハ明治三十四年九月第七四四號ヲ以テ左ノ訓令ヲ發セリ

砂糖消費稅法施行取扱方左之通心得ヘシ

第一條 砂糖消費稅法ニ於テ稱スル糖水トハ液體ヲ爲ス砂糖ヲ謂フモノニシテ糖蜜ノ水ニ溶

解シタルモノ例ヘハ氷蜜水蜜等ト稱スルモノノ如キハ之ヲ包含セス隨テ氷蜜水蜜等ト稱スルモノノ如キハ之ヲ糖蜜トシテ取扱フヘキモノトス

第二條 白下ハ流動狀ヲ爲スモ砂糖ノ一種ニ過キサレヲ以テ砂糖トシテ取扱フヘシ仍白下ノ色相ハ上部ト下部トニ依リ同シカラサルカ故ニ其ノ色相ヲ鑑定スルニハ容器ノ上部中部及底部ヨリ各一定ノ量ヲ採リ能ク之ヲ混合シタル後和蘭標本ニ比較スルヲ相當トスヘキモ常時ノ取扱ニ於テハ上部表面ニ現ハレタル色相ニ依リ判別シテ妨ナシ

第三條 砂糖糖蜜糖水ヲ製造セムトスル者ハ其ノ自用ニ供スルモノタルト販賣ニ供スルモノタルトヲ間ハス總テ所轄稅務署ニ申告スヘキモノナルモ元來製造者ヲシテ申告ヲ爲サシムルハ之ニ依テ當該官廳ヲシテ其ノ糖蜜糖水ノ引取ラレル際課稅ヲ爲スノ機會ヲ有セシムトスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ自用ノモノノミヲ製造スル者ニシテ申告ヲ爲ササルカ如キコトアルモ強テ稅法ノ規定ヲ勵行スルニ及ハス

第四條 製造場ノ範圍ハ實地ノ狀態ニ於テ一製造場ト認メラルル以上ハ敷地ノ連続スルト否トヲ問ハサルモノナルヲ以テ之レカ認定ヲ爲スニ當テハ狹隘ナル見解ニ陷ラサルコトニ注意スヘシ農業ノ傍ヲ砂糖ヲ製造スル者カ其ノ住家ノ附近ニ於テ製造スル砂糖ヲ其ノ住家ニ於テ貯藏スルカ如キ場合ニ於テハ現實砂糖ヲ製造スル場所及其ノ住家ハ一製造場ヲ爲スモノト認メ其ノ間ニ於ケル砂糖ノ持運ハ之ヲ製造場外ノ移出ト認メサルコトヲ要ス

第五條 砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具器械ノ目錄ハ必要ノ場合ニ於テノミ其ノ提出ヲ命スヘキモノナルヲ以テ大製造場等ニ在テ當該官吏容易ニ其ノ内部ノ狀況ヲ知悉スルコト能

ハサルカ如キ場合ニ於テ始メテ之レカ提出ヲ命スルコトトシ其ノ他ノ場合ニ於テハ成ルヘク之レカ提出ヲ命セサルコトト爲スヘシ

第六條 製造用器具器械ノ目錄ヲ提出セシムル場合ニ於テハ製造上主要ノモノノミヲ記載セシムヘク製造力ニ關係ヲ有セサルカ如キモノハ之ヲ記載セシメサルコトトスヘシ

第七條 砂糖糖蜜糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘキモノナリト雖監視上差支ナシト認メタルトキハ豫メ種類量目及移出先ニ付承認ヲ受ケシメ移出ノ都度承認ヲ受ケシメサルモ妨ナシ

第八條 移出承認ヲ與ヘタル場合ニ於テハ移出先ヨリ直チニ砂糖糖蜜糖水ヲ引取ラシムルモ妨ナシ此場合ニ於テハ移出先ヨリ引取ララルトキ消費税ノ納付又ハ擔保ノ提供ヲ爲サシムヘシ

第九條 砂糖糖蜜糖水引取ノ申告アリタルトキハ成ルヘク速ニ査定ヲ爲シ時機ヲ誤リ營業者ニ迷惑ヲ與フルカ如キコトナキコトニ注意スヘシ

第十條 査定ハ成ルヘク簡便ノ方法ニ從ヒ大體ニ於テ數量ニ誤謬ナキコトヲ期スヘシ徒ラニ些末ノ計算ニ重キヲ置キ爲メニ長時間ヲ費スカ如キコトナキコトヲ要ス

第十一條 收税官吏自ラ消費税ノ領收ヲ爲シ又ハ納税者收入印紙ヲ以テ消費税ノ納付ヲ爲ストキハ口頭ヲ以テ納税告知ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ納税告知書ヲ發スヘキモノトス

第十二條 消費税ノ領收證書ハ之ヲ以テ砂糖消費税法施行規則第十七條及第二十四條ノ證明ニ充用スルコトアルヘキモノナルヲ以テ成規記載事項ノ外便宜課税物件ノ種類數量等ヲ記

載シ該目的ニ充用スルノ便ヲ失ハシメサルコトニ注意スルコトヲ要ス

第十三條 消費税ノ徵收猶豫ハ引取者ヲシテ納税上ノ便宜ヲ有セシムルノ旨趣ニ出テタルニハ相違ナシト雖引取者カ課税物件ノ種類又ハ數量ニ付收税官吏ノ査定ニ服セサル場合ニ於テモ其ノ指定スル所ニ於テ擔保ヲ提供シテ砂糖糖蜜糖水ノ引取ヲ爲シ之ニ依テ商機ヲ失セサルト同時ニ徐ニ不服ノ點ニ付異議ヲ主張スルコトヲ得セシムルモ亦其ノ規定ノ旨趣ノ一ナルヲ以テ引取者ニ於テ不服アル場合ニ於テハ徵收猶豫ノ規定アルコトヲ説示シ其ノ申請アルトキハ見本ヲ採取シタル上速ニ之ヲ許スコトト爲スヘシ

第十四條 徵收猶豫ノ期間ハ六箇月以上ニ渉ルヲ得スト雖法定ノ期間ヲ超ヘサル限リハ申請者ノ希望スル所ニ從ヒ之ヲ許スヘシ

第十五條 砂糖糖蜜糖水ノ引取者ニシテ消費税納付済又ハ擔保提供済ナル旨ノ證明ヲ請求シタルトキハ其ノ事實ヲ確メタル上之レカ證明ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ證明ヲ與フルノ基礎ト爲シタル書類又ハ帳簿ニ證明ヲ與ヘタル事實ノ要領ヲ記載シ置クヘシ

第十六條 製造場内ニ現在スル砂糖糖蜜糖水及其ノ原料ハ常ニ帳簿ノ現在高ト符合セサルコトナキヤ否ニ注意シ收税官吏ヲシテ定時又ハ隨時ニ帳簿ト現在品トノ照合ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十七條 砂糖消費税法施行規則第二十三條ニ依リ使用承認ヲ爲シタル砂糖又ハ糖蜜ト雖砂糖糖水又ハ酒精ノ製造ニ使用セラレスシテ更ニ製造場ヨリ引取ラルトキハ他ノ砂糖糖蜜ト同シク納税又ハ擔保提供ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十八條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ハ必要アルトキハ之レニ封印ヲ施スコトヲ得ト雖此事タル全ク製造上ノ監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ成ルヘク製造者ノ業務ヲ妨ケサル範圍ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第十九條 大製造場ニシテ多量ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造スルモノニ在テハ常ニ一人以上ノ收稅官吏ヲ製造場内ニ駐在セシメテ検査査定又ハ承認等ノ事ニ當ラシメ製造者ニ不便ヲ與ヘサルコトヲ期スルヲ要ス

第二十條 小規模ノ製造者例ヘハ農業ノ傍ラ砂糖ヲ製造スルカ如キ者ニ對シ頻繁ニシテ煩細ナル監視ヲ加フルハ實益ナクシテ却テ惡感ヲ買フノ嫌ナシトセス宜シク實地ノ狀況ヲ斟酌シ相當ノ監視ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第二十一條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ販賣スル者ニ對シ検査ヲ爲スハ法令上差支ナシト雖元來直接製造ニ關係ナキ販賣者ニ對シ検査ヲ爲スコトヲ許シタルハ全ク製造者ニ對スル監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ販賣者ニ對シ検査ヲ爲スハ之ヲ爲スニアラサレハ製造者ノ監督ヲ完クスルコト能ハサルカ如キ必要アル場合ニ限ルコトニ注意スルコトヲ要ス

第二十二條 検査ヲ執行シ又ハ監督上ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ提出セシムルコトヲ要ス
右内訓ス

砂糖消費稅法第十一條ノ規定ニ依レハ製造シタル砂糖、糖水又ハ酒精ニ課稅スルト同時ニ其原料タル砂糖、糖蜜ニ對シ戻稅ヲ爲スコト、ナレリト雖モ斯ノ如キハ手續頗ル煩ニ失シ官民ノ其ニ不便ヲ感スル所ナルニ依リ其原料タル砂糖、糖蜜ニハ初メヨリ砂糖消費稅ヲ課セサルノ必要アリ故ニ明治三十五年三月十一日法律第二十一號ヲ以テ砂糖消費稅法中左ノ通り改正セリ

法律第二十一號 (明治三十五年三月十一日)

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第十一條ヲ左ノ如ク改ム

第十一條ノ一 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十一條ノ二 第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セス

附 則

本法施行前ニ於ル消費稅ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

前掲ノ如ク砂糖消費稅法ノ改正ニ伴ヒ其施行規則中改正ノ必要アルヲ以テ明治三十五年三月二

十五日勅令第五十一號ヲ以テ左ノ如ク改正セリ

勅令第五十一號 (明治三十五年三月二十五日)

砂糖消費稅法施行規則中左ノ通り改正ス

第十一條 砂糖消費稅法第四條第一項但書及同法第十一條ノ第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

砂糖消費稅法第十一條ノ第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類、量目、引取ノ場所及時期、製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス
砂糖消費稅法第十一條ノ第一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第二項ヲ準用ス

第十二條中消費稅ノ徵收猶豫ノ申請アルモノ又ハ直ニ消費稅ノ徵收ヲ要セサルヲ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルニ改ム

第十五條中第四條及第五條ヲ第四條第五條及第十一條ノ一ニ改ム

第十七條中消費稅納付濟又ハ擔保提供濟ヲ消費稅納付濟擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ニ改ム

第十八條ヲ第十八條ノ一ニ改メ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十八條ノ二 砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ申請スヘキ稅務署カ製造場所轄稅務署ニ異ルトキハ砂糖糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲモ添付スルコトヲ要ス

第十九條中第四條第二項及第五條第二項ヲ第四條第二項第五條第二項及第十一條ノ一第四項ニ改ム

第二十二條中第四條第二項但書及第五條第二項但書ヲ第四條第二項但書第五條第二項但書及

第十一條ノ一第四項ニ改ム

第二十三條 砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第二十四條 砂糖糖水又ハ酒精ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ検査ヲ受クヘシ

第二十五條 前條砂糖糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間内ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ

附 則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

而シテ本邦ニ於テ精製糖製造業ノ起ルヤ年尙淺シト雖モ已ニ輸入精糖ノ六分一強ハ我國ニ於テ現ニ製出スル所ニシテ原料ハ皆之ヲ外國ニ仰クノ狀態ナルヲ以テ將來斯業ノ發達ヲ期センカ爲メ外國ヨリ輸入ニ係ル原料砂糖ニ對シ輸入稅ヲ戻稅スルノ必要アリ明治三十五年三月二十五日

法律第三十三號ヲ以テ輸入原料砂糖戻税法ヲ發布シ次テ同年四月二十五日勅令第四百十六號ヲ以テ其施行規則ヲ發布セリ

法律第三十三號 (明治三十五年三月二十五日)

輸入原料砂糖戻税法

第一條 輸入ノ砂糖ニシテ和蘭標本色相第十四號以下ノモノヲ原料トシ政府ノ承認ヲ得テ精製糖及氷砂糖ヲ製造スル者ハ其ノ原料ニ對シ納付シタル輸入税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸入後一箇年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ輸入税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

附 則

第三條 本法ハ明治三十五年十月一日ヨリ施行シ同日以後輸入税ノ賦課ヲ受ケタル原料砂糖ニ之ヲ適用ス

第四條 本法ハ明治四十年三月三十日迄其ノ効力ヲ有ス

右輸入原料砂糖戻税法ノ施行ニ伴ヒ其施行規則ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ明治三十五年四月勅令第四百十六號ヲ以テ輸入原料砂糖戻税法施行規則ヲ左ノ如ク定メタリ

勅令第四百十六號 (明治三十五年四月二十五日)

輸入原料砂糖戻税法施行規則

第一條 輸入原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ砂糖消費税法施行規則第十一條ニ依リ提出スル申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二條 輸入原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スルトキハ原料砂糖ノ種類量目輸入税額輸入年月日及製造シタル砂糖ノ種類量目製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄ノ稅務署ニ提出スヘシ

第三條 本令ニ定ムルモノ、外總テ砂糖消費税法施行規則ヲ準用ス

前述シタル如ク砂糖消費税法ハ明治三十四年十月一日ヨリ實施セラレタリシカ其徵税ノ方法トシテ現金收入ヲ原則トシ特定ノ場合ニ印紙貼用ノ法ヲ用フルヲ以テ本税ノ收入額ハ各年度歲入決算額中砂糖消費税決算額ヨリ多キハ言フ俟タサル所ナリ故ニ本税實施以後ニ於ケル現金ニ依ル收入及印紙貼用ニ依ル收入ヲ合計セル賦課額ヲ左ニ示スヘシ

| 砂糖消費税收入額 | |
|----------|---------------|
| 年 度 | 金 額 |
| 明治三十四年度 | 一、四八二、九五二、〇〇〇 |
| 同 三十五年度 | 六、六九三、九八三、〇〇〇 |

第十二節 登録税

登録税ハ明治二十九年法律第二十七號登録税法ヲ以テ制定スル所ニ屬ス是ヨリ其個人ノ利益

ノ爲メ國家ニ於テ登簿ノ手續ヲ爲セル場合ニ於テ或種ノ事項ニ對シテハ既ニ登記料又ハ手数料ヲ徵シ來レルモノ約百七十七萬圓アリト雖モ明治二十七八年戰役後國費ノ膨脹ニ伴ヒ其財源ヲ増稅ニ求ムル必要アリ登録稅ハ納稅者ノ負擔極メテ輕ク其徵收費亦僅少ニシテ好箇ノ財源ナルヲ以テ政府ハ第九期帝國議會ノ協贊ヲ以テ登録稅法ヲ制定シ從來手数料登記料等ニシテ登録稅法ト重複スルモノハ總テ之ヲ廢止セリ登録稅法ハ登記法、商法、版權法、特許法、戶籍法、地租條例、土地臺帳規則其他ノ法令ニ依リ特定事項ノ登記ヲ請フ者ニ對シ登録稅ヲ課スルモノニシテ登記事項ハ大要財產事項、身分事項、特權事項ノ三種ニ分チ其課稅ノ方法ハ或ハ定額稅ニ依リ或ハ比例稅ヲ採ル又徵稅方法ハ原則トシテ印紙貼用ノ法ヲ用ヒ勅令ヲ以テ定メタル場合ニハ現金ヲ以テ徵收スルコト、セリ其法律ノ全文左ノ如シ

法律第二十七號 (明治二十九年三月二十七日)

登録稅法

- 第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス
- 第二條 地所建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 買受人 賣買代價千分ノ二十
 - 二 家督相續人 戶主死亡失踪 縁跡相續人共 時價相當價格千分ノ五
 - 但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ十トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十

- 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル
- 第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人 戶主死亡失踪 縁跡相續人共 時價相當價格千分ノ二
 - 但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ十
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 假差押假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサル者ハ時價相當價格ニ依ル

第四條 船籍ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

十五噸未満ノ船舶

金五十錢

十五噸以上ノ船舶

每十噸金五十錢

二 轉籍

十五噸未満ノ船舶

金十錢

十五噸以上ノ船舶

每十噸金十錢

三 除籍

十五噸未満ノ船舶

金五錢

十五噸以上ノ船舶

每十噸金五錢

四 登録事項ノ變更

每一件金十錢

一號二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

地價千分ノ二十

二 地價ノ設定

地價千分ノ十

三 地價ノ修正

地價千分ノ十

四 開墾

地價ノ千分ノ十

五 繳下年期付與

地價千分ノ十

六 地價据置年期付與

地價千分ノ十

七 繳下年期ノ繼年期付與

地價千分ノ十

八 新開免租年期ノ繼年期付與

地價千分ノ十

九 低價年期ノ付與

地價千分ノ五

十 段別ノ増減

地價ノ千分ノ五

十一 分裂又ハ合併

地價ノ千分ノ五

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類似地價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 合名會社合資會社設立

資本金額千分ノ二

二 合名會社合資會社資本増加

增加資本金額千分ノ二

三 合名會社合資會社支店設置

會社資本金萬分ノ二

四 株式會社設立

設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三

五 株式會社設立後ノ資本金ノ拂込

每拂込金額千分ノ三

六 株式會社支店設置

現在拂込資本金額萬分ノ三

七 登記事項ノ變更

追加每一件金三圓

八 解散

每一件金一圓

第七條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

金二十圓

二 登録換

金十圓

三 取消ノ請求

金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師藥劑師獸醫蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録

醫師

金二十圓

藥劑師

金十二圓

獸醫

金十二圓

蹄鐵工

金五圓

假開業醫師

金五圓

假免許獸醫

金三圓

二 登録事項ノ變更

每一件金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録

甲種船長

金十五圓

甲種一等運轉手

金十圓

甲種二等運轉手

金六圓

甲種一等機關手

金十五圓

甲種二等機關手

金十圓

乙種船長

金十圓

乙種一等運轉手

金六圓

乙種二等運轉手

金四圓

乙種一等機關手

金十圓

乙種二等機關手

金六圓

小形船機關手

金四圓

水先人

金二十圓

二 登録事項ノ變更

每一件金五十錢

第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 普通ノ文書圖書

一種毎ニ金五圓

二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖書

一冊毎ニ金二圓

三 雜誌ノ類

一冊毎ニ金五十錢

四 興行權ヲ併有スル脚本

一種毎ニ金五十錢

五 興行權ヲ併有スル樂譜

一種毎ニ金二十圓

六 寫眞

一版毎ニ金五圓

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 五年ノ特許 金二十四
 - 十年ノ特許 金三十圓
 - 十五年ノ特許 金四十圓
 - 二 賣與讓與又ハ共有 每一件金十圓
 - 三 書入契約 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録
 - 三年ノ専用 物品一類毎ニ金三圓
 - 五年ノ専用 物品一類毎ニ金五圓
 - 七年ノ専用 物品一類毎ニ金七圓
 - 十年ノ専用 物品一類毎ニ金十圓
 - 二 賣與讓與又ハ共有 物品一類毎ニ金二圓
 - 三 書入契約 物品一類毎ニ金一圓

- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
- 一 新規並續川登録 商品一類毎ニ金二十四
 - 二 賣與讓與又ハ共有 一類毎ニ金十圓
- 第十四條 礦業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 試掘 金五十圓
 - 二 採掘 金百圓
 - 三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金二十五圓
 - 四 採掘増區及増減區ニ係ル訂正 金五十圓
 - 五 買受讓受 金五十圓
 - 六 採掘權書入又ハ試掘延期 金十五圓
 - 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
 - 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十圓
 - 九 廢棄 金五圓
- 第十五條 左ノ事項ニ付キ戶籍ニ登記スルトキハ届出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
- 一 左ニ列記スルモノ 金一圓
 - 身分變換
 - 復性
 - 改名
 - 家督相續
 - 相續人入籍
 - 廢戶主
 - 廢嫡

| | |
|---------------|------|
| 分家 | |
| 廢嫡者復立 | |
| 絶家再興 | |
| 離婚送籍 | |
| 相續人送籍 | |
| 私生子引受 | |
| 二 左ニ列記スルモノ | 金七十錢 |
| 養子女入籍 | |
| 結婚入籍 | |
| 相續人離縁送籍 | |
| 養子女離縁送籍 | |
| 轉籍 | |
| 私生子引渡 | |
| 戸内離婚 | |
| 庶子私生子ヲ嫡出トナスモノ | |
| 三 左ニ列記スルモノ | 金五十錢 |
| 戸籍訂正 | |
| 戸内結婚 | |

| | |
|------------|------|
| 縁女入籍 | |
| 結婚送籍 | |
| 縁女送籍 | |
| 養子女送籍 | |
| 四 左ニ列記スルモノ | 金三十錢 |
| 同家者復歸入籍 | |
| 養子女離縁復籍 | |
| 相續人離縁復籍 | |
| 離婚復籍 | |
| 縁女離縁復籍 | |
| 五 左ニ列記スルモノ | 金二十錢 |
| 出生 | |
| 失踪者ノ復歸 | |
| 失踪者所在不明 | |
| 六 左ニ列記スルモノ | 金十錢 |
| 携帶者入籍 | |
| 親族入籍 | |
| 附籍者入籍 | |

携帶者送籍

親族送籍

附籍者送籍

第十六條 國債證券ノ記名登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規記名

額面金額千分ノ二

二 左ニ列記スルモノ

額面金額千分ノ一

記名變更

枚數變更

記名除却

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 無資力ニシテ左ニ掲クル者及窮民ニシテ公ノ救助ヲ受クル者ハ戶籍ノ登録税ヲ免除ス

一 一定ノ職業ナク臨時日雇等ニ依リ生活スル者

二 十三年未満六十年以上ニシテ一定ノ職業ナキ者

三 婦女ニシテ一定ノ職ナキカ又ハ他人ニ雇使セラル、者

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重復スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

登録税法ハ左ノ如ク規定セラレタルニ依リ同月三十日大藏省令第六號ヲ以テ登録税法施行細則ヲ制定シ又大藏省訓令第五號ヲ以テ登録税免除取扱手續並ニ收税署市役所區役所町村役場戶長役場日本銀行等ニ於テ登録税法ニ依リ印紙ヲ貼用セル書類ヲ受理シタル場合ノ整理方及貼用印紙消印ノ件ヲ訓令セリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省令第六號 (明治二十九年三月三十日)

登録税法施行細則

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 登録税法第十九條ニ該當スル者ハ登録ニ關スル書類ニ其該當スル事項ヲ附記シ公署ニ差出スヘシ

第三條 貼用シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ其名下ノ印ヲ以テ消印スヘシ

大藏省訓令第六號 (明治二十九年三月三十日)

登録税法施行手續

第一條 公署ニ於テ登録税法第十九條ニ依リ登録税ヲ免除スヘキ者ノ書類ヲ受理シタルトキ税法第十九條第一項後段ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ救助人名簿ニ照シ其相違ナキヲ認メ

其前段ニ該當スル者ニ對シテハ其實際ヲ精査シ付記ノ事項相違ナキヲ認メ處理スヘシ

第二條 收稅署市役所區役所町村役場戶長役場若クハ日本銀行等ニ於テ登錄稅法ニ依リ印紙ヲ貼用セル書類ヲ受理シ上_司へ送_出スル_モノ_ヲ除_クシタルトキハ別ニ編綴セシメ置キ其貼用印紙ノ額面金額登錄稅法第二條乃至第十六條ノ各條毎ニ區別シ毎年度分集計ヲ爲シ四月末日迄ニ當省ニ報告スヘシ

第三條 官衙公署若クハ日本銀行ニ於テ印紙貼用シアル書類ヲ受理シタルトキハ其貼用印紙ニ黒肉ヲ以テ消印スヘシ又免稅ニ屬スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ヲ以テ免稅印ヲ押捺スヘシ

斯クテ登錄稅法ハ翌四月一日以降實施セラレタリシガ右稅法中戶籍ノ登錄ニ登錄稅ヲ課スルコトハ之ヲ經驗ニ徵シテ戶籍ノ不正確ヲ來タシ人事統理ノ基礎ヲ紊亂スルノ虞アルヲ認メタルヲ以テ翌明治三十年三月二十九日法律第三十一號ヲ以テ登錄稅法中戶籍登錄ニ關スル第十五條及第十九條ヲ削除セリ尋テ明治三十二年三月法律第六十號並ニ同月法律第八十三號ヲ以テ登錄稅法中改正ヲ加ヘタリ蓋シ同年法律第三十六號特許法同第三十七號意匠法同第三十八號商標法ノ制定ニ依リ特許意匠商標ノ登錄ニ關シテハ別ニ特許料意匠料商標料ヲ徵收スルコト、ナリタルヲ以テ其重複ヲ避ケサルヘカラサルノ必要ヲ見ルニ至リタルト民法商法不動産登記法其他之ニ關聯セル諸法律ノ實施又ハ改正セラレタル結果官簿ニ登錄スヘキ事項ニ増加又ハ異動ヲ生シタル爲メ登錄稅法ノ規定ヲシテ之ニ適應セシムルノ必要生シタルト同時ニ國家財政整理ノ爲メ明治三十二年度以降ニ於テ歲入ノ増加ヲ要スルモノアリタルトニ依ルナリ特ニ右ノ法律第八十三

號ニ於テ注目スヘキハ政府自己ノ爲メニスル登記又ハ公用ニ供スル不動産ノ登記ハ之ヲ免稅セラル點ナリトス改正法律左ノ如シ

法律第六十號 (明治三十二年三月三十日)

登錄稅法中左ノ通改正ス

第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 讓渡又ハ共有 每一件金十圓

三 質入 每一件金五圓

第十二條 意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 讓渡又ハ共有 物品一類毎ニ金二圓

一 質入 物品一類毎ニ金一圓

第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

讓渡又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓

附 則

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

法律第八十三號 (明治三十二年三月二十二日)

明治二十九年法律第二十七號登錄稅法中左ノ通改正ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

- 一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ七
- 二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ十五
- 三 遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ四十
- 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ二十五
- 五 從來保有セル所有權ノ保存 不動産價格 千分ノ二
- 六 共有物ノ分割 不動産價格 千分ノ五
- 七 永代ノ地上權ノ取得 不動産價格 千分ノ二十五
- 八 地上權永小作權ノ取得
 - 存續期間十年未満 不動産價格 千分ノ二
 - 存續期間二十年未満 不動産價格 千分ノ三
 - 存續期間三十年未満 不動産價格 千分ノ四
 - 存續期間三十年以上 不動産價格 千分ノ五
 - 存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ五
- 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス
- 九 賃借權ノ取得

- 存續期間十年未満 不動産價格 千分ノ一
- 存續期間十年以上 不動産價格 千分ノ二
- 存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一
- 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス
- 十 地役權ノ取引 要役地價格 千分ノ一
- 十一 華族世襲財產ノ創設 不動産價格 千分ノ二十
- 十二 先取特權ノ保存又ハ取得
 - 但シ債務金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
 - 債務金額又ハ不動産工事業費用換算金額 千分ノ六
- 十三 質權抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六
- 但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十四 競賣強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ六
- 但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十五 假差押假處分 債權金額 千分ノ四
- 但シ假差押假處分ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價

- 格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十六 抵當アル債權ノ差押
 - 但シ差押ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 十七 相續財産ノ分離
 - 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ六
 - 所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
- 十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復
 - 不動産每一箇 金二十錢
 - 不動産每一箇 金二十錢
 - 不動産每一箇 金二十錢
 - 不動産每一箇 金二十錢
- 十九 假登記
 - 不動産每一箇 金二十錢
- 二十 豫告登記
 - 不動産每一箇 金二十錢
- 二十一 附記登記
 - 不動産每一箇 金二十錢
- 二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消
 - 不動産每一箇 金十錢
- 第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
- 第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
 - 二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ六

- 三 遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十
- 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ十五
- 五 從來保有セル所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ一
- 六 賃借權ノ取得
 - 存續期間十年未満 船舶價格 千分ノ一
 - 存續期間十年以上 船舶價格 千分ノ二
 - 存續期間ノ定メナキモノ 船舶價格 千分ノ一
- 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス
- 七 質權抵當權ノ取得
 - 但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
 - 債權金額 千分ノ六
- 八 競賣ノ申立
 - 但シ競賣ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
 - 債權金額 千分ノ六
- 九 假差押、假處分
 - 但シ假差押、假處分ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
 - 債權金額 千分ノ四

十 抵當アル債權ノ差押
但シ差押ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
債權金額 千分ノ六

十一 登記ノ更正變更又ハ抹消
船舶每一箇 金十錢

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第四條 船籍ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録
每十噸 金五十錢

二 轉籍
每十噸 金十錢

三 除籍
每十噸 金五錢

四 登録ノ變更
船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録
地價 千分ノ二十

二 地價ノ設定
地價 千分ノ十

三 地價ノ修正
地價 千分ノ十

四 開墾
地價 千分ノ十五

五 歛下年期付與
地價 千分ノ十

六 地價据置年期付與
地價 千分ノ十

七 歛下年期ノ繼年期付與
地價 千分ノ十

八 新開免租ノ繼年期付與
地價 千分ノ十

九 低價年期ノ付與
地價 千分ノ一

十 地租條例第二十二條ノ修正
地價 千分ノ一

十一 地價ノ復舊
地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 商事會社其他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス

一 合名會社合資會社合名會社設立
財產ヲ目的トスル
出資ノ價格
千分ノ三

二 合名會社合資會社出資増加
財產ヲ目的トスル
増加出資ノ價格
千分ノ三

三 株式會社設立
拂込株金額
千分ノ四

四 株式會社資本増加
増資拂込株金額
千分ノ四

五 株式會社第二回以後ノ株金拂込
每回拂込株金額
千分ノ四

六 株式合資會社設立
拂込株金額及財產ヲ目的トスル
株金以外ノ出資ノ價格
千分ノ四

七 株式合資會社資本増加
増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル
株金以外ノ出資ノ價格
千分ノ四

- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
 毎回拂込株金額 千分ノ四
 - 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
 拂込株金額及財産目的ト
 スル株金以外ノ出資ノ價格
 千分ノ一
 - 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加
 増資拂込株金額及財産目的
 トスル株金以外ノ出資ノ價格
 千分ノ一
 - 十一 債券發行
 債權總金額 千分ノ一
 - 十二 支店設置
 毎一箇所 金十圓
 - 十三 本店又ハ支店ノ移轉
 毎一件 金五圓
 - 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 毎一件 金五圓
 - 十五 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止
 毎一件 金五圓
 - 十六 但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
 登記ノ更正又ハ抹消 毎一件 金五圓
 - 十七 解散
 毎一件 金三圓
 - 十八 清算人ノ選任解任又ハ變更
 毎一件 金一圓
 - 十九 清算ノ結了
 毎一件 金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録
 稅ヲ納ムヘシ

- 一 法人ノ設立民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノ、新ニ受クル登記トモ
 毎一件 金五圓
 - 二 法人設立後ノ事務所設置
 毎一件 金三圓
 - 三 事務所ノ移轉
 毎一件 金二圓
 - 四 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止
 毎一件 金一圓
 - 五 登記ノ更正又ハ抹消
 毎一件 金一圓
 - 六 解散
 毎一件 金五十錢
 - 七 清算人ノ選任解任又ハ變更
 毎一件 金五十錢
 - 八 清算ノ結了
 毎一件 金五十錢
- 主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金五十
 錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 商號ノ新設又ハ取得
 毎一件 金五圓
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 毎一件 金五圓
 - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
 毎一件 金五圓
 - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記
 毎一件 金二圓
 - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
 毎一件 金二圓

- 六 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止 每一件 金一圓
- 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第八條中「假免許獸醫 金三圓」ノ次ニ「假免許蹄鐵工 金一圓」ヲ追加ス
- 第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録
 - 甲種船長 金十五圓
 - 甲種一等運轉士 金十圓
 - 甲種二等運轉士 金六圓
 - 乙種船長 金十圓
 - 乙種一等運轉士 金四圓
 - 乙種二等運轉士 金三圓
 - 丙種船長 金六圓
 - 丙種運轉士 金二圓
 - 機關長 金十五圓
 - 一等機關士 金十圓
 - 二等機關士 金六圓
 - 三等機關士 金三圓

水先人

金二十四

二 登録事項ノ變更

每一件 金五十錢

第十條

著作權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 文藝、學術、美術ノ著作物 每一種一回 金十圓
 - 但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク
- 一 新聞紙及定期刊行物 每一號 金五十錢
- 一 演劇脚本 每一種一回 金五十錢
- 一 寫眞 每一版 金五圓
- 一 著作權ノ讓渡又ハ質入 每一件 金五圓
- 一 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録 每一件 金五圓
- 第十四條 鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 試掘 金七十五圓
 - 二 探掘 金百五十圓
 - 三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金三十圓
 - 四 探掘増區及増減區ニ係ル訂正 金七十五圓
 - 五 買受讓受 金七十五圓
 - 六 探掘權書入又ハ試掘延期 金二十圓

- 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
- 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十五圓
- 九 廢業 金五圓

第十六條 國債ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 債權金額 千分ノ二
- 二 登録變更 債權金額 千分ノ一
- 三 登録除却 債權金額 千分ノ一

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
- 二 公立ノ學校、病院及養育院ノ所用ニ係ル不動産ノ登記
- 三 公園、社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記
- 四 明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第四百十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ
 二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其平均ヲ以テ之ヲ定ム
 前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス
 官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

此法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作權法施行ノ日ヨリ施行ス
 尋テ同年五月十八日勅令第二百五號ヲ以テ登録稅法施行規則ヲ制定シ同月二十日大藏省令第二
 十一號ヲ以テ明治二十九年大藏省令第六號登録稅法施行細則及從來登録稅法ノ施行ニ關シ北海
 道廳府縣ニ於テ發シタル命令ハ登録稅法施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シタリ其施行規則ノ全
 文ハ左ノ如シ

勅令第二百五號 (明治三十二年五月十八日)

登録稅法施行規則

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録稅ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二條 登録稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録稅ヲ納ム
 ヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其官廳又ハ公署又ハ登録囑
 託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ
 通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ
- 第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス
 又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第六條 登録稅法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓
 以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

尙ホ同月二十日大藏省訓令第三十八號ヲ以テ該則第四條所定ノ土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セス稅務署ノ通知ニ依リ印紙ヲ提出スル者アルトキニ於ケル取扱方ヲ定メ及ヒ同令第三十九號ヲ以テ登録稅額報告ノ件ヲ訓示セリ其條項ハ左ノ如シ

大藏省訓令第三十八號 (明治三十二年五月二十日)

- 登録稅法施行規則第四條ニ依リ印紙ヲ提出シタル者アルトキハ左ノ通取扱フベシ
- 一 稅務署ハ印紙ノ提出者ニ對シ其領收書ヲ交付スヘシ但提出者ノ面前ニ於テ以下三項ノ手續ヲ爲シタルトキハ領收書ノ交付ヲ要セス
 - 二 土地ノ異動ニ關シ土地所有者ヨリ願出又ハ届出アリタルニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ土地ノ異動ニ關スル願書又ハ届書ニ其印紙ヲ貼付シ置クヘシ
 - 三 土地ノ異動ニ關シ官廳ヨリ通知アリタルニ依リ土地臺帳ノ登録ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ通知書ニ其ノ印紙ヲ貼付シ置クヘシ
 - 四 前二項ヲ除ク外ノ場合ニ於テハ土地所有者ノ住所氏名登録ヲ要スル土地ノ所在地番地目地價及ヒ登録稅法第五條中該當事項ヲ記シタル調書ヲ作り之ニ其ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 - 五 貼付シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケ黒肉ヲ用ヒテ消印ヲ捺捺スヘシ
 - 六 二項乃至四項ニ依リ印紙ヲ貼付シタル書類ハ少ナクトモ毎月一回上司ニ於テ檢閲シ貼付印紙及ヒ消印ノ有無當否ヲ調査スヘシ
- 大藏省訓令第三十九號 (明治三十二年五月二十日)
- 登録稅法第五條及第六條ノ登録額ハ各條各號毎ニ印紙ト現金收入トニ區分シ毎年度分ノ集計

ヲ爲シ翌年四月三十日マテニ報告スヘシ

明治二十九年大藏省訓令第五號ハ自今之ヲ廢止ス

既定ノ登録稅法中登録稅ヲ免除スヘキモノ、範圍ニ於テ廣狹其當ヲ得サルモノアリシカ故ニ明治三十三年三月九日法律第四十四號ヲ以テ登録稅法第十九條第二號ヲ改メ「府縣郡市町村其他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記」ト爲シ同條第三號中「公園」ノ二字ヲ削除セリ而シテ北海道屯田兵ニ給與シタル土地ニ對シ登録稅ヲ免除スルハ尤モ必要ナルカ故ニ明治三十四年四月九日法律第二十五號ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

法律第二十五號 (明治三十四年四月九日)

屯田兵土地給與規則ニ依リ屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ニ付給與ノ日ヨリ六箇月以内ニ登記ヲ請求シ又ハ土地臺帳ニ登録スルトキハ其登録稅ヲ免除ス本法施行前ニ給與ヲ受ケタル土地ニ付本法施行後六箇月以内ニ登記ヲ請求シ又ハ土地臺帳ニ登録スルトキ亦同シ

附 則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年四月法律第二十六號ヲ以テ登録稅法中改正ヲ加フ蓋シ同法第二條第一項第二十二號及第三條第一項第十一號ハ不動産又ハ船舶一箇毎ニ其稅額ヲ定ムルヲ以テ時ニ負擔ノ稍重キニ過クルノ場合ヲ生スルコトナシトセス依テ最高限ヲ定メ稅額ヲシテ之ヨリ上ルコトナカラシムルノ必要アルニ由ル改正法律ノ公文左ノ如シ

法律第二十六號 (明治三十四年四月十二日)

登録税法中左ノ通改正ス

第二條第一項第二十一號及第二十二號ヲ左ノ如ク改ム

二十一 附記登記 不動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ付ニ税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

二十二 登記ノ更正變更又ハ抹消 不動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第三條第一項第十一號ヲ左ノ如ク改ム

十一 請求又ハ申立ニ依リ抹消セラレタル登記ノ回復 船舶每一箇 金二十錢

同條第一項第十一號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

十二 假登記 船舶每一箇 金二十錢

十三 豫告登記 船舶每一箇 金二十錢

十四 附記登記 船舶每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十五 登記ノ更正變更又ハ抹消 船舶每一箇 金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

官有地ヲ開拓シテ民有地ニ歸シ土地臺帳ニ登録ヲ請フ者ニハ新規登録トシテ登録税ヲ課スルカ故ニ其徴下年期付與ニ付テハ新開免租年期付與ト同シク登録税ヲ課セサルモノナルモ明文上明

瞭ヲ缺クモノアリ又明治三十四年法律第三十號ヲ以テ徴下年期新開免租年期地價据置年期延長ノ許可ヲ規定シ地租條例第十八條ヲ廢止シタルカ爲メ改正ヲ加フルノ必要アルヲ以テ明治三十五年二月法律第八號ヲ以テ登録税法中左ノ如ク改正ヲ加ヘタリ

法律第八號 (明治三十五年十二月二十二日)

登録税法中左ノ通改正ス

第五條中第五號第七號及第八號ヲ左ノ如ク改ム

五 開墾徴下年期附與 地價千分ノ十

七 新開免租年期延長 同 千分ノ十

八 徴下年期地價据置年期ノ延長 同 千分ノ十

而シテ登録税ハ其徵稅方法トシテ原則トシテ印紙貼用ノ法ニ依ルヲ以テ各年度ニ於ケル本稅收入額ヲ知ラントセハ課稅物件タル登録行爲ノ種類及數額ヲ調査シ之ニ對スル課稅額ヲ算出スルノ外ナシ故ニ此方法ニ依リ計上セル金額ヲ示セハ左ノ如シ

登録稅收入額

| 種 類 | 明治二十 九年度 | 同三十年度 | 同三十一年度 | 同三十二年度 | 同三十三年度 | 同三十四年度 | 同三十五年度 |
|----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 第二條 不動産 | 四、一五二、六一三、六八〇 | 四、四三四、三九三、八〇〇 | 四、九七五、五四二、六三〇 | 五、九九五、四八九、〇〇〇 | 六、八四三、三三四、〇〇〇 | 四、四八四、八四三、〇〇〇 | 七、三七二、三三三、〇〇〇 |
| 第三條 船 舶 | 七、九四〇、〇五〇 | 三、六七四、三三〇 | 二、八五七、六三〇 | 六、四四八、〇〇〇 | 六、四四三、九〇〇 | 四、八一六、〇〇〇 | 四、〇〇二、〇〇〇 |
| 第四條 船 籍 | 九七七、九五〇 | 三、七四二、〇〇〇 | 一、〇三九、四五〇 | 八、三二七、〇〇〇 | 七、四六九、〇〇〇 | 三、四三三、〇〇〇 | 四、〇〇九、〇〇〇 |
| 第五條 土地臺帳 | 六、六四六、四九〇 | 一、二八四、三三、五七〇 | 一、四六、二一六、六四〇 | 六、一一三、〇〇〇 | 四、八、三三三、〇〇〇 | 七、八四〇、八八〇〇〇 | 四、〇、二〇四、〇〇〇 |

| | | | | | | | | |
|-------|---------------|------------------|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 第六條 | 商會社 其 他 | 三六、五八、三三〇 | 四一、七三、八三〇 | 三三、五九、三六〇 | 四八、五三、七三〇 | 五三、二二、〇〇〇 | 四〇、二九、〇〇〇 | 四〇、二九、〇〇〇 |
| 第六條ノ二 | 商號ノ新設 取得其他 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 一六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 |
| 第七條 | 辯護士 | 一、三二〇、〇〇〇 | 一、三三三、〇〇〇 | 三、九五、〇〇〇 | 三、〇八、五〇〇 | 二、七、〇〇〇 | 二、四、〇〇〇 | 三、三、〇〇〇 |
| 第八條 | 醫師藥劑 師獸醫等 | 一八、四八、〇〇〇 | 二六、五九、七〇〇 | 三、〇一、〇〇〇 | 二九、七三、六〇〇 | 三、〇、八六、〇〇〇 | 三、八、八四、〇〇〇 | 三、七、〇、二九、〇〇〇 |
| 第九條 | 海員 | 六、三九、六〇〇 | 一〇、七八、九〇〇 | 五、八一、〇〇〇 | 三、九、二六、〇〇〇 | 四、六、〇一、〇〇〇 | 六、二、八八、〇〇〇 | 五、三、一六、〇〇〇 |
| 第十條 | 著作權 | 七、八七一、〇〇〇 | 八、五二六、〇〇〇 | 九、二一八、五〇〇 | 六、七、〇三、〇〇〇 | 五、五、〇一、〇〇〇 | 五、八、七三、〇〇〇 | 四、六、七三、〇〇〇 |
| 第十一條 | 特許 | 五、九〇〇、〇〇〇 | 九、〇、四、五、〇〇〇 | 一、三、〇、〇、〇〇〇 | 八、七、五、〇、〇〇〇 | 一、三、三、五、〇〇〇 | 一、三、八、〇、〇〇〇 | 一、五、六、〇、〇〇〇 |
| 第十二條 | 意匠 | 五、五九、〇〇〇 | 四、一、二、〇〇〇 | 四、〇、〇〇〇 | 一、四、〇、〇〇〇 | 四、〇、〇〇〇 | 一、六、〇〇〇 | 三、三、〇〇〇 |
| 第十三條 | 商標 | 三、三、〇、〇〇〇 | 四、六、七、七、〇〇〇 | 三、三、一、八、〇〇〇 | 三、〇、〇、〇、〇〇〇 | 四、六、一、〇、〇〇〇 | 一、七、一、〇、〇〇〇 | 三、三、〇、〇、〇〇〇 |
| 第十四條 | 礦業 | 二、七、八、四、〇〇〇 | 三、八、六、〇、四、〇〇〇 | 二、七、七、七、七、〇〇〇 | 四、八、一、六、一、〇、〇〇〇 | 五、九、八、一、六、五、〇〇〇 | 四、一、一、〇、四、〇、〇〇〇 | 四、二、六、七、七、五、〇〇〇 |
| 第十五條 | 戶籍 | 八、七、五、三、九、六、〇〇〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 第十六條 | 國債 | 一、七、一、九、五、八、四、〇〇 | 二、八、九、七、一、四、〇〇 | 一、五、一、七、〇、四、五、〇〇 | 一、一、七、九、九、〇、〇〇〇 | 八、〇、〇、〇、〇、〇〇〇 | 七、五、七、〇、〇、〇、〇〇〇 | 七、〇、九、五、〇、〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 五八、七、四、七、〇、〇、〇〇 | 五、五、四、〇、四、〇、三、四、〇〇 | 五、八、七、四、七、六、五、三、〇〇 | 七、一、九、六、七、四、七、〇〇〇 | 八、一、六、六、五、七、五、〇〇〇 | 七、九、九、九、〇、〇、〇、〇〇 | 八、三、六、三、三、九、〇、〇〇〇 |

(備考)

登録稅ハ印紙收入ニ屬スルヲ以テ毎年度收入決算額ヲ示ス能ハサルヲ以テ各年度ニ於ケル各種登録件數ニ關スル課稅額ヲ示ス

第十三節 印紙稅

第一款 印紙稅ノ第一期

印紙稅ハ古來ヨリ本邦ニ行ハレタル稅目ニアラスシテ明治六年歐米諸邦ノ制ニ倣ヒ創設シタルモノナリ願フニ舊幕時代ヨリ明治初年ニ至ルマテ本邦ニ行ハレタル租稅ハ主トシテ農民ノ負擔ニ歸シ商工業者等社會全般ニ賦課スルモノハ甚々稀ナリシト雖モ時世ノ進運ニ伴ヒ獨リ農民ノノミ租稅ヲ負擔セシムルノ理由ナキヲ以テ漸次社會各種ノ階級ニ對シテ均一ノ負擔ヲ課スルノ主旨ニ基キ民間金銀取引地面賣買商法約定證文等ニ印紙稅ヲ賦課スルコト、ナシ明治六年二月十七日太政官布告第五十六號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ヲ制定セリ是レ實ニ本邦印紙稅法ノ起源ナリ其布告ノ全文ハ左ノ如シ

布告第五十六號 (明治六年三月十七日)

金子受取金銀貸借地所賣買質入書入爲替受取諸約定等凡ソ人民互ニ諸證文手形書附類ヲ以テ後日ノ證據ト可致品ニ付テハ自今別紙規則ノ通相心得各其書面ニ印紙ヲ貼シ取引可致依テハ本年六月一日ヨリ以後ノ證書ニ右印紙無之分ハ後日訴出候トモ取揚不相成候事

但印紙ハ大藏省ヨリ可相渡候條各府縣管下適宜ノ場ニ於テ爲賣捌可申事

(別紙)

一 今度金子受取金銀貸借ヲ始本年六月一日ヨリ證書相用候節ハ印紙ヲ貼シ取引可致旨被仰出候ニ付差向別紙員數ノ通印紙相渡候條於管下適宜ノ場所へ賣捌所相立無差支様可致

注意事 尤モ一町一軒宛
モ有之可然事

一 賣捌所ノ儀ハ人民身元體ノ者ニ候ハ、誰彼ヲ不論望次第差許不苦尤公然戶外ニ印紙賣捌所ノ看板ヲ掲ケシムヘキ事

但免許ノ上看板ヲ掲ケ候者ノ外一切印紙賣捌不相成事

一 印紙ノ差等左ノ六種ニ存之候條各其定價ヲ以テ爲賣捌可申事

| | | |
|-------|----|------|
| 淡黑色印紙 | 定價 | 一錢 |
| 橙黄色 | 同 | 五錢 |
| 紅色 | 同 | 十錢 |
| 黄色 | 同 | 二十五錢 |
| 綠色 | 同 | 五十錢 |
| 青色 | 同 | 一圓 |

一 印紙定價取極置候得共賣捌候者ヘハ定價四分引即チ定價百圓ナレハ九十六圓ナリノ代價ヲ以テ可相渡事但後金上納不苦候事

一 賣捌所ニ於テハ印紙買取候人名年月日附明細相記シ置候様堅ク可申付事

一 印紙ヲ用ヒサル約定證書ノ類並受取書ノ外十圓以下ノ證書類ニ相用ヒ候界紙ノ分ハ各府縣ニ於テ其土地有合ノ生紙美濃紙大耐久ノモノ適宜撰用シ廳中ニ於テ雛形ノ如ク木板彫刻イタシ印紙賣捌所ニ於テ爲賣捌可申事

一 界紙ハ元代價摺工等ノ總高ニ一割ヲ加ヘ即チ定價百圓ナレハ百十圓トスレ定價トシ賣捌候者ヘハ右一割ノ

四分引即定價百十圓ナラハ百六圓トスヲ以可拂渡事

一 界紙元代及其一割ノ四分賣捌人ノ手數料ヲ引殘リ六分即定價百十圓ナレハ六圓ナリハ管轄廳ヘ收入シ一ケ年分取東大藏省ヘ可相納事

(界紙雛形略)

受取諸證文印紙貼用心得方規則

第一條 自今金子受取其外諸證文手形等ニ張附候印紙御發行ノ儀ハ民間ノ信義ヲ益堅固ナラシメントノ御注意ニテ都テ受取證文等ハ後日ノ證據トシテ取置モノニ候得ハ最初取引ノ節能々後來ヲ慮リ苟モ粗略ノ事アルヘカラサル筈ニ候處往々最初ノ粗漏手違等ヨリ遂ニハ公ノ裁判ヲモ願フ事アルニ至ル者アリ交際上ノ信義ヲ失ヒ公裁ヲ煩ハシ且一身ニ於テモ其罪ヲ得ル等容易ナラサル場合ニ立到候テハ不相濟事ナレハ最初ヨリ能ク其信義ヲ固フシ其處置ヲ粗略ニセサルノ證トシテ必ス一々印紙ヲ貼用シテ取引致スヘシ抑此印紙ヲ貼用スル時ハ双方相對而已ニテ取極メシ事ト雖モ公ノ印信ヲ表記シテ其約定ノ堅キコトヲ證スル意ト會得スヘキ事

第二條 印紙ヲ貼スヘキ證書類分テ二類トス

第一類ハ金高ニ拘ハラヌ都テ一様ノ印紙ヲ貼スヘキ者假令ハ

金子其外諸受取 諸品賣買受
取等モ同斷

諸會社入金手形

仲間割合證文
跡式讓狀
荷物送狀

右何レモ金高ニ拘ハラヌ十圓以上ハ都テ一錢印紙ヲ貼用スヘキ事
第二類ハ金高ニ應シテ次第ニ印紙ヲ増スヘキモノ假令ハ

借用金證文

田地屋敷建家賣渡證文

質地證文

流地證文

爲替手形並荷爲替手形

質入借用證文

請負手形

金子預リ證文

諸切手類其外

右何レモ十圓ニ充サル分ハ印紙ニ及ハヌ十圓以上ヨリハ其金高ニ應シテ悉皆印紙ヲ貼用可
致事

第三條 印紙ハ書面ヲ渡ス方ニテ貼用可致事

凡金高十圓以上ノ諸受取諸證文等印紙無之儘受取置候モノハ後日如何體ノ故障難題差起候

共一切取揚無之事

但十圓以下ノ分ハ此限リニアラス

第四條 印紙ハ定價ノ通り所在賣捌所ニ於テ爲賣捌候ニ付印紙ヲ用候者ハ最寄賣捌所ニテ相
求メ定價代金相拂フヘキ事

但官許賣捌所ニアラスシテ印紙買取候ハ可爲曲事事

定價

| | |
|---------|--------|
| 淡黑色印紙一枚 | 定價一錢 |
| 橙黄色印紙一枚 | 同 五錢 |
| 紅色印紙一枚 | 同 十錢 |
| 黄色印紙一枚 | 同 二十五錢 |
| 綠色印紙一枚 | 同 五十錢 |
| 青色印紙一枚 | 同 一圓 |

第五條 書面金高十圓以下ノ分ハ受取ヲ除クノ外都テ界紙ヲ用フヘシ界紙ハ印紙賣捌所ニ於
テ爲賣捌候品ニ限リ候條右界紙ニアラサル分ハ後日故障差起候トモ取揚無之事
但受取書ハ界紙ニ不及事

凡約定證書類金銀ニ拘ハラサル分假令ハ養子請狀奉公人請狀ノ類ハ皆界紙ヲ用フヘシ界紙
ニアラサル分ハ前同様取揚無之事

第六條 第一類ノ諸受取書會社入金手形等ノ外即第二類ノ證書類印紙貼付ノ多寡左ノ通ニ候

事

書面ノ金高十圓ニ至ラサルマテハ印紙ヲ用フルニ及ハスノ界紙ヲ用

書面ニ充サレテハ二 淡黑色印紙一枚 即一錢

書面ニ充サルマテハ三 淡黑色印紙二枚 即二錢

同三十圓以上 同 三枚 即三錢

同四十圓以上 同 四枚 即四錢

同五十圓以上 橙黃色印紙一枚 即五錢

同六十圓以上 淡黑色印紙一枚 即六錢

同七十圓以上 淡黃色印紙一枚 即七錢

以上右ニ準シ十圓ヲ加フル毎ニ一錢宛ヲ増スヘシ即百圓ヨリ百九圓九十九錢迄ハ十錢紅

色印紙一枚千圓ヨリ千九圓九十九錢迄ハ一圓青色印紙一枚ニ候事

第七條 印紙貼用ノ節ハ必證書受取人ノ目前ニ於テ双方其印紙ヲ檢査ノ上貼用可致事

其法左ノ如シ

(雜形書)

第八條 第一類受取證書類ニ一錢ノ印紙ヲ貼セス相渡シ候者ハ爲過料金一圓可爲差出事

第二類請證文等ニ印紙ヲ貼セス相渡シ候者ハ爲過料書面金高ノ十分一可爲差出事

十圓以上ノ高ヲ曲ケテ十圓以下ノ高ニ作爲シ印紙ヲ貼用セスシテ第二類ノ證書等ヲ出スモ

ノ致露顯ニオイテハ爲過料正當金高ノ半高可爲差出事

官許賣捌所ノ外ニオイテ印紙買取者相顯ハル、ニオイテハ爲過料印紙代價ノ五百倍爲差出

密賣イタシ候者ハ印紙代價ノ千倍爲差出事

一旦印紙買取候後不用ニ付返賣イタシ度者ハ元買取候賣捌所ヘ返却スヘシ賣捌所ニ於テ元

賣渡候年月日附相糺シ之ヲ定價ノ四分引即チ定價十圓トスレバ九圓六錢トスヲ以テ買揚クヘシ尤モ一枚二枚

ニ切放チ候分ハ買揚不相成數枚連續イタシ候分ニ限リ候事

印紙高

三府五港ノ分一箇月員數大概

淡黑色印紙 三十萬枚

此金三千圓 五萬枚

橙黃色印紙 此金二千五百圓 二萬五千枚

紅色印紙 此金二千五百圓 八千枚

黃色印紙 此金二千圓 四千枚

綠色印紙 此金二千圓 四千枚

青色印紙 此金二千圓 千五百枚

此金千五百圓

ノ印紙三十八萬八千五百枚

此金一萬三千五百圓

縣一箇月渡高

府ノ半高

差向三箇月分宛相渡ス

(印紙額形等)

尋テ同月二十四日大藏省達第二十一號ヲ以テ右規則ニ基キ貼用スル印紙ヲ證券印紙ト稱スヘキ旨ヲ達シ併セテ賣捌所印紙請取方ヲ定メ又三月二十三日同達第三十九號ヲ以テ印紙賣捌方ヲ達セリ斯クテ證券印紙ニ關スル法規ハ略備ハルニ至リシカ更ニ同月三十一日ニ至リテ大藏省達第四十九號ヲ以テ賣捌人手數料ヲ改メテ前金上納印紙引換フ者ヘハ代價十分ノ一賣揚跡金上納ノ者ヘハ從前通代價百分ノ四ヲ下附スルコト、シタルハ郵便切手賣捌手數料ト其權衡ヲ保持セシメントスルノ趣旨ニ出ツルモノナリ次テ五月十日ニ至リ布告第五百五十五號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ニ増補シ以テ大ニ其完備ヲ計レリ而シテ此等増補ノ規定ハ處罰ト稅則施行上ノ諸細目トヨリナレルカ特ニ注目スヘキハ此際印紙ニ代ハルヘキ證印法ヲ採用セラレタルコト是レナリ而シテ此増補規定ノ全文ハ左ノ如シ

布告第五百五十五號 (明治六年五月十日)

本年第五十六號布告受取諸證文印紙貼用心得方規則第九條以下左ノ通増補候條此旨相達候事

受取諸證文印紙貼用心得方規則增加

第九條

一 印紙ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ者ト知テ是ヲ賣買致ス者ハ都テ偽造官印律ニ照シ處分可致事

一 一旦相用消印セシ印紙ヲ再用セントシテ之ヲ剝取消印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタル者ト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ其罪顯ハル、ニ於テハ前同様ノ罪科可申付事

一 第二十五條ニ記載セル帳簿類ヘ押用スル印章ヲ模擬シ又ハ之ヲ贗造シテ他人ヲ欺ク者ハ是レ亦前同様ノ罪科可申付事

一 總テ此規則ニ從ヒ貼用ノ印紙ヲ消印セサルカ又ハ相當ノ印紙ヲ貼用セサル諸證文ニ證人ニ相立又ハ奧書等致候者ハ二十五圓以下ノ罰金可申付事

第十條

一 凡ソ諸受取證書ニ印紙ヲ貼用スル者ハ孰レモ第七條ニアル雛形ノ通り印紙貼用ノ上ヘ證書渡主ノ實印ヲ以テ調印致シ貼用ノ印紙ヲ消印可致事

第十一條

一 第二類金高ニ應シテ印紙ヲ增加スル分ハ一口ノ金高一萬圓ニハ十四ノ印紙ヲ貼用可致尤右以上ノ金高ハ幾許ノ高ニ相成候共十四ノ印紙相用其餘增加ニ不及候事

第十二條

一 正米貸借證文正物ヲ以テ其返辨ヲナシ且利米無之分ハ米五石以上第一類ノ通り一錢印紙ヲ可貼用若利米ノ約アルハ米五石ニ付一錢ヲ貼用シ其餘五石ヲ加フル毎ニ一錢ヲ増加シ五千石十圓ニ止リ其餘ハ何程ノ高ニ相成候共印紙増加ニ不及候事

一 正麥其他雜穀類正米物貸借證文前同様ノ節利息無之分ハ十石以上一錢印紙貼用スヘシ若利息ノ約アルハ麥雜穀共十石ニ付一錢印紙ヲ貼用シ其餘十石ヲ加フル毎ニ一錢ヲ増加シ一萬石十圓ニ止リ其餘前同様ノ事

第十三條

一 米穀正米貸借ハ前條ノ通ニ候得共管ニ書面上ニテ其賣買ノ約ヲ定候歟或ハ金銀融通ノ爲メ質物ニ致シ候歟又ハ米切手等ヲ以テ相場合ニ依リ代金ニテ返辨可致ノ約有之類其他總テ商賣上ニ關シ金高ヲ以テ取極候分ハ第二條ニ掲載セル借用金荷爲替質入借用證文等ニ準シ可申事

但金銀ニ關シ候分ト雖モ無利息ノ分ハ第一類ニ準シ可申事

第十四條

一 第二類諸切手ノ内賣酒切手ハ一升ヨリ一斗ニ充タサル迄ハ都テ一錢印紙ヲ貼用シ一斗ヨリ二斗ニ充タサル迄ハ二錢右以上ハ之ニ準シ一石ニ十錢ニ止リ其餘增高印紙増加ニ不及候事

一 賣酒切手ノ外飲食ノ諸切手ハ代金十圓迄ハ一錢印紙ヲ用ヒ右以上ハ總テ二錢ノ印紙ヲ可相用事

第十五條

一 第三條ニ掲載セル諸證文類印紙無之分ハ後日如何體ノ故障難題差起候共一切取揚無之定規ニ付當初證文取交ノ節屹底注意可致ハ勿論ニ候へ共自然無據事實ニテ印紙貼用無之其儘出訴ニ及候者ハ各所ノ司法裁判所又ハ其地方官ノ見込ニテ其情實篤ト取糺ノ上取揚候儀モ可有之候へ共其節ハ右書類ノ正不正ニ關セス無印紙ノ罰金トシテ第八條ニ掲載ノ通書面金高ノ十分ノ一爲科料可申付事

第十六條

一 諸證書取換ノ節印紙貼用難致船中旅行中又ハ印紙取カ場合ノ砌ハ證書取換後六ケ月中ニ貼用致候儀不苦候事

但六ケ月中ニ萬一出訴ニ及フ時ハ必印紙貼用ノ上可願立事

一 右六ケ月中貼用ノ節モ定規ニテハ證書相渡候方ニテ印紙へ消印可致筈ニ候へ共其後双方相隔リ渡主ノ消印難相成ト見込候時ハ當初證書交換ノ節渡主ヨリ其段證書面へ認入自印ヲ以テ相斷置候へハ證書渡主ノ消印ニコレナク請取主ノ消印ニテモ不苦候事

第十七條

一 第八條ニ掲載スル官許賣捌所ノ外ニ於テ印紙買取者相願ハル、ニ於テハ爲科料云々トハ必竟印紙ヲ發行スルハ政府ノ特權ニテ課稅ノ印紙ニ付キ賣捌所ノ外賣買ヲ禁スル儀ハ賸造ヲ防禦スルノ道ニ候條若シ甲賣捌所ニ於テ買取用意ノ爲メ貯置候分更ニ乙へ原價ニテ流用讓渡候分ハ不苦候へ共歩合ヲ貪リ又受賣買ヲ致候者ハ都テ八條ノ通科料可取立候事

第十八條

一 第二條ニ掲載スル諸會社入金手形トハ諸會社へ預ケ金ノ類ニテ無利息ノ者ハ第一類ニ屬スヘシ若シ多少ノ利息ヲ取受候者ハ第二類ニ準シ金高ニ應シ印紙ヲ増加貼用可致候事
但銀行又ハ諸會社ノ株手形ハ第一類ニ可準事

第十九條

一 同條ニ掲載スル爲替手形並荷爲替手形ハ金高ニ應シ印紙増加ノ分ニ候得共同會社同店等出張先々ヨリ互ニ送致スル如キ他ニ關係セサル爲替類ハ都テ印紙貼用ニ不及候事

第二十條

一 印紙貼用アル證文類ヲ引當トシテ更ニ借用金等致シ候節ハ右引當證文ノ方へハ別段印紙貼用ニ不及候事
但本文同様ノ事ニ付テハ請取書へモ印紙貼用ニ不及候事

第二十一條

一 諸證文中外國貨幣等ヲ以テ記載有之分ハ御國通用ノ貨幣ニ計算致シ其金高ニ應シ候印紙貼用可致候事
但證文別通ニ相成候ハ、其證文面金高相當ノ印紙ニ證文毎ニ貼用可致候事

第二十二條

一 諸物品賣渡證文等ノ内若干ノ金高ニテ一時受取渡不致幾度ニモ逐次償入スル等印紙ノ儀ハ總金高ニ應シ候員數貼用可致候事
但證文別通ニ相成候ハ、其證文面金高相當ノ印紙ニ證文毎ニ貼用可致候事

第二十三條

一 諸府縣廳ニ於テ資金等其他銀行或ハ爲替組へ相渡候請取證書ニハ印紙貼用ニ不及右銀行

或ハ爲替組ヨリ東京銀行へ爲替組イタシ候節府縣廳又ハ其筋ノ役所ヨリ爲替貸等受用致シ候者ハ其爲替手形へハ第二類ノ印紙貼用可致候事

第二十四條

一 金銀其他日用取引ニ相用候通帳判取帳ノ類ハ一々印紙貼用ニ不及第二十五條ニ掲載セル雛形書式ノ通相認メ租稅寮又ハ其管轄廳へ願出候へハ其種類ニ應シテ第二十五條ノ雛形通收稅濟ノ證印ヲ簿帳へ押印致シ可下渡候事
但其管轄廳へ懸隔ノ場所居住ノ者ハ願書へ戶長添書並印稅割合ノ通相添郵便又ハ其他便宜差立方可取計尤モ印稅上納ノ儀ハ通用貨幣ニテ送致等不都合ノ節ハ證券印紙ヲ以テ代用上納候トモ不苦候事

第二十五條

一 印紙稅第一類ニ屬セル内一時借ト稱シ通帳ヲ以テ相互ニ時々無利息貸借授受ノ類或ハ通帳ヲ以テ無利息預金致シ右金高ノ内ヲ何ケ度ニモ請取候類又ハ判取帳ト唱へ小口ノ金子ヲ何口モ一帳ノ内へ日々附込授受イタシ候類ハ其印稅左ノ通可相心得候事

附込合金高百圓以上
ニ充タサル迄ハ
同斷金高百圓以上
同斷金高千圓以上
同斷金高千圓以上
同斷金高五千圓以上
同斷金高五千圓以上
何萬圓ニ至ルトモ

證印願ニ不及候事
印稅一錢
同 五錢
同 十錢

但金高五千圓以上何程金高増加候共印稅十錢ニ止マリ候事

第二十四條

一 印紙稅第二類ニ屬セル内通帳等ヲ以テ貸借預金其他共授受致候際利息附ノ類ハ其印稅左ノ通可相心得候事

附込合金高百圓ニ充タサル迄ハ
同斷金高百圓以上千圓ニ充タサル迄ハ
同斷金高千圓以上二千圓ニ充タサル迄ハ

證印願出ニ不及候事

印稅五十錢

同 一 四

以上右ニ準シ千圓ヲ加フル毎ニ五十錢ヲ増加シ印稅高十圓ニ至テ止リ其餘金高何程増加候共増印稅無之事

第二十五條

一 證印願書式並ニ帳簿へ證印スル雜形左ノ通

(雜形略ス)

而シテ前顯ノ規則ニ依リテ見ルトキハ印紙ハ府縣廳ヨリ直接ニ需要者ニ賣下クルコトハ絶テ之ナキ者ノ如シト雖モ巨額ノ需要者ニアリテハ一々賣捌所ニ就テ購求スルハ甚ダ不便トスル所ナリ仍テ同月十二日同第七十九號ヲ以テ證券印紙賣捌人ノ外金高十圓以上即金上納ニテ買受クル者ニハ府縣廳ヨリ直ニ賣捌人へ賣下クルト同一ノ割合ニテ賣下クル旨ヲ規定セリ而シテ同月三十日更ニ租稅寮達第十八號ヲ以テ自今東京府下ノ分ハ金高百圓以上即金上納ノ分ニ限り之ヲ許シ其他ノ府縣ニ於テモ土地ノ景況ニヨリテ最少限ヲ十圓以上百圓迄ノ内適宜ニ定ムヘキ旨ヲ達示セリ尙右規則中印紙ニ代ルヘキ證印ハ頗ル重大事ナルヲ以テ同月十九日租稅寮達第十五號ヲ

以テ府縣廳ハ勿論支應ニ於テモ權大屬以上ノ官員ヲシテ取扱ハシムヘキ旨ヲ達示セリ而シテ又本稅法タル我邦ニ取リテハ全ク嶄新ノ稅法ニシテ人民ノ疑惑ヲ生シ易ク隨テ施行上不都合少カラサルヘキヲ察シ同月二十五日租稅寮第十七號ヲ以テ印紙稅略說ヲ頒布シタリ其全文左ノ如シ

印紙稅略說

客歲印紙稅發行ノ議ヲ興シ其規則ヲ編成シ我大藏大輔井上馨閣下ニ呈シ更ニ正院ニ上進シ遂ニ其準允ヲ得テ本年六月第一日ヨリ施行スル事ヲ決シ其規則ヲ天下ニ頒布ス然而印紙ノ稅タ
ル 本朝ノ未曾有ノ新稅ニシテ人民未曾有ノ條例ナリ故ニ人或ハ之ヲ疑惑シ之ヲ嫌忌シ遂ニ施行ノ妨障ヲナサン事ヲ恐ル故ニ今本寮七等出仕星亨十等出仕有島武等ヲシテ英米ノ諸書中特ニ印紙稅ニ關涉セル條ヲ略譯セシメ之ヲ印紙略說ト云フ以テ世人ノ疑問ヲ辨セントス抑歐米各國印紙發行ノ旨趣ヲ視ルニ固ヨリ收稅ノ目的ニ出ツルト雖モ其間文書中事物ノ證ヲ確實ナラシムルノ意モ隨テ含蓄セリ是亦世人ノ宜シク知ル可處ナリ事此冊子ニ詳明セリ時在明治六年五月租稅頭陸奧宗光誌ス

印紙稅略說

英國有名經濟家、アダムスミツト氏ノ說

「ウエルツ、オフ、チーシヨント」ト題セル書中ニ在リ

印紙ヲ施行スルノ濫觴ヲ追徵スルニ和蘭初テ本邦西班牙ノ暴政ヲ厭惡シ一千五百六十六年ニ至テ之ニ叛ス是ニ於テ西班牙之ヲ征討スル最モ急迫ナリ因テ之ヲ防禦スル累年遂ニ一千六百四十八年ニ於テ獨立ヲナスニ至レリ其間國用頗ル多端ニシテ固ヨリ定額ノ租稅ヲ以テ

之ニ充ツルニ足ラス故ニ種々ノ新稅ヲ收征スル方法悉ク舉行スト雖モ尙ホ其費ヲ補フニ至ラス是ニ於テ大ニ國內ニ令シテ新ニ課稅ノ良法ヲ發明スル者アラハ必ス大賞ヲ下賜スルヲ以テス其時或人遂ニ一新法ヲ發明シ連延衰耗ノ國用ヲ裨補スル者アリ是レ即チ印稅法ナリ因テ一千六百二十四年以後始テ印稅ヲ國內ニ施行セリ

英國租稅寮ノ法士「ヒユ、テイルスレ」氏ノ著述セル證印稅法論ト題セル書ヨリ抄譯

英國ニ於テ印稅ヲ課征セルノ濫觴ハ一千六百九十四年第三世「ウヰリアム」王ノ朝ニ方リ一時國貯ノ缺耗セルニ會シ之ニ供給充足センカ爲メニ始テ制定セル者ニシテ其後數回ノ改制ヲ經テ既定ノ稅額ヲ増殖シ或ハ更ニ新條ヲ設立ス是ニ於テ稅目愈増加シ且之ヲ收征スルノ煩勞ト費用モ亦他稅ニ比スレハ頗ル輕便ナリトス因テ遂ニ印稅ヲ以テ永久不變ノ正稅ノ一トナセリ然而シテ之ヲ施行スルノ久シキニ隨ヒ新條愈繁ニ稅目愈多クシテ印紙又ハ押印愈混雜ニ至レリ是ヲ以テ其間自ラ奸曲ノ弊害ヲ免カレス因テ政府更ニ其官吏ニ命シテ往時以來數回制定セル稅目ヲ輯集シ皆一定ノ印紙印牌ヲ用ヒシメタリ而シテ第三世「ジョージ」王ノ朝ニ及ヒ一旦斷然舊印稅ノ方法ヲ廢シ新ニ印稅法ヲ改定セリ然レトモ是亦猶其弊害ヲ防拒スルニ至ラサルヲ以テ遂ニ其後同王更ニ其法ヲ改制セリ實ニ整定ノ良法ナリ其後一千八百七十年ニ至リ更ニ制定セル方法ハ即チ「ヴヒクトリヤ」三十三年ノ法令ニシテ其方法モ亦第三世「ジョージ」五十五年ノ法ヲ以テ根基トナセルモノナリ

「ブラツクス」ト「フン」氏法書ヨリ抄譯

我英國ニ於テハ印稅ヲ以テ永久不變ノ正稅中ノ第四項ニ置ケリ其法ノ濫觴ハ乃チ英王「ウヰ

リヤム」第三世ノ即位第五年及ヒ第六年ニ於テ始メテ制定セル者ニシテ凡ソ事物ノ證トナル可キ證文書類一トシテ之ヲ課セサル者ナク其種類最モ巨多ナル者ナリ爾來其法ヲ改制スル殆ント十數回ニシテ大ニ施行ノ術ヲ得タリ而シテ其始終ヲ歴視スルニ當初極メテ重稅ニシテ近今頗ル輕稅ナル者アリ或ハ其稅額當初ニ比スレハ殆ント十倍セルモノアリ或ハ方今全ク廢稅トナルモノアリ然而シテ此稅法タル各商賈日用文書ヲ授受スルノ間ニ於テ其印稅ナキニ比スレハ固ヨリ繁雜多費ノ煩ヲ免レサルニ似タリト雖モ官若シ之ヲ征課スルノ術適宜ノ良法ヲ得レハ則チ諸文書中ニ掲載セル事物ヲ證スルヤ愈更ニ確固タル可ク而シテ諸文書ノ詐偽ヲ防拒スル愈更ニ嚴密ナル可シ是皆印紙ノ功ナリ故ニ印紙ノ人民ニ公益アル寔ニ少ナシトセス

米國銀行ノ「サイコロベダヤ」ヨリ抄譯

夫レ「スタム」ブ「アクト」印紙稅則ナル者ハ各人ヲシテ其文書類ニ政府ノ印章アル紙又ハ羊紙ヲ用ヒシメ以テ其印紙ヨリ稅金ヲ收納スルノ方法ナリ抑此印稅法ハ其始メ和蘭ニ於テ發明創立セシ者ニシテ我英國ニテハ和蘭王「ウヰリアム」此國王ニ即位セル以後ヨリシテ始テ之ヲ施行セリ而シテ爾來逐次其條例ヲ増加シ其部分愈多シ方今ニテハ遂ニ法律上又ハ商賣上ノ諸文書類ハ悉ク印紙ヲ用ヒ相當ノ印稅ヲ納メ新聞紙及遺物ニ征スル稅ノ如キハ其受取書ニ印紙ヲ貼用シテ納メシムルニ至リ或ハ醫師代言者狀師法學士等ノ如キハ其事業ヲ始ムルニ當リ印稅ヲ納メシム又「ノタリ」「ポブリック」銀行質店等總テ斯ノ如キ業體ハ年々其免許ヲ受ケサルヲ得ス然而シテ其免許ナルモノハ印章アル紙又ハ羊紙ヲ用ヒシム是亦其印稅ヲ納メ

シムル所以ナリ

印稅金額ハ時々變更アリ凡政府ニ於テ國用不足ナルトキハ即チ大ニ此稅ヲ興シ以テ其不足ニ充ル者トス其類古今同一ナラス然レトモ方今ノ稅額ヲ以テ之ヲ昔日ニ比較スレハ稍寬ナリト云フヘシ近世我英國ニ於テ一事一業ヲ起ス必ス此印章ヲ用ヒテ其稅金ヲ納シム故ニ印章ヲ要スル件々無數ニシテ之ヲ細擧スル能ハス抑二磅以上ノ請求書ニ貼用スル所ノ「ペニ」ノ印稅ヨリ一百萬磅ノ資産取扱證文ノ二萬二千五百磅ノ高ノ印稅ニ至ル其割合漸ク増加シテ少ヨリ多ニ至ルト雖モ其最大ナルニ至テハ更ニ最大ノ稅ヲ賦課シ他ノ割合ヲ以テスヘカラス然レトモ概テ百分一ノ四分一（即チ千分五）以下ヨリ百分一迄ノ等差アリ「スタムプ」印紙ナル者ハ政府ニ於テ紙上ニ捺印スル實章ナリ故ニ證詞ヲ羊紙ニ記書セント欲スル者ハ其羊紙ニ捺印スル者或ハ白紙ニ捺印シタル者ヲ印紙局ヨリ買取スルアリ此類最モ多シトス或ハ既ニ書載セル證文ヲ以テ之ヲ印紙局ニ送呈シ相當ノ印稅ヲ納メ之ニ捺印ヲ乞フ者アリ印章ハ偽造シ易キヲ以テ之ヲ偽造スル者屢之レアリ因テ之ヲ防遏スル爲メ「ウキルリヤム」及「メリー」ノ朝ニ於テハ偽造スル者ヲ罰スルニ死罪ヲ以テセリ而シテ三十年來ヨリ方今ニ至テハ其罪ヲ減シテ流徒ニ處ス而シテ印記必要ナル者ニシテ印紙之レ無キ文書ハ總テ無證ノ者トナシ裁判廳ニ於テ一切之ヲ取上ル事ナシ且無印紙ノ文書ハ如何ナル法律上ニ於テモ其用ヲ爲スノ力ヲ有セサル者ト看做スヘシ是實ニ脫稅ヲ防クノ第一件ナリトス最モ文書類ノ中其取換セシ後ニテ印紙貼用スル事ヲ許ス者アリ其分ハ至當ノ時間ヲ猶豫シテ可ナリトス譬ヘハ實印ナキ約書ノ如キハ二十一日ノ猶豫ヲ免ス是ナリ或ハ印紙アル文書ヲ喪失スルカ又

ハ被原人ニテ其文書ヲ出サ、レハ縱令無印紙ノ文書ト雖モ之レヲ證左トナス事ヲ得ヘン且又印紙損傷スレハ之ヲ印紙局ヘ返納シテ其代價ヲ請取リ得可シ夫レ印紙ヲ製造シ且之ヲ貼用スルニ方リ印紙法令ニモ及裁判廳ニ於テモ勉メテ脫稅ヲ防禦スル事ヲ注意スルヲ肝要ナリトスト雖モ其間過失或ハ非常ノ事故ニ罹リ不知シテ其罪ニ陥リ損害ヲ受ケシメサル事ヲ著目スヘシ故ニ文書ヲ作り故造ノ意ニ出テスシテ其印紙貼用スルヲ忘却シ之ヲ全備セルノ證券ナリト自許シ或ハ非常ノ事故アリテ印紙貼用スルヲ得サル時ハ其後印紙貼用セシメ而後之ヲ裁判スヘシ千七百九十五年亞墨利加ノ獨立セシハ其始メ此印稅ヨリ爭端ヲ起セシナリ遂ニ其本國タル英吉利ト戰端ヲ開キ其獨立ヲ致セリ然レトモ方今此印稅法及ヒ是ニ類セル方法ハ歐洲諸國ニ於テ殆ント施行セサルナキニ至レリ佛蘭西ノ如キハ一ハ印紙ヲ以テ收稅ノ目的トナシ一ハ其文書ニ印紙アルヲ以テ事物ノ證トナシ此兩件ヲ併セテ以テ印紙ノ功ニ歸スト云フ

印稅ヲ以テ租稅ヲ課スルノ方法ニ於テ大ニ世人ノ議論アル者ニシテ且其便宜ト利益トノ際ニ於テ區々ノ議論アル事最モ多シ然レトモ之ヲ主張スル者ハ如何ノ議論ニ關セス往昔ヨリ確乎不撓ノ勢ヲ以テ之ヲ公行セリ故ニ遂ニ又之ヲ動ス可カラサルニ至レリ然リ而シテ其印稅ヲ主張スル者ノ說ニヨレハ印稅ノ法其課稅ノ術タル最モ容易ニシテ且其煩勞冗費タル甚タ少シ故ニ適良ナル方法ヲ設立セハ一般商業ニ賦稅スルニ公平至當ニシテ更ニ偏頗ノ弊ナシ如何トナレハ此賦課ヲ蒙ル者ハ事業ニ關涉セル者ニ限レハナリ若シ夫レ分頭稅ノ如キハ賦課スル所ノ各人ノ所有物ニ相當セシムル能ハス又資産歲入稅ノ如キハ常ニ詐欺ヲ受ケ脱

稅ノ弊ヲ免カレヌ土産稅ノ如キハ數々煩雜多費動モスレバ左支右吾得失相償ハス故ニ印紙ヲ以テ收征スルハ其稅額ノ至大ナル其法ノ至當ナル更ニ之ニ加フルナシ實ニ文明開化ノ諸國ニ於テ行ハル、稅法中ノ第一ノ美法ト謂ツ可シ英國一千八百六十年ニ於テ收征スル印稅額ハ八百二十八萬五千二百五十七磅十四シリング四ペンスナリ、

印紙稅ハ全ク新規ノ稅法ナルヲ以テ政府ハ汲々トシテ人民ヲシテ疑惑ヲ懷カサラシメンコトヲ勉メ前記ノ印紙稅畧ヲ廣ク頒布シ又之ヲ發賣セシメタリシカ同年五月更ニ大藏省達第八十四號ヲ以テ各府縣ニ令シ諸證文類並帳簿上ヘ印紙貼用證印スヘキ旨人民ヲシテ會得セシムル様取計フヘキ旨ヲ命セリ

大藏省達第八十四號 (明治六年五月二十八日)

六月一日ヨリ請取諸證文類ヘ印紙貼用可致儀ハ本年二月十七日太政官第五十六號御布告ニテ管下人民一般御布告並規則面等詳細疾クニ會得承知可有之候得共本月十日第五百五十五號御布告中規則第二十二條以下掲載有之候帳簿上ヘ證印ノ儀ハ未タ一般了解不致者モ可有之候間管下各區戶長ニ於テ再度ノ御布告並規則面共人民會得相成候様說示シ犯則ノモノ無之様可收計候依之證券印稅心得十部宛相渡候條此除入用ニ候ハ、於管下書林重板申付候條前以當省ヘ申出置刻成ノ上ハ文部省ヘ可相廻分三部納本可致爲賣捌方ノ儀ハ原價ヘ僅ノ手数料ヲ以爲賣捌候様可致事

但東京府下ニ於テモ發賣差免候間便宜ニ可任事

一 百五十五號御布告增加規則二十五條中ニ掲載ノ帳簿ヘ證印ノ儀ハ人民ヨリ願出次第速ニ

證印取計可申候萬一願出方手後レ等相成候者ハ來六月二十日迄ニ可爲願出候六月一日ヨリ附込高ヲ算シ向後ノ分ヲモ合計シ相當ノ印稅上納ノ上證印可致事

但從前相用候帳簿ハ本月三十一日迄ハ是迄ノ通無稅ニテ不苦候得共右帳簿ヲ以六月一日以後引續金銀授受可致心得ノ者ハ同様附込金高見積證印可爲願出候尤向後帳簿新規ニ相改度願ノモノハ何時ニテモ可爲願出候事

一 前文帳簿證印ノ儀ハ各人民同様ノ儀ニハ候得共兩替屋吳服屋質屋酒屋等別テ帳簿上ノ授受多分有之ニ付右様ノ渡世筋ノ者ヘハ管下戶長ニ於テ一層注意說示行届候様可取計事

右之通相達候事
而シテ印紙稅法ノ制ニ伴ヒ人民ニ於テ金子ヲ授與スル場合ノ外諸取引並賣買トモ金高十圓以上ハ證書又ハ請取書ヲ取替シムルコト、シ同年六月其旨ヲ布告セリ即左ノ如シ

布告第九十號 (明治六年六月五日)

人民相互ニ金子授受ノ際從來請取證書等爲取替候等ノ處今般證券印紙貼用規則相達候ニ付テハ自今諸取引並賣買トモ金高十圓以上ニハ必ス證書又ハ請取書爲取替候様可致事
尋テ六月五日ニ至リ大藏省達第九十三號ヲ以テ爲替手形モ亦金高巨萬紙面狹隘ニシテ印紙貼付シ難キモノニハ受取諸證文印紙貼用心得方規則第二十二條日用帳簿同様證印法ヲ採用シ手形ノ裏面ノ印稅收領ノ印ヲ證印スルコト、爲セリ

大藏省達第九十三號 (明治六年五月五日)

本年第五十六號ヲ以御布告相成候證券印紙貼用可致內爲替手形ノ分金高巨萬紙面狹隘ニテ一

圓印紙十枚貼付難致分ハ帳簿へ證印可致爲メ租稅寮ヨリ相渡置候印稅收領ノ印ヲ右手形裏面へ證印致シ御規則ノ通收稅可取計候事

但手形裏面へ證印方法ノ儀ハ租稅寮ヨリ可相達等ニ候事

而シテ印稅法ノ犯則者處分ニ關シテハ既ニ規則ノ明文ヲ以テ定ムル所ユシテ當局者ノ充分之カ取締ヲ爲スコトハ言フヲ待タサル所ナリト雖モ當局者ノ注意モ時ニ及ハサルモノハ亦免ルヘカラサルノ數ト云フヘシ故ニ犯則者處分ノ規定ヲシテ完全ニ行ハレシメンカ爲メニハ人民ノ告發ヲ獎勵シテ人民相互ニ注意セシムルニ如カサルナリ是ヲ以テ同月二十四日太政官布告第二百二十二號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ノ犯則訴人へ賞金下附方ヲ規定シタリ其全文左ノ如シ

布告第二百二十二號 (明治十六年六月二十四日)

先般印紙稅發行候ニ付テハ右印章類贋造並印稅ヲ免レンタメ犯則ノ者ヲ見届訴出事實取糺ノ上相違無之ニ於テハ訴出候者へ左ノ通賞金被下候條此旨相達候事

第一 第一類中一錢印紙ヲ貼用セスシテ相渡候者ヲ訴へ出ル時ハ犯人過料ノ半減可被下事
第二 第二類中諸證文等ニ印紙ヲ貼用セスシテ相渡候者ヲ訴へ出ル時ハ犯人過料罰金高ノ半減可被下事

一金十圓以上ノ高ヲ曲ケテ十圓以下ノ高ニ作爲シ印紙ヲ貼用セスシテ第二類ノ證書ヲ出ス者又ハ帳簿類證印ニ二類ノ廉ヲ一類ニ作爲シ一類ノ證印等ヲ申請候者等ヲ訴出ル時ハ犯人過料金高ノ半減ヲ可被下事

第三 印紙界紙ヲ密賣買致候者ヲ訴出ル時ハ密賣犯人ノ過料印紙代價五百倍ノ半減並密賣犯人ノ過料金代價千倍ノ半減可被下事

第四 印紙界紙又ハ印稅收領ノ印章ヲ贋造スル者又ハ印紙ノ消印ヲ洗滅シ再用セシ者等ヲ訴へ出ル時ハ相當ノ賞金可被下事

同年七月二十日布告第二百六十二號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則第二十六條以下ヲ增補シ以テ從來ノ諸規定中不明ノ點ヲ明ニセリ即チ左ノ如シ

布告第二百六十二號 (明治十六年七月二十日)

本年二月第五十六號同五月第五十五號布告證券印紙貼用心得方規則第二十六條以下尙又別紙ノ通增補候條此旨布告候事

受取諸證印紙貼用心得方規則第二增加

第二十六條

一 第二十三條第二十四條ニ掲載セル諸帳簿證印附込金高ヲ以テ證印願出ノ儀尙後總テ一ケ年限可附込金高ヲ以テ願出證印可申請候尤帳簿紙數多少ハ適宜ニ任セ一帳簿ヲ以テ數年相用候共證印ノ儀ハ其年一ケ年限ノ證ト相心得翌年尙其帳簿へ可附込金高見込更ニ其年分ノ證印願出候様可致事

但是迄證印濟ノ分ハ其儘相用一ケ年未滿ニテ附込金高相充候上ハ何時ニテモ願出ノ上證印可申請候以來ハ一ケ月或ハ半ケ年見込ヲ以テ金高見積候儀ハ不相成候事

一 諸帳簿證印可致分ノ内帳簿上へ金錢記載無之物品ヲ以テ記載スル荷物判取帳ノ類附込金

高計算難積立分ハ附込物品ノ多少ニ拘ラス向後一帳簿ニ付一ヶ年分總テ金五錢ノ印稅ヲ以テ證印可致事

第二十七條

一 諸切手類正引換ノ節ハ戻主ニ於テ黒朱等ニテ曾テ消印有之印紙面ヲ抹却可致事
第二十八條

一 諸約條金其外借入金ノ類金高多ニシテ一時返戻又ハ償入難相成分漸々入金等致候分ハ假令元金高ニ相當セル印紙貼用有之共請取書ハ返戻償入ノ證ト可致譯ニ付金高十圓以上ハ其都度都度一錢印紙ヲ貼用可致事

一 印紙貼用アル諸證書ヲ事故アツテ書改候節ハ新證書へ更ニ印紙貼用可致事
第二十九條

一 第二十條ニ掲載有之候印紙貼用アル證書類ヲ引當トシテ乙云々トハ第一類ニ屬セル印紙アル證書ヲ以テ尙第一類ニ屬セル證書ニ其類ヲ以テ引當候上ハ印紙貼用ニ不及候得共印紙アル第一類ノ證書ヲ以テ第二類ノ證書へ引當取引候節ハ照準ニ難相成新證書へハ別段二類ノ印紙貼用可致事

一 證印アル帳簿類盜火難等ニテ紛失ノ節ハ更ニ印稅上納ノ上新帳簿へ證印可申請事
第三十條

一 諸賣買又ハ貸借等一切ノ約定證書類相互ノ都合ニ依リ爲取替致シ候分同事件又ハ同員數ニ候共各爲取替候各通毎ニ印紙貼用可致事

但甲乙通帳ノ類モ自他各證ト可爲者ハ本文同様印稅上納ノ上證印可申請事
第三十一條

一 界紙ヲ偽造スル者ハ帳簿類へ押印スル印稅收領ノ印章ヲ模擬セル者ト同様ノ罪科可申付事

一 界紙可相用書類へ界紙ヲ用ヒサル者相顯ルハニ於テハ爲科料金五十錢可爲差出事
第一類ノ印稅可相納諸帳簿へ證印不申請者ハ第八條ニ掲載セル印紙二類ヲ不貼用科料ノ半高爲科料可爲差出事

一 但荷物附込帳ハ一類ノ印紙ヲ不貼用科料半方ニ準シ可申事
第二類ノ帳簿ヲ曲ケテ第一類ノ帳簿ニ取替ヒ證印申請候者ハ同條十圓以上ノ高ヲ曲ケテ云々之科料半方爲科料可爲差出事

一 證印申請候帳簿へ除自有之逆願濟金高ヨリ過剩附込候者ハ第一類ニ應シ候帳簿へ證印不申請者ノ科料ト同様可爲差出事

而シテ右規則第二十六條ニ所謂一箇年限トアルハ何時ヲ以テ起算點ト爲スヘキヤ甚タ不明ナルニヨリ同年八月九日大藏省達第百二十號ヲ以テ證印濟ノ年月日ヲ起算點ト爲スヘキ旨ヲ明ニセリ而シテ證券印紙ノ内二十五錢五十錢一圓ノ三種ハ其形大ニ過キ貼用上不便ナルヲ以テ同年八月三十一日布告第三百十號ヲ以テ其形狀ヲ變更スル旨ヲ公布セリ又印紙稅施行以來各地犯則者漸ク多キニ至レルヲ以テ各地方官ヲシテ更ニ人民ヲシテ稅法ニ背戻セサルコトヲ諭示セシム其達文左ノ如シ

大藏省達第三百三十六號 (明治二十八年九月二十八日)

本年六月一日ヨリ御發行相成候證券印紙之儀各地人民不慣成處ヨリ金殺其他取引上印紙ヲ不貼用モノモ間ニハ有之趣相聞甚不相濟事ニ候條各管内ニ於テ一層注意イタシ區戶長等ヨリ反覆叮嚀說示行届候様改テ可申渡候右御規則之儀ニ付テハ太政官第二百二十二號ヲ以犯則之モノ訴出候者へ御賞金被下候御布告モ有之自今犯則ノモノ有之候節ハ無猶豫規則之通處分致候尤出張裁判所有之府縣ハ其出張裁判所へ送致可致候此旨相達候事

而シテ海陸運輸渡世業者ノ使用スル受取書ニ付テハ一般ノ場合ト其事情ヲ異ニスルモノアルヲ以テ證券印紙稅課徵ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルノ必要アリ是ニ於テ明治六年十月大藏省達第四百二十二號ヲ以テ左ノ特別規定ヲ設ケタリ

大藏省達第四百二十二號 (明治六年十月九日)

本年六月中ヨリ御發行相成候證券印紙貼用方規則之儀ハ人民一般遵守可致ハ勿論ノ儀ニ付諸荷物或ハ貨幣等海陸運輸ヲ以テ營業罷在候者共ノ儀モ規則ニ照準シ是迄印紙貼用致シ居候儀ニハ可有之候得共尙別紙之件兼テ相心得置犯則ニ陥ラサル様厚ク注意可致此旨布達候事

- 一 海陸運輸ノ諸荷物並貨幣等金高十圓以上ノ物ハ荷主へ可相渡請取證書へ金高ニ拘ハラス
- 一 錢印紙貼用可致事
- 一 前同斷ノ物貨ニ付金高十圓以上ノ運搬料請取候節ハ其請取證書へ前同斷貼用可致候事
- 一 運輸スヘキ物貨ト其運搬料トノ請取證書ヲ荷主都合ニ依リ別通ニセスシテ一紙證書ヲ要

スルトキハ請取書面總金高ニテ拾圓内外ノ區別ヲ分チ兩種ヲ兼一錢印紙貼用不苦候事

但諸物貨及其運搬料トモ金高拾圓以下ノ節ハ双方請取書へ印紙貼用不及候得共一通證書ニ致候節總金高拾圓以上ニ及ヒ候ハ、本文ノ通り印紙貼用可致候事

- 一 假令ハ東京ヨリ各所問屋ノ下ヲ經長崎或ハ青森等ニ達スル物價金高十圓以上ハ請繼數回ニ候得共最前甲問屋ヨリ前書箇條ニ照シ印紙アル請取書類ヲ荷主へ相渡シ運輸ノ物貨ニ印紙アル元送狀附著有之候上ハ乙丙丁問屋等ニ於テ授受ノ證書ハ勿論添送狀等ニ至ル迄渾テ印紙貼用不及候得共長崎青森ノ如キ結尾ノ場所へ其荷物著ノ上其荷請主ヨリ取置候請取證書ハ印紙貼用可爲致候事

斯クテ明治六年十月大藏省達第五百十三號ヲ以テ他管ノ者商用ニテ滞在中帳簿證印方ニ關スル規定ヲ左ノ如ク定メ取扱上區々ニ涉ラシメサルコトヲ期セリ

大藏省達第五百十三號 (明治六年十月三十日)

各府縣管下之人民商業取引ノ爲メ他管内へ相越滞在中相用候金銀判取帳之類最前其者管轄廳ニ於テ租稅寮印稅收領ノ印ヲ相請候帳簿ニ候得ハ御國內一般何レノ地ニテ相用候共聊不苦譯ニ付若旅行先ニ於テ兼テ願濟ノ附込金高又ハ年限相滿再ヒ證印可相請期節ニ至リ候歟或ハ新ニ帳簿ヲ製シ候節ハ即其管轄廳へ定規ノ通り證印願書差出候得ハ無差支押印致シ下ク渡可申候條此旨布達候事

更ニ同年十二月大藏省達第七十七號ヲ以テ請取諸證文印紙貼用心得方規則中請取書ノ中ニハ各府縣ニ於テ一時備上ノ書記或ハ給仕小使諸職工類ノ備料給料手間代等ノ請取書モ亦之ニ包含

スルヲ以テ書面金額十圓以上ノモノハ孰レモ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ達セリ然ルニ又規則中貼用ノ印紙ニ消印セス又ハ不相當ノ印紙ヲ貼用スル者ノ罰則ニ關スル點ヲ欠キタリシニヨリ翌七年二月三日太政官布告第十四號ヲ以テ心得方規則第九條第四項ヲ左ノ如ク更正シタリ

布告第十四號 (明治七年三月三日)

明治六年五月第五十五號布告受取諸證文印紙貼用心得方規則中第九條第四項今般左ノ通添正候様此旨布告候事

一 總テ此規則ニ從ヒ貼用ノ印紙ニ消印セサルカ又ハ相當セサル印紙ヲ貼用スル諸證文ヲ渡ス者ハ三十圓以下ノ罰金可申付又其證人ニ相立又ハ奥書等致候者ハ二十五圓以下ノ罰金可申付事

然ルニ右追加ノ明文ハ過剩貼用ノ場合ヲモ含有スルモノ、如クニシテ解釋上大ニ疑義ニ涉ルモノアリタルニヨリ三月四日布告第二十六號ヲ以テ又ハ相當セサルノ下ニ不足之三字ヲ加ヘ以テ不足貼用ノ場合ニ限リ尙其趣旨ヲ一層明瞭ナラシメンカ爲メニ但書ヲ増補シ但金高相當ヨリ過剩ノ印紙貼用候者ハ此限ニ非スト爲セリ尋テ五月二十五日布告第五十六號ヲ以テ從來規則中帳簿證印ハ其證印濟ヨリ期限一箇年ニ滿ツルトキハ附込見積金高ノ過不足ニ拘ラス更ニ證印ヲ申請スヘキコト、ナリ來リシカ之ヲ改メテ右帳簿附込金高ニ滿ツル迄ハ其儘之ヲ用ユルモ妨ケナク特ニ金高無限第一類ニテ五千元以上第二類ニテ一萬九千元以上ノ證印ヲ受ケタル帳簿竝ニ荷物判取帳ハ紙數ノ盡クル迄ハ其儘之ヲ用ユルモ妨ナキモノト爲シ以テ大ニ納稅者ノ便宜ヲ企圖シタリ

第二款 印紙稅ノ第二期

第一節ニ述ヘタル如ク印紙稅法ハ明治六年二月ノ公布ニ係リ同年六月一日以降施行セラレタルモノニシテ爾來一年之カ實施上ノ情況ニ顧ミ屢之ニ改良補修ヲ加フル處アリタリト雖モ固ヨリ未タ完全ト云フヘカラスシテ尙ホ補修ヲ加フヘキノ餘地甚タ多シ然レトモ更ニ之ニ改正補修ヲ施ストキハ自ラ繁雜ニ涉リテ爲メニ世上ノ疑惑ヲ招クノ虞決シテ少ナシト爲サ、ルヲ以テ茲ニ全然稅則ヲ更定スルノ議ヲ決シ明治七年七月二十九日布告第八十一號ヲ以テ從來ノ規則ヲ廢止シ新ニ證券印稅規則ヲ制定公布セリ本稅則ハ舊規則ニ比シテ其規定大ニ簡明トナリタルノミナラス夫ノ帳簿ノ如キ從來ノ證印法ヲ改メ納稅者自身ヲシテ印紙ヲ貼用セシムルノ便法ヲ開キ從來印紙ヲ貼用スヘキ證書類ハ分テ二種トナシタルヲ改メテ諸證書帳簿共之ヲ三類トシ又大ニ稅率ヲ更定シ其他從來ノ五種ノ印紙ノ外更ニ二圓五圓ノ二種ヲ調製發行シテ以テ實際ノ便利ヲ圖リ尙ホ新稅則改定後ハ自然貼用過不足ノ過誤等ヲキヲ保セサルヲ以テ帳簿ニ關スル罰則ノ條項ニ限リ翌八年一月ヨリ實施スルコト、シ以テ周知ノ猶豫ヲ與ヘタリ而シテ其全文ハ左ノ如シ

布告第八十一號 (明治七年七月二十九日)

明治六年二月第五十六號以下追加及布告候證券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行候條此旨告候事

但帳簿罰則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ施行候儀ト可相心得事

證券印稅規則

第一則 綱 領

第一條 凡ソ人民財産ノ受授竝ニ交際上相用候證書帳簿類ハ都テ此規則ノ通證券^〇印紙ヲ用フヘキ事

第二條 總テ規則ノ通證券^〇印紙ヲ用ヒサル者ハ後日如何體ノ故障差起出訴ニ及ヒ候共其書類ハ一切取揚裁判不相成事

第三條 證券^〇印紙ハ買求差支無之様各府縣管下適宜ノ場所へ賣捌所相設置候條下條ニ掲載セル定價ヲ以テ買取ヘキ事

第四條 賣捌所ハ證券印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

| | |
|-------|--------|
| 淡黑色印紙 | 定價一錢 |
| 薄赭色同 | 同 五錢 |
| 青色 同 | 同 十錢 |
| 黃色 同 | 同 貳拾五錢 |
| 橙黃色同 | 同 五拾錢 |
| 紅色 同 | 同 壹圓 |
| 深紫色同 | 同 五圓 |
| 深紅色同 | 同 貳拾圓 |

第六條 證券界紙ノ定價左通候事

| | |
|------|------|
| 大判界紙 | 定價七厘 |
| 中判界紙 | 同 五厘 |
| 小判界紙 | 同 參厘 |

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜タルヘキ事

第二則 諸證書

第一條 諸證書ヲ分テ三類トス

第一類 諸證書

一 賣品並職業ニ關スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高拾圓以上總テ一錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 預リ金^〇印紙^〇手形

一 耕地小作證文

一 遺金證文

右ノ證書類ハ金高拾圓以上ハ總テ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

一 質物^〇預リ書^〇小札

右ノ證書ハ金高拾圓以上ハ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 諸會社株手形

- 一 荷物送り狀
- 一 荷物預り證書
- 一 ○○地所讓與證書
- 一 物品讓與證書
- 一 公債證書類讓與證書
- 一 跡式讓狀

右ノ證書類ハ金高ニ拘ハラズ總テ壹錢ノ印稅

第二類諸證書

借用金證文

- 一 預り金 ○○手形文但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之分
- 一 地所竝建家買渡證文
- 一 地所竝建家 ○○買入證文
- 一 公債證書類買證文
- 一 諸品 ○○買入證文
- 一 爲替手形竝置手形
- 一 荷爲替手形
- 一 諸請負證文
- 一 金錢約定證文

金錢約定爲取換證文

米穀竝諸品賣買約定證文

米借用證文

雜穀借用證文

賣買用諸品 代假以上借用證文

借地證文

借家證文

金十圓以上記載雇人請狀

諸賣買證據金預り手形

諸敷金證文

右ノ證書類ハ

書面 金高十圓未滿ハハ
雜石高十石未滿ハハ

界紙ヲ用フヘシ

同斷 金高十圓以上二十圓未滿ハハ
雜石高十石以上二十石未滿ハハ

印稅一錢

同斷 金高二十圓以上三十圓未滿ハハ
雜石高二十石以上三十石未滿ハハ

同 二錢

同斷 金高三十圓以上四十圓未滿ハハ
雜石高三十石以上四十石未滿ハハ

同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ
第三類諸證書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ

升目壹升未満ハ

界紙ニ及ハス

一斗未満ハ

印稅一錢

同 一斗以上

同 二錢

二斗未満ハ

同 三錢

同 二斗以上

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一 食類切手

右ノ切手ハ

代金高二十五錢未満ハ

界紙ニ及ハス

同 二十五錢以上

印稅一錢

同 四十五錢未満ハ

同 二錢

同 四十五錢以上

同 三錢

同 五圓未満ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 米油醬油其外諸品賣買切手

右ノ切手ハ

代金高二十五錢未満ハ

界紙ニ及ハス

同 二十五錢以上

印稅一錢

同 四圓以上

同 二錢

同 十圓以上

同 三錢

同 十圓未満ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 荷物受取書

右ノ受取書ハ送狀添付ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀添付ノ分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印稅

貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

一 金高記載無之〇〇約定證書類
備人受狀類

右ノ證書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

第二條 證書ハ總テ證書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙ノ全面滅却セサル様第

一 號圖ノ通調印致スヘキ事

第三條 院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ調印セル受取書證書類ハ印紙界紙ヲ用フ

ルニ及ハサル事

第四條 租稅並ニ賦金及ヒ區入費取立ノ節區戶長ヨリ相渡候受取書ハ界紙ヲ用フルニ及ハサ

ル事

第五條 官祿家祿賞典救助受取書又ハ裁判請書及ヒ訴訟濟口證文等ハ都テ印紙界紙ヲ用フル

ニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

第一條 諸帳簿分テ三類トス

第一類 諸帳簿

- 一 金錢判取帳
- 一 質物通帳
- 一 金錢當座預リ通帳

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上

印稅一錢

同斷金高二百圓以上

同 二錢

同斷金高三百圓以上

同 三錢

同斷金高四百圓以上

第二類 諸帳簿

一 質物臺帳

一 金錢一時〇〇貸通帳

一 諸品損料帳

一 商賣品當座〇〇貸通帳

一 金錢預リ通帳但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之ヲ

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ

印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上

印稅五錢

同斷金高二百圓以上

同 十錢

同斷金高三百圓以上

同 十五錢

同斷金高四百圓以上

第三類 諸帳簿

一 荷物判取帳

一 諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ハラズ一箇年ニ付印稅二十錢

第二條 第一類帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ一箇年以上附込へキ見積金高ヲ第三號書式ノ通帳簿ノ

初丁へ自身ニ相記シ其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ調印致スヘキ事

但帳簿初丁へ記シタル附込見積金高相滿候迄ハ何箇年相用候共苦シカラサル事

第三條 第三類ノ帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見積リ第四號書式ノ通帳簿初丁

へ自身ニ相記シ其年限ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ調印致スヘキ事

但帳簿ノ初丁へ記シタル年限相滿候迄ハ何箇數附込候トモ苦シカラサル事

第四條 一旦印紙貼用ノ〇〇第一類帳簿附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿年限相滿餘白ノ

紙數有リテ再用セント欲スル者ハ尙其帳簿ニ應シ〇〇第三號書式ノ通改メテ書記シ印紙貼用

致スヘキ事

第五條 第二類ノ證書ヲ若シ便利ノ爲メ帳簿ニ相綴リ書載候儀不苦候得共其帳簿ハ其附込ノ
廉毎ニ第二則第一條ノ通印紙貼用致スヘキ事

第六條 印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ可有之尤其節ハ巡廻口限前以
可相送候條印紙貼用ノ帳簿ハ無遺漏調査ヲ遂クヘキ事

第七條 ○第一類 附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限相滿候節ハ其帳末ニ第五號書
式ノ通與書ノ上調印致シ置前條官員巡廻ノ節差出檢印ヲ受クヘキ事

第四則 賞罰例

第一條 證券界紙相用フヘキ證書類ニ證券界紙ヲ用ヒサル者ハ脱税高界紙定價三ノ二十倍則拾
種平均五厘其證書ヲ受取タル者ハ脱税高ノ十倍則五過料タルヘキ事

第二條 ○第一類ノ證書類ニ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高ノ二十倍其證書ヲ受取タル者
ハ脱税高ノ十倍過料タルヘキ事

第三條 ○第一類ノ諸帳簿ヘ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高ノ二十倍過料タルヘキ事
○第二類ノ證券印紙貼用ノ帳簿見積金高附込相濟除白ノ紙數之レアルトテ第三則第四

第五條 第三類ノ諸帳簿ヘ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高用フル者ハ無印紙ニテ一箇年未滿相
レニ未滿相用フル者ハ則四拾錢ノ割合ヲモツテ之ヲ算スノ六倍過料タルヘキ事

第六條 第三類證券印紙貼用ノ帳簿期限相滿除白ノ紙數之レアルトテ第三則第四條ヲ犯シ更

ニ證券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脱税高同前上ノ四倍過料タルヘキ事

第七條 諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ其減税高ノ十倍過料タルヘキ事

第八條 規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ證券印紙ニ調印セサル者ハ三十圓以下ノ過料タル
ヘキ事

第九條 證券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナル歟或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサル歟又ハ界
紙可相用諸證書ニテ界紙ヲ用ヒサル證書ヘ證人ニ相立又ハ與書等致候者ハ二十五圓以下ノ
過料タルヘキ事

第十條 官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條ニ背キ賣捌タル證券○印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ
知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ○印紙代ノ五十倍過料タルヘキ事

第十一條 證券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸帳簿ニ調印致シ候者ハ其人毎ニ帳簿主
ヨリ取立候過料高百分ノ一ツハニ各過料タルヘキ事

第十二條 一旦相用ヒ調印セシ證券印紙ヲ再用セントシテ之ヲ剝取り調印ヲ洗滅スル者或ハ
洗滅シタルモノト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ過料タルヘキ事

第十三條 證券○印紙贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ
過料タルヘキ事

第十四條 前數條ニ掲クル處ノ犯人ヲ見届ケ訴出ル者アルトキハ事實取糺ノ上相違ナキニ
於テハ其賞トシテ其過料金ノ半高ヲ下サルヘキ事

第五則 附 録

- 第一條 諸證書ニ外國貨幣ヲ以テ記載セル分ハ其節ノ相場ヲ以テ內國通貨ニ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事
- 第二條 公債證書類ハ其證書面ノ高ニ拘ハラズ賣買ノ正金高ヲ以テ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事
- 第三條 官ノ金穀諸拜借證文ノ儀衆庶一般ノ災厄ヨリ起レル救助ニ關スル分ハ〇〇印紙ヲ用フルニ及ハサレトモ其餘ノ諸拜借ハ總テ借用金穀證文規則ノ通タルヘキ事
- 第四條 印紙貼用アル諸證書ハ事故アリテ書改候節ハ新證書へ更ニ印紙貼用致スヘキ事
- 第五條 凡ソ諸證書帳簿ニ誤リテ過剩ノ印紙ヲ貼用セルモノハ其證ニ於テ妨ナキ事
- 第六條 諸證書ヲ差戻シ又ハ諸切手類現品引替ノ節戻シ主ニテ背テ調印アル印紙面ヲ塗消シ或ハ引裂キ相戻スヘキ事
- 第七條 各所問屋ヲ經テ送致スル荷物送狀ヲ途中宿湊ニ於テ其儘繼送候節ノ添狀ハ印紙貼用ニ及ハサレトモ右荷物ヲ引分ケ各別ニ差送候節ノ新規送狀ハ規則ノ通印紙貼用致スヘキ事
- 第八條 爲取換約定書ノ類ハ雙方トモ印紙貼用致スヘキ事
- 第九條 院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等へ貢金其他官金相預候節〇〇利預リ息料又ハ手数料等受用致シ候分ハ假令官金ト雖モ預金證文或ハ預リ金通報へ第二類〇〇利預リ息料又ハ手数料等無之分ハ第一類ノ印紙貼用可致事
- 第十條 五圓二十圓兩種ノ印紙ハ印紙賣捌ノ許可ヲ受タル各地銀行並各府廳爲替方御用勤候者ニ限リ爲賣捌候事

- 第十一條 印稅規則ニ相觸候證書並ニ帳簿ヲ授受致候儀相願レ規則ノ通過料金差出候後ニ至ツテモ其證書帳簿ハ取揚ケ裁判不相成事
- 第十二條 前條ニ掲クル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事
- 第十三條 第十一條ニ掲クル證書ノ內界紙可相用處他紙ヲ相用候證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ其證書ハ一錢印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事
- 第十四條 第十一條ニ掲クル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ帳簿主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事
- 第十五條 甲乙等ノ號ヲ各帳へ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツ、所持シテ相互ニ交換致ス通報ノ類二冊トモ後證トナルヘキモノハ甲乙トモ印紙貼用致スヘキ事
- 第十六條 旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受ケ候トモ又ハ出先ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受ケ候トモ便宜ニ任スヘキ事
- 第十七條 最初帳簿附込見積金高百圓以內ト見込印紙貼用セス官員ノ調査ヲ受ケサル者漸々附込相崇ミ誤テ百圓以上ニ及候者ハ附込金高二百圓以內ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其管轄廳へ差出調査ヲ受候ニ於テハ犯則ノ限ニ無之事
- 第十八條 印紙多數用フル節證書面狹隘ニテ貼用シカタキ分證書裏面へ貼用致シ第二號圖ノ通調印致スヘキ事

右布告第八十一號證券印稅規則ノ改定ニ由リ印紙界紙亦變更セラレタリト雖モ從來ノ印紙界紙

ヲ遠ニ廢止スルハ事實上不便尠ナカラサルヲ以テ明治七年七月二十九日布告第八十二號ヲ以テ當分ノ内ハ從前ノ印紙界紙トモ取交使用スルヲ得ヘキ旨公布セリ而シテ前述證券印稅規則ノ變更ニ就テハ其施行ノ細則ヲカルヘカラサルヲ以テ同年八月大藏省達第七十九號ヲ以テ證券印稅取扱心得書ヲ制定シ徵稅上依遵スル所アラシム即左ノ如シ

大藏省達第七十九號 (明治七年八月三日)

本年九月一日ヨリ更ニ證券印稅規則御施行相成候ニ付別紙證券印稅取扱心得書頒布候條此旨相違候事

證券印稅取扱心得書

- 第一 證券^{界紙}ハ長官名印ノ證書ヲ以テ租稅寮ヨリ請取ヘキ事
- 第二 地方ニ寄リ賣捌所願出無之場所ハ區戶長中人撰ノ上申付差支ナキ様取計フヘキ事
- 第三 賣捌所看板^{ハ府縣廳ニ於テ}官費ヲ以テ製造シ相渡スヘキ事
- 第四 賣捌人廢業ノ節ハ勿論休業タリトモ看板ハ返上致サセヘキ事
- 第五 賣捌人^{ハ界紙}渡方ノ儀ハ代金即納ニ候ハ、其高申立ニ任セ代金後納ナレハ當人分限ヲ見計ヒ一箇ニ付^{界紙}合金高多クモ一度ニ三百圓ヲ以テ限トシ相渡スヘキ事
- 第六 賣捌人水火盜難其外何様ノ引負出來候共相違ナク辨納致ヘキ旨慥ナル證人相立第一書式ノ通連印ノ受書差出サセヘキ事
- 第七 ^{界紙}稅金後納ノ賣捌人^ハ手數料トシテ賣捌金高百分ノ四支給シ^{界紙}稅金即納ノ者^ハ其金高十分ノ一其都度支給スヘキ事

第八

^{界紙}稅金即納ノ賣捌人廢休業等ニテ看板返納ノ上^{界紙}共返上ノ儀願出候節ニ限り^{界紙}引替稅金全額返戻スヘキ事

但^{界紙}表摺レ又ハ染ミ跡等ノ損シアルモノハ返上相成ラス且返上ノ^{界紙}ニ相當セル手數料ハ最前相渡候内ヨリ更ニ返納スヘキ事

第九 五圓二十圓兩種ノ印紙ハ銀行又ハ頁金爲換方御用相勤候者ハ印紙賣捌所ノ許可イタシ看板相渡置爲賣捌可申候尤此兩種ニ限り買取人名前爲認置年年二月中取繼メ租稅寮ヘ差出可申事

第十 賣捌人水火盜難等ニテ^{界紙}紛失候トモ代金辨償致スヘキ旨受書差出候儀ニハ候得トモ萬一其變動格別ニシテ事情憫諒スヘキモノハ其次第ヲ具狀シ應分ヲ乞フヘキ事

第十一 諸帳簿へ成規ノ通印紙貼用ノ有無調査トシテ一箇年一度ツ、其^{府縣廳}ノ掛リ官員巡廻致スヘキ事但本年ノ儀ハ人民未タ慣習セサルニ付別ニ説諭ノ爲掛官員再應巡廻爲致候トモ不苦就テハ租稅寮官員派出爲致候儀モ可有之ニ付交互協議ヲ遂ケシムヘキ事

第十二 帳簿調査トシテ官員巡廻ノ儀ハ人民職業ノ妨碍不相成季節ヲ以テ豫テ日割ヲ定メ布達致置一區或ハ數區ヲ限リ其地形便宜ノ場所ニ於テ調査致スヘキ事

但區戶長並賣捌人ノ儀ハ人民一般ノ訓導ニモ可相成者ニ付兼テ官員ニ於テ精精規則面等説諭致シ置可申事

第十三 印紙貼用ノ帳簿調査ノ節ハ帳簿ノ初丁ニ相記シ有之附込見積金高へ成規ノ通印紙貼用アリ哉否ヲ點檢シ若シ成規ニ觸レ候儀有之候ハ、本年十二月三十一日マテニ説諭ヲ加ヘ

定規ノ通印紙貼用調印可爲致事

- 第十四 調査濟ノ帳簿ハ其初丁ニ記載アル附込見積金高ノ上ニ調査ノ官員小印ヲ捺シ可申事
 - 第十五 第一類帳簿ノ附込見積金高又ハ第三類帳簿ノ期限等ノ相滿候節ハ成規ノ通り帳末ニ附込合金高或ハ滿期ヲ記シ差出候ハ、其帳簿ノ初丁ニ照シ調査ノ官員小印ヲ捺シ可申事
 - 第十六 印紙收稅計算表式第二雜形ノ通タルヘキ事
 - 第十七 賣捌人ヨリ相納候界紙稅ハ取纏メ次第相納メ税金高總計ハ年年六月ヲ限リ前條收稅計算表ニ掲ケ一月中本省ヘ差出スヘキ事
 - 第十八 界紙稅ハ一箇年ノ總計上計帳ヘ記載スヘキ事
 - 第十九 管轄限賣捌人名増減帳ハ年年二月中租稅寮ヘ差出スヘキ事
 - 第二十 増官員月給旅費並賣捌人手數料其他印稅ニ屬スル諸費申受ノ手續及遣拂仕上ノ儀ハ去明治六年第四百二十七號ヲ以テ御達相成候金穀出納取扱ノ順序並勘定帳雜形ニ準據スヘキ事 (書式略)
- 斯クテ同年八月更ニ大藏省達第八十號ヲ以テ諸帳簿表紙ニ有稅無稅ノ別ヲ朱記スヘキ旨ヲ命ス蓋シ徵稅事務執行上便宜ヲ計レルモノナリ其達文左ノ如シ
- 大藏省達第八十號 (明治七年八月三日)
- 證券印稅規則公布相成候付テハ管下人民ヘ左之通可相達事
- 一 證券印紙貼用セル諸帳簿ハ其表紙ノ端ヘ(印稅濟)又附込見積金高百圓未滿ニテ印紙貼用ニ及ハサル諸帳簿ニハ前同様無稅帳ト顯然有稅無稅ノ分別ヲ朱ニテ相記シ取引先ノ便ニ供

ニ候様可致事

但證券印紙貼用アルヘキ諸帳簿ハ萬一印紙貼用無之儘ニテ授受致シ候節ハ帳簿主ノミナラス取引之上調印致シ候者ト雖モ證券印稅規則中賞罰例第十一條ノ通りニ候條各自精精注意可致事

右ノ如ク布告第八十一號證券印稅規則ノ改定ニ伴ヒ之ニ附屬ノ諸法規亦改定セラレタリシカ前述證券印稅規則中ニ從來ノ印紙規則ハ總テ之ヲ廢スル旨ノ規定アリシ爲メ從來ノ規定ハ右布告第八十一號ノ公布ト同時ニ消滅ニ歸シ右規則實施ノ日即明治八年九月一日マテハ印紙稅ヲ課セサルヤノ疑ヲ生セルモノアリシヲ以テ八月七日布告第八十四號ヲ以テ布告第八十一號中從來印紙規則總テ廢シトアルハ印稅規則施行當日ヨリ廢スル儀ト心得ヘキ旨ヲ達セリ而シテ新印稅規則施行ニ付テ從前ノ證書帳簿取扱方ヲ一定スルノ必要アルヲ以テ同年八月布告第八十六號ヲ以テ左ノ如ク公布セリ

布告第八十六號 (明治七年八月二十日)

本年七月第八十一號ヲ以テ證券印稅規則布告候處本月三十一日迄授受ノ證書類ハ其證書入用中並證印濟ノ帳簿ハ其見積金高附込相滿候迄其儘可相用此旨布告候事

但金高無限 第一類ニテ一萬九千圓以上 證印相受候帳簿並荷物判取帳ハ紙數盡候迄可相用事
然ルニ證券印稅規則第五則第九條ニ定ムル所ノ院省使府縣廳ヨリ銀行或ハ爲替方ニ預ケ入レタル官金ニ對スル預リ證書類ノ印紙貼用方ヲシテ民間一般預金ニ照準セシムルノ規定ハ固ト公平ノ趣旨ニ基クモノナルヘント雖モ右貼用ノ印紙代ハ約定ノ預金手數料ノ外増金ヲ申請スルノ口

實タラシメ結局官ノ失費ニ歸著スヘキヲ以テ同年八月三十日布告第八十九號ヲ以テ該條ヲ削除シ更ニ第二則中ニ左ノ如キ一條ヲ追加シテ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル旨ヲ明ニセリ

一 院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲替方等へ貢金其他官金相預ケ候節預リ金證文並預金通帳ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

而シテ新稅法ニ基ク界紙ハ同年九月五日布告第九十四號ヲ以テ其樣式ヲ定メ印紙ハ十月二十二日布告第百十一號ヲ以テ其見本ヲ公布セリ尋テ十二月二十四日布告第百三十六號ヲ以テ證券印稅規則第二則第一條第二類並第三類諸證書中左ノ如ク加除更正ヲ施セリ蓋第二類證書中爲替手形置手形荷爲替手形ノ如キハ固ト金融上大ニ獎勵スヘキモノニシテ稅法ニ於テモ亦可及的寬大ノ處置ニ出ツルヲ至當トスルヲ以テ置手形ハ全然課稅ヲ免シテ自在タラシメ爲替手形荷爲替手形ハ第二類中ヨリ排除シ第三類中ニ加ヘテ其稅額ヲ減少シ尙ホ從來規定ナカリシ諸品賣買仕切書ハ荷主ヨリ送致セル物品ノ價格並ニ相場ヲ該荷主若クハ其他ニ於テ確知スルノ證ニシテ物品送附ノ際添附スル送狀ノ比ニアラサルナリ然ルニ送狀ハ之ヲ一類中ニ掲載シ仕切書ハ之ヲ無稅トナスカ如キハ甚タ權衡ヲ失スルヲ以テ之ヲ第二類中ニ追加スルコト、爲シタルナリ

布告第百三十六號 (明治二十七年十二月二十四日)

本年七月第八十一號布告證券印稅規則第一條第二類並第三類諸證書中左之通加除更正明治八年三月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

第二則第一條第二類中爲換手形並ニ置手形及荷爲替手形ノ二項ヲ除キ左ノ一項ヲ加フ
一 諸品賣買仕切書

右ノ仕切書ハ

| | |
|-----------|--------|
| 書面金高十圓未滿ハ | 界紙ニ及ハス |
| 同斷金高十圓以上 | 印稅一錢 |
| 同斷金高二十圓以上 | 同 二錢 |
| 同斷金高三十圓以上 | 同 三錢 |
| 同斷金高四十圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高五十圓以上 | 同 四錢 |

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第二則第一條第三類中へ左ノ二項ヲ加フ

- 一 爲替手形
- 一 荷爲換手形

右ノ手形ハ

| | |
|-------------|--------|
| 書面金高五十圓未滿ハ | 界紙ニ及ハス |
| 同斷金高五十圓以上 | 印稅一錢 |
| 同斷金高百圓以上 | 同 二錢 |
| 同斷金高百五十圓以上 | 同 三錢 |
| 同斷金高二百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高二百五十圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高三百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高四百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高五百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高六百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高七百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高八百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高九百圓以上 | 同 四錢 |
| 同斷金高一千圓以上 | 同 四錢 |

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

同月二十五日布告第百三十七號ヲ以テ證券印稅規則第五則中ニ一、委任狀ノ儀ハ都テ界紙ヲ相用

へキ事ト追加シ委任狀ハ自今都テ界紙ヲ用キシムルコト、爲セリ蓋シ委任狀ハ界紙ヲ用フヘキ性質ノモノタルニ拘ハラズ從來ハ別段ノ規定ナカリシカ爲メ往々白紙ヲ使用スル者アリタルヲ以テ特ニ明文ヲ設ケテ此弊ヲ除ケルナリ但シ右布告第三百七十七號ニ由リ追加ノ條項ハ明治八年二月布告第十一號ヲ以テ明治八年四月一日ヨリ施行セリ而シテ證券印稅規則ノ改定ニ就テハ政府ハ汲々トシテ人民ニ誤解ノタメ犯則スルモノナカラシメントヲ勉メ既ニ其心得方ヲ達示シ或ハ官吏ヲシテ訓示セシムル所アリシモ更ニ同年十二月大藏省達第七十五號ヲ以テ帳簿檢査ノ際稅則違犯ノ者アルモ明治八年中ハ之ニ對シ特別ノ處分ヲ執リ專ラ訓戒ヲ旨トシテ處理セシムルコト、セリ其達左ノ如シ

大藏省達第七十五號 (明治二十七年二月二十七日)

本年七月第八十一號布告證券印稅規則中帳簿金高見積附込方並印紙貼用ノ儀實際施行ノ日淺ク人民不馴ノ趣ニ相聞候ニ付帳簿調查ノ節ニ限リ假令稅法ニ相觸候儀有之候トモ規則新舊ニ不拘來明治八年中ハ專ラ訓導ヲ主トシ精精說諭ヲ加ヘ相當ノ印紙貼用可爲致此旨相達候事
 明治八年一月二十日布告第四號ヲ以テ明治七年布告第八十一號證券印稅規則第五則第十條ヲ削除セリ蓋シ同條ニ於テ五四二十四ノ印紙ハ特ニ印紙賣捌ノ許可ヲ受ケタル各地銀行並ニ各府縣廳爲換方ヲシテ賣捌カシムルコト、爲シタリシモ各地銀行モ當時極メテ少數ナリシノミナラス爲換方ノ内ニハ營業困難ノ爲メ閉店シタルモノモ亦少ナカラサリシカハ各地ニ於テ之カ買受ニ付キ大ニ不便ヲ感スルノ狀況ナリシヲ以テ自今右ノ制限ヲ解キ兩種印紙モ亦他ノ一般印紙ト均シク身元儲ナル者ニハ何人ヲ問ハス賣捌方ヲ許可スルコト、爲セルナリ

更ニ同年三月十七日大藏省達第八號ヲ以テ諸帳簿中第一第二類等取交セ附込ムモノハ其合計見積金高ニ應シタル第二類印紙ヲ第三類帳簿ニ第一類第二類ヲ雜記スルモノハ第三類印紙貼用ノ外右ニ準シ第二類印紙ヲ並ヘ貼用シ之ニ第一類ノミヲ雜記スルトキハ第三類印紙貼用ノ外第一類印紙ヲ並ヘ貼用スルコト、爲シ以テ異種雜記ヲ許セリ蓋シ是ヨリ先キ明治七年印紙貼用諸帳簿ノ實地調査ヲ爲シタリシカ當時右帳簿中ニ各類ヲ雜載セルモノヲ發見セリ然ルニ若シ規則ニ從ヒ其類毎ニ印稅ヲ貼用セシムルコト、セハ其手數頗ル繁雜ニ涉ルノミナラス一朝之ヲ改正スルトキハ貼用者苦痛ヲ感スヘキヲ察シタルニ因ルナリ而シテ其後證券印稅規則中賞罰例ニ遺漏ノ點アリテ大ニ權衡ヲ得サルモノアルヲ發見シタリシヲ以テ同年四月布告第五十一號ヲ以テ印稅規則第四則中左ノ如ク改正増補ヲ施セリ

布告第五十一號 (明治八年四月十日)

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則第四則中左ノ通改正增加候條此旨布告候事

證券印稅規則

第四則 賞罰例

第七條 改正

一 諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ其減稅高ノ十倍其證書受取タル者ハ減稅高五倍ノ科料タルヘキ事

第八條 但書增加

但其調印セサル證書ヲ受取リタル者ハ渡主ニ科スル半高ノ科料タルヘキ事

第十五條增加

一 證券印紙貼用スヘキ界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ十倍其證書受取リタル者ハ減稅高五倍ノ科料タルヘキ事

明治七年布告第八十一號證券印稅規則ノ規定ニ依レハ印稅規則違犯ノ證書並ニ帳簿ヲ授受セル者ハ其證書帳簿ニ關スル裁判ヲ受理セサル旨ヲ定メ特定ノ場合ニハ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取上裁判スヘキ旨ヲ定メタルモ同法施行以前ノ此等書類ニ對シテモ亦右ニ準シ處理スルヲ便トスルヲ以テ明治八年五月布告第八十三號ヲ以テ左ノ如ク公布セリ

布告第八十三號 (明治八年五月十二日)

明治六年六月一日以後同七年八月三十一日以前ニ取結ヒタル諸約定ニテ印紙ヲ貼用セス或ハ界紙ヲ用ヒサル證書ヲ取置クカ又ハ附近ノ請取簿ニ押印ヲ受ケサル者ハ聽訟裁判上無據事故ノ有無ニ因リ繰上クルト繰上ケサルトノ別之レアリ候處七年七月第八十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改定相成候ニ付テハ六年六月一日以後七年八月三十一日以前ノ分ト雖モ右規則ニ準シ證書受取主或ハ帳簿主ニ於テ舊規則相當ノ印紙ヲ自分ニテ貼用押印ノ上訴出ル時ハ採上裁判ニ及候條此旨布告候事

而シテ從來各應ニ於テ諸商人又ハ諸職工ニ用向ヲ申付クル際取置クヘキ受書中其事件ニシテ受負又ハ約定ニ涉ルモノハ宜シク證券界紙ヲ使用セシムヘキモノナルニ拘ラス證券印稅規則中之ニ關スルノ明文ナカリシ爲メ之カ處分ニ付差支ヲ生シタリシヲ以テ同年七月二十二日布告第二百二十號ヲ以テ此等ノ受書ハ自今規則第二則第一條第二類諸證書中諸受負證文及ヒ金錢約定證文

ニ照準シ又其受書ニシテ金高ヲ記載セサル分ハ第三類金高記載無之約定證書ニ照準スルコト、爲セリ後又漸次稅則ヲ施行スルニ隨ヒ米及雜穀預リ證文ノ如キ金錢預證文ト全ク同性質ナルニ拘ハラス規則中規定ナキカ爲メ稅則ノ適用ヲ免レ甚タ不權衡ナル結果ヲ生スルヲ發見シ同年八月布告第二百二十六號ヲ以テ規則第二則第一條第一第二類諸證書中ニ左ノ追加ヲ爲セリ

布告第二百二十六號 (明治八年八月八日)

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則第二則第一條第一類同第二類諸證書中へ米並ニ雜穀預リノ項左ノ追加候條此旨布告候事

第二則第一條第一類諸證書中

- 一 預リ米 ○○證文
 - 一 預リ雜穀 ○○證文
- 右ノ證書ハ雜穀高五石以上ハ總テ一錢ノ印稅雜穀高五石未滿ハ界紙ヲ用フヘシ
- 同第二類諸證書中

- 一 預リ米 ○○證文 但使用ヲ爲サハル明文無之分
- 一 預リ雜穀 ○○證文 但使用ヲ爲サハル明文無之分

證券印稅規則ニ依リ諸帳簿檢査ノ際犯則者アル場合ノ特別處分方ニ就テハ明治七年大藏省達第百十五號ヲ以テ明治八年ヲ限リ檢査ヲナサス專ラ訓戒ヲ與フヘキ旨ヲ達シタリシカ明治九年七月四日大藏省達第六十八號ヲ以テ明治九年以後ト雖モ尙右ノ達ニ依リ取扱フヘキ旨ヲ命セリ是ヨリ從キ證券印稅規則ノ改定ニ伴ヒ印紙界紙亦全ク變更セラレタルモ從來ノ印紙界紙モ當分使

用ヲ許スヘキ旨明治七年布告第八十二號ヲ以テ公布シタリシカ明治九年十二月十六日布告第百五十五號ヲ以テ府縣ニ於テ製造ノ舊證券界紙ハ明治九年十二月三十一日限り使用ヲ許サ、ル旨ヲ公布セリ

斯クテ明治十一年ニ至リ起業公債ヲ起シタリシカ同公債ハ實ニ我邦ニ於テ公債ヲ募集シタルノ嚆矢ニシテ印稅規則ハ此種ノ場合ニ於ケル人民ノ申込並割掛出金ノ受取書ノ如キハ未タ豫想セナリシナリ故ニ若シ稅則ノ明文ヲ以テ之ヲ斷センカ此種申込書受取書假證券ノ如キモ亦相當ノ印紙ヲ貼用スヘキニ似タリト雖モ之カ取扱ヲ爲ス三井銀行及第一國立銀行ハ政府ノ委任ヲ受ケテ取扱フモノトルカ故ニ印紙及界紙ヲ用フルニ及ハサルヘシトノ議アリ依テ明治十一年五月二十一日太政官ヨリ其旨大藏省ニ指令シ併セテ司法省ニ達示セリ而シテ又銀行當座預金小切手ハ由來十圓以上ハ規則ニ從テ印紙ヲ貼用シ來リタリシモ斯ノ如キハ融通上金錢受授ノ繁雜ヲ省ク趣旨ニ反スルヲ以テ茲ニ歐米ノ例ニ倣ヒ小切手ノ每丁ヘ印紙ヲ貼用セシメ豫メ印稅ヲ納付セシメ稅印ヲ押捺スルコト、シ一ハ以テ融通ノ敏活ヲ計リ一ハ以テ印紙製造ノ費用ヲ省略スルコト、シ之レト同時ニ證券印稅規則ノ第二類證書中諸品賣買仕切書ハ從來往々其性質ヲ誤解シ印紙ヲ貼用セサルモノアリタルヲ以テ茲ニ其性質ヲ明記スルコト、爲シ明治十二年八月布告第三十一號ヲ以テ規則第一條第二類第三類諸證書中ニ左ノ如キ追加ヲ爲セリ

布告第三十一號 (明治十二年八月十七日)

明治七年七月第八十一號布告證券印紙稅規則中左ノ通追加シ來ル十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

第二則第一條第二類諸證書中諸品賣買仕切書ノ傍ヘ左ノ但書追加

但買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問屋仲買又ハ其他ニ於テ仕切り其價格等ヲ荷主ヘ證明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他ニ物品ヲ販賣又ハ輸送スルニ方テ其物品賣却ノ價格ヲ荷受主ニ向テ證明報告スル書類ヲ云フ

同則同條第三類證書中追加

一 銀行當座預リ金小切手

右ノ小切手ハ金高ニ係ハラズ總テ一錢ノ印稅ヲ徵收シ大藏省ニ於テ稅印ヲ押捺スルモノトス右ノ布告ニ依リ銀行當座預金小切手稅印押捺ノ制度實施ニ就テハ同年九月二十四日布告第三十九號ヲ以テ右小切手ニ押捺スヘキ稅印ノ形式ヲ一定セリ而シテ右布告第三十一號ニ依レハ小切手稅印ハ同年十月一日ヨリ實施セルモ直ニ全國一般ニ施行スル能ハサル事情アルヲ以テ同年十月十日布告第四十三號ヲ以テ明治十三年六月三十日限り證券印紙ヲ使用スルヲ得ヘキ旨公布セリ又右小切手押印方ニ就テハ同年九月二日大藏省達ヲ以テ稅印ハ大藏省租稅局ニ於テ押捺スルヲ以テ稅金ハ出納局ヘ現金ヲ以テ納付シ同局預リ切符ヘ稅金上納證書ヲ副ヘ小切手ト共ニ租稅局ヘ差出スヘキ旨ヲ達セリ然ルニ明治十三年十月二十六日大藏省達乙第三十六號ヲ以テ其手續ヲ更正シ小切手ニ稅印押捺ヲ請フトキハ預ケ證書ニ稅金ヲ添ヘ大藏省爲替方東京ハ駿河町三井銀行大阪ハ高橋銀行ニ差出シ右證書ニ稅金預濟ノ證印ヲ受ケ之ニ小切手牒ヲ添ヘ租稅局東京萬世橋出張所又ハ同大阪出張所ヘ差出スヘキ旨ヲ定メ明治十四年一月一日ヨリ實施セリ斯ク明治十四年七月十六日大藏省達乙第十六號ヲ以テ小切手稅印押捺出願方ヲ改正シ稅印押捺ヲ請フ者ハ其枚數ヲ詳記

セル書面へ小切手ヲ添テ租稅局東京萬世橋出張所又ハ同大阪出張所へ差出シ出張所ニ於テ押印
 濟枚數確定ノ儀ヲ送セルトキハ此枚數ニ對スル稅金ニ預リ證書ヲ添ヘ大藏省爲替方東京ハ銀行
 大阪ハ高麗
 橋三井銀行ニ差出シ右證書ニ稅金預リ濟ノ證印ヲ受ケ出張所へ上納スヘキ旨ヲ定メタリ
 然ルニ其後備荒儲蓄金ヲ爲替方等ニ預入レタル場合ニ其預リ證書ニ對シテハ七年布告第八十九
 號ヲ適用シテ印紙界紙共ニ之ヲ用ユルニ及ハサルヤ否ヤニ付キテ大ニ疑問ヲ生シタリシカハ明
 治十四年七月二十二日大藏省ヨリ太政官ニ伺出テタリシニ同年九月十六日太政官ハ印紙界紙共
 ニ之ヲ使用スヘキ旨ヲ指令セリ蓋シ該儲蓄金タル官金ト同一ニ論スヘカラサルヲ以テナリ

第三款 印紙稅ノ第三期

前段述フル如ク證券印稅規則ハ明治七年布告第八號ヲ以テ改正セラレ爾來須要ニ應シテ幾度カ
 修正變更ヲ加ヘラレタリシモ當時各地ニ於ケル財產ノ受授並ニ契約ノ證明ニ用キラル、證書帳
 簿ノ數極メテ多ク其名稱ニ於テモ素ヨリ一定ノ規律ナカリシヲ以テ各地ノ方言慣稱ニ從ヒタレ
 ハ其性質ハ有稅ト認メラルヘキモノモ其名稱ノ異ナルヨリシテ往々無稅トナルモノアリタリ此
 ノ如キハ畢竟舊規成文ノ不備ニ職由スルナリ特ニ規則ニ定ムル稅率ハ或ハ彼ニ重ク或ハ此ニ輕
 ク權衡其宜シキヲ得サルモノ少ナカラス其罰則ノ如キモ當時新刑法施行ノ際ニシテ宜シク寬嚴
 ヲ審査シ他ノ罰則ト平準ヲ得セシムル必要アリ其他從來發行セル證券界紙ハ製造及運搬ニ費用
 ヲ要スルコト甚タ多キヲ以テ總テ印紙貼用ノ法ヲ採ルノ簡便ナルニ如カス是ニ於テカ明治十七
 年五月一日布告第十一號ヲ以テ舊規則ヲ取捨増減シ更ニ改正規則ヲ定メタリシカ新規則ニ於テ

ハ舊來ノ證券界紙ヲ全廢シ特ニ印稅押捺ヲ許容スル所ノモノ、外ハ凡テ印紙貼用ノ制度ヲ採レ
 リ但シ爲換及約束手形用紙ニアリテハ手形用紙ヲ用キシメ以テ取引上ノ便宜ヲ計リタリ而シテ
 稅率ニ付テハ新規則ハ凡テ之ヲ二類ニ分チ其單純ニ印紙ヲ貼用スル證書帳簿ヲ第一類トシ其記
 載高ノ金員ニ比例シテ印紙貼用額ヲ增加スルモノヲ第二類トシタリ是レ畢竟證書帳簿ノ性質ニ
 隨ヒテ印紙ヲ貼用セシメ以テ進稅ノ弊ヲ根絶セントセハ努メテ其種類及區分ヲ簡明ナラシムル
 ヲ要スルヲ以テナリ要スルニ新稅法ハ舊來ノ稅則ニ比シ大ニ其面目ヲ改メ租稅制度ノ上ニ於テ
 著シキ進歩ヲ爲セリ新規則ノ全文ヲ舉クレハ左ノ如シ

布告第十一號 (明治十七年五月一日)

明治七年第八十一號布告證券印紙規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス
 但明治八年七月第二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

證券印紙規則

第一條 凡ソ財產ノ授受及契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ
 第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

- 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但
- シ當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得
- 一 當座預金引出小切手 印稅五厘
- 一 委任狀 同 五厘

| | |
|---------------|-------|
| 金高記載ナキ約定證文 | 印稅一錢 |
| 遺物證文 | 同 一錢 |
| 跡式讓證文 | 同 一錢 |
| 期限ヲ定メサル預リ金證文 | 同 一錢 |
| 耕地小作證文 | 同 一錢 |
| 雇人請合狀 | 同 一錢 |
| 金高記載ナキ諸物品預リ證文 | 同 一錢 |
| 金高記載ナキ諸物品借用證文 | 同 一錢 |
| 地所預リ證文 | 同 一錢 |
| 諸物品切手 | 同 一錢 |
| 借地證文 | 同 一錢 |
| 借家證文 | 同 一錢 |
| 賣買仕切書 | 同 一錢 |
| 保險證文 | 同 一錢 |
| 諸會社株券 | 同 一錢 |
| 送金手形 | 同 一錢 |
| 諸物品通帳 | 同 一錢 |
| 金高記載ナキ諸物品通帳 | 同 一錢 |
| 諸物品判取帳 | 同 二十錢 |
| 結社約定書 | 同 一錢 |

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ效力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 營業ニ關スル送狀 印稅一錢
- 一 營業ニ關スル請取書 同 一錢

第二類

右請證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付一錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ從ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

但爲換手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

- 一 金錢借用證文
 - 一 地所賣買證文
 - 一 金高記載アル諸物品預リ證文
 - 一 金高記載アル諸物品借用證文
 - 一 諸物品賣買證文
 - 一 金錢定期預リ證文
 - 一 金高記載アル諸般ノ契約證書
- 金高一圓以上二十圓未満 印稅一錢
- 金高二十圓以上五十圓未満 同 二錢

| | |
|----------------|--------|
| 金高五十圓以上百圓未滿 | 印稅四錢 |
| 金高百圓以上百五十圓未滿 | 同 六錢 |
| 金高百五十圓以上二百圓未滿 | 同 八錢 |
| 金高二百圓以上三百圓未滿 | 同 八錢 |
| 金高三百圓以上四百圓未滿 | 同 十一錢 |
| 金高四百圓以上六百圓未滿 | 同 十四錢 |
| 金高六百圓以上八百圓未滿 | 同 二十錢 |
| 金高八百圓以上千圓未滿 | 同 二十六錢 |
| 金高千圓以上千四百圓未滿 | 同 三十二錢 |
| 金高千四百圓以上千七百圓未滿 | 同 三十八錢 |
| 金高千七百圓以上二千圓未滿 | 同 四十四錢 |
| 金高二千圓以上二千五百圓未滿 | 同 五十錢 |
| 金高二千五百圓以上三千圓未滿 | 同 六十錢 |
| 金高三千圓以上三千五百圓未滿 | 同 七十錢 |
| 金高三千五百圓以上四千圓未滿 | 同 八十錢 |
| 金高四千圓以上 | 同 九十錢 |

右諸證書ヲ通帳トナストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一 金錢當座預リ證文

一 質物預リ書札

金高一圓以上二十圓未滿

印稅一錢

金高二十圓以上

同 二錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅二錢

金高百圓以上

同 四錢

一 爲替手形

一 荷爲替手形

一 約束手形

金高五十圓未滿

印稅一錢

金高五十圓以上百圓未滿

同 二錢

金高百圓以上二百圓未滿

同 四錢

金高二百圓以上五百圓未滿

同 八錢

金高五百圓以上千圓未滿

同 十五錢

金高千圓以上二千圓未滿

同 二十五錢

金高二千圓以上

印稅五十錢

第三條 前條ニ掲ケル所ノ證書帳簿ト效用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限リニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ受授ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲ケル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

- 一 官廳ヨリ差出證書帳簿
- 一 官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
- 一 國庫金取扱書又ハ爲替方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
- 一 國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
- 一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ差出ス請書
- 一 諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ納入ヘ差出ス請取證書

一 罹災救助金獻金寄付金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之ニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方共相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト效用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取ルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス右證券印稅規則草案ニ於テハ當初印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價モ亦同規則中規定シタリシモ太政官ニ於テ審議ノ際印紙類ハ時ニ改正或ハ加削セサルヘカラサルコトアルハ免カルヘカラサル所ニ屬スルヲ以テ之ヲ布告中ニ明記シ隨テ之カ改正加削ノ度毎ニ布告ヲ發スルハ大ニ不便ナリトシ遂ニ該布告中之ニ關スル詳目ヲ布達ニ讓ルコト、セリ仍テ右布告發令ノ當日即五月一日太

政官布達第十二號ヲ以テ印紙及手形用紙ノ種類並定價ヲ左ノ如ク定メタリ

布達第十二號 (明治十七年五月一日)

今般第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム

但印紙ハ當分ノ内新舊取交使用スルヲ得

| | |
|------|--------|
| 印紙 | 定價五厘 |
| 赭色 | |
| 橙黃色 | 同 一錢 |
| 黃綠色 | 同 二錢 |
| 萌黃色 | 同 五錢 |
| 桔梗色 | 同 十錢 |
| 青色 | 同 二十五錢 |
| 淡黑色 | 同 五十錢 |
| 赤色 | 同 一圓 |
| 手形用紙 | |
| 老綠色 | 定價一錢 |
| 桔梗色 | 同 二錢 |
| 淡黑色 | 同 四錢 |

| | |
|-----|--------|
| 橙黃色 | 定價八錢 |
| 淡赭色 | 同 十五錢 |
| 淡紅色 | 同 二十五錢 |
| 淡青色 | 同 五十錢 |

疑ニ明治七年十二月大藏省達第七十五號同九年七月同第六十八號ヲ以テ帳簿検査ノ際犯則者特別處分方ヲ定メシモ印紙稅法ノ實施以來既ニ數年ヲ經過シ人民亦此制度ニ慣レタルヲ以テ新稅法ノ實施ニ伴ヒ之ヲ廢止シ此種ノ犯則者亦成規ヲ以テ處斷スルノ必要ヲ認メ明治十七年五月二十二日大藏省達第五十二號ヲ以テ前掲達ヲ廢止スル旨ヲ公布セリ次テ同年六月十八日大藏省告示第七十五號ヲ以テ當座預金引出小切手押印出願及納稅手續ヲ定メ稅印押捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記セル書面へ小切手ヲ添へ主稅局へ差出スヘク主稅局ニ於テハ押印濟ノ上其枚數ヲ願人ニ達シ願人ハ此枚數ニ對スル稅金ニ預ケ證書ヲ添へ東京國庫金取扱所ニ差出シ該證書ニ稅金預リ濟證印ヲ受ケ小切手引換ニ同局へ上納スヘキモノトセリ而シテ證券印稅規則改正ノ結果小切手へ押捺スヘキ稅印並ニ證券印紙手形用紙ノ樣式ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ同年六月三十日布達第十六號ヲ以テ之ヲ公布セリ

又舊稅法時代ニ在リテハ帳簿類ニ付テハ當局官吏巡回調査ノ事アリタリト雖モ證書類ニ關シテハ未タ其事ナカリシノミナラス之ニ關シ別段ノ手續等ヲ設クルコトナカリシニ新規則ニ於テハ其第八條ニ於テ印紙ヲ貼用スヘキ帳簿ノ外仕切書送リ狀ハ亦主任官之ヲ検査スルコトアルヘキ旨ノ規定ヲ設ケ併セテ検査ニ關スル特別ノ規定ヲ設クルコト、ナセリ右ノ規定ハ證券印稅検査

程ト題シ八月十三日大藏省達第六十號ヲ以テ達示スル所ニ係ルモノニシテ其全文ハ左ノ如シ
大藏省達第六十號 (明治十七年八月十三日)

本年五月第十一號布告ヲ以テ證券印紙改正相成候ニ付右検査規程左ノ通相定ム

證券検査規程

- 第一項 府縣收稅官吏明治十七年十一號布告證券印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿ノ検査ヲ行フヘシ
- 第二項 検査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期検査トシ一ヲ臨時検査トス
- 第三項 定期検査ハ毎年四五六ノ三ヶ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時検査ハ該検査ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 第四項 検査員ヲ派遣スルニハ府縣管内ヲ數部ニ區畫シ每部其擔當員二名以上ヲ定ムヘシ
- 第五項 検査員ハ其擔當部内ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ以テ一區トシ區内ノ便宜ヲ量リ検査場ヲ設クヘシ
- 第六項 検査員ハ豫メ検査日割ヲ定メ其日割及前條検査場ヲ其區内ノ町村ニ告知スヘシ
- 第七項 臨時検査ノ節ハ時宜ニヨリ前第五項第六項ノ手續ヲ履行セサルコトアルヘシ
- 第八項 検査ハ力メテ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ
- 九項 検査員検査ノ要領左ノ如シ
 - 一 證書帳簿上印紙貼用ノ有無當否
 - 一 帳簿見積金高及使用期限紙數記載方ノ有無當否

一 貼用印紙消印ノ有無當否

一 印紙再貼用又ハ印紙偽造變造ノ有無

一 帳簿調製上詐偽ノ有無

一 證書帳簿差出方店舖商況ニ相應スルヤ否

第十項 検査員ハ豫メ帳簿ヲ備ヘ受検査人ノ宿所職業姓名及證書帳簿ノ種類員數ヲ記載スヘシ

第十一項 證書帳簿ノ検査ヲ受ケサルモノ又ハ之ヲ受クルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルトキハ直ニ本人家宅ニ就テ検査ヲ爲スヘシ

第十二項 検査員ハ検査セシ證書帳簿ニ檢印スヘシ

第十三項 検査濟證書帳簿ノ種類員數及犯則ニ係ル證書帳簿ノ員數ハ一回取纏メ左ノ報告書式ニ倣ヒ收稅長ヨリ主稅局ニ報告スヘシ

但臨時検査ノ節ハ検査ノ實況ヲ報告スヘシ

尋テ明治十八年四月十六日大藏省達第十七號ヲ以テ右證券印稅検査規程中改正ヲ加ヘ其第十三項ヲ削除セリ蓋シ該條規定スル所ノ報告書ハ別段ノ效用ナキヲ認メタルヲ以テナリ

明治十九年四月十日大藏省告示第三十二號ヲ以テ當座預金引出小切手押印稅徵收取扱方ヲ改メ從來大藏省ニ於テ取扱ヒタルモ明治十九年度以降右徵收ハ當分ノ内東京府各區役所ニ於テ之ヲ取扱フモノトセリ斯クテ同年六月大藏省訓示ヲ以テ金高記載ナキ諸物品證書ト雖モ利子ヲ付スヘキ契約書ニハ印紙ヲ貼用セシムヘキ旨ヲ訓示ス蓋シ從來ノ取扱方區々ニシテ一定セサルモノアリシヲ以テナリ

大藏省訓示 (明治十九年六月二十八日)

從來金高記載ナキ諸物品借用證書ト雖其利子ヲ付スヘキ契約書返濟スヘキ契約スルノ外アルモノニハ該物品ノ價額ヲ記載セシメ證券印稅規則第二條第三項若クハ第四項ニ準シ印紙貼用セシムヘキ旨及指令置候向モ有之候處右ハ自今同則第一類第十項若クハ第十一項ニ準シ印紙貼用セシムヘシ

右訓示ス

明治二十年六月大藏省令第十號ヲ以テ稅印押捺小切手ノ銀行會社ノ合併ノ場合ニ於ケル稅印押捺ニ關スル件ヲ定メ左ノ手續ニ依ラシム

大藏省令第十號 (明治二十年六月十七日)

明治十二年第三十一號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第十一號布告ニ依リ押印ヲ受ケタル引出小切手ノ未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印ニ係ル者ハ手数料トシテ一割ヲ減シ即チ舊小切手百枚ニ對シ新小切手九十枚ノ割合ヲ以テ稅印ヲ捺換スル者トス而シテ銀行當座貸越金及コルレスボンデンス約定書ニ證券印紙貼用方ニ付テハ證券印稅規則ノ適用上各地其取扱方一定セス各銀行者ニ於テ頗ル不便ヲ感セシヲ以テ明治二十一年八月二十日大藏省ハ各銀行ニ對シ凡ソ貸借スヘキ金高ヲ明記シタル證書ハ現金取引ノ如何ニ拘ハラズ證券印稅規則第二條第二類第七項ニ據リ相當ノ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ通知セリ尋テ明治二十二年四

月三十日大藏省告示第四十一號ヲ以テ證券印稅規則第二條第一類證書中當座預金引出小切手押印稅徵收方ハ從來東京府各區役所ニ於テ取扱ヒ來レルヲ改メ同年五月一日ヨリ東京府廳ニ於テ之ヲ取扱フコト、ナシタリシカ翌明治二十二年八月十九日大藏省告示第六十七號ヲ以テ更ニ之ヲ改メ自今大藏省印刷局構内主稅局印紙稅課派出所ニ請求スヘキモノトセリ

明治二十三年四月三日法律第三十號ヲ以テ證券印稅規則第九條ニ、切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書ノ一項ヲ加ヘタリ蓋シ切手手形類ノ裏面ニ表面金額ノ受取ヲ證明スルニ止マルモノハ取引上ノ便利ヲ謀リ特ニ證券印紙稅ヲ免除スルノ必要アルニ由ルナリ

明治三十一年七月勅令第四百十號ヲ以テ印紙制度ヲ改正シ從來ノ五種ノ印紙ヲ廢シテ新ニ收入印紙ヲ設ケタリ是ニ於テ證券印紙稅モ爾後收入印紙ヲ以テ徵收スルモノトセリ然レトモ當分ノ内ハ尙ホ舊ニ依リ證券印紙ヲ以テ代用スルヲ得ルコト、ナセリ

第四款 印紙稅ノ第四期

上來述ヘタル處ノ如ク證券印紙規則ハ明治十七年ノ制定ニ係リ爾後屢々改正ヲ加ヘタルニ拘ラス尙ホ錯雜不備ノ點多キノミハラス漸次時勢ノ進歩シ商業取引ノ發達スルニ從ヒ從來ノ規程ハ漸次經濟社會ノ實狀ニ適セサルニ至レリ是ニ於テカ明治三十二年三月九日法律第五十四號ヲ以テ證券印紙規則ヲ廢止シ新ニ印紙稅法ヲ制定シ以テ稅率ヲ單純ニシ小切手ヲ免稅シ其他爲替手形約束手形株券債券船荷證券其他ノ證券ニ稅印ノ押捺ヲ受クルコトヲ得セシムル等專ラ納稅者ノ便利ヲ圖リ以テ社會ノ狀況ニ適應スルノ法律ヲ制定セリ其全文左ノ如シ

法律第五十四號 (明治三十二年三月十八日)

印紙稅法

- 第一條 財產權ノ創設、移轉、變更、消滅ヲ證明スヘキ證書帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ
- 第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス
- 金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス
- 第三條 爲替手形約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ
- 金高二千圓未滿 印紙稅二錢
金高二千圓以上 印紙稅十錢
- 第四條 左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
- 一 委任狀 印紙稅一錢
 - 一 銀行預金證書 印紙稅二錢
 - 一 船荷證券 印紙稅二錢

| | |
|------------------------|-------|
| 運送貨物引換證 | 印紙税二錢 |
| 倉荷預證券 | 印紙税二錢 |
| 倉荷質入證券 | 印紙税二錢 |
| 保險證券 | 印紙税二錢 |
| 債券 | 印紙税二錢 |
| 株式申込書 | 印紙税二錢 |
| 地上權、水小作權、地役權ニ關スル證書 | 印紙税二錢 |
| 使用貸借、貸借、屋敷、定期金ニ關スル契約證書 | 印紙税二錢 |
| 定款及組合契約書 | 印紙税二錢 |
| 權利ノ變更ニ關スル證書 | 印紙税二錢 |
| 追認承認ニ關スル證書 | 印紙税二錢 |
| 物品切手 | 印紙税二錢 |
| 賣買仕切書 | 印紙税二錢 |
| 送狀 | 印紙税二錢 |
| 受取書 | 印紙税二錢 |
| 金高記載ナキ證書 | 印紙税二錢 |
| 擔保品差入證書、擔保品預證書 | 印紙税二錢 |

第五條

- 一 通報 印紙税二錢
- 一 判取帳 印紙税二十錢
- 一 左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書帳簿
- 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書帳簿
- 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
- 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳又ハ公署ニ提出スル證書
- 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金受取證
- 一 小切手
- 一 金高五圓未滿ノ爲替手形約束手形
- 一 營業ニ關セサル受取書
- 一 金高五圓未滿若クハ金高記載ナキ送狀受取書、賣買仕切書
- 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一 證券ノ裏書又手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏書記載
- 一 手形ノ引受保證
- 一 手形及證券ノ複本謄本

第六條 印紙稅ハ證書帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形約束手形船荷證券運送貨物引換證倉荷預證券倉荷質入證券保險證券株券債券ハ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納附シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ日數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカクテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署書ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿賣買仕切書送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書帳簿ニ相當ノ印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自

附則

用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ税金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ
次テ前掲印紙稅法第六條ニ依ル稅印押捺請求方ニ關シ明治三十二年三月十一日大藏省ハ省令第五號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

大藏省令第五號 (明治三十二年三月十一日)

印紙稅法第六條ニ依リ證書ニ稅印ノ押捺ヲ求メムトスル者ハ所轄稅務署ニ申出税金ヲ納付シ其領收證書又ハ稅務署ノ納稅濟證明書ヲ添へ用紙ト共ニ請求書ヲ大藏省ニ提出スヘシ

從來ノ印紙稅法ニ於テハ爲替手形約束手形ハ一通毎ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限り二千圓未滿ハ印紙稅二錢二千圓以上ハ印紙稅十錢トナシタルモ實際上頗ル不便ナルカ故ニ之ヲ改定スルノ必要アリシト稅印押捺ノ區域ヲ擴張スルノ必要アリシニ依リ明治三十四年四月法律第十六號ヲ以テ印紙稅法中左ノ通改正セリ

法律第十六號 (明治三十四年四月二日)

印紙稅法中左ノ通改正ス

第三條 削除

第四條中委任狀ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

- 一 爲替手形 印紙稅二錢
- 一 約束手形 全 二錢

第六條中爲替手形約束手形船荷證券運送貨物引換證倉荷預證券倉荷質入證券保險證券株券債

券ハヲ削ル

從來税印ノ押捺ヲ請求スルニハ大藏省ニ其請求書ヲ提出スヘキ規定ナリシモ斯クテハ地方ニ於ケル請求者ニ取リテ甚不便ナルカ故ニ全國權要ノ地ニ於テ請求スルコトヲ得セシメンカ爲メニ明治三十四年八月三日大藏省令第十六號ヲ以テ明治三十二年大藏省令第五號中ヲ改正シ、大藏省トアルヲ改メ、東京、大阪、横濱、神戸、長崎、函館、名古屋、各稅務管理局ト爲シ又法律第十六號ヲ以テ印紙稅法第六條ノ改正セラレタル結果同省令中「證書」ニ「三字」ヲ削除セリ

| 年 度 | 印紙稅收入額 | | | | 合 計 |
|---------|---------------|------------|-----------------|------------|--------------|
| | 證券印紙稅 | 小切手押印稅 | 手形用紙稅 | 證券紙稅 | |
| 同 第十三年度 | 八〇三、〇九九五三 | 八、三四二六〇 | 〇 | 五八、九五六一四〇 | 八六九、二六〇、三三三 |
| 同 第十二年度 | 六二七、〇四四三三 | 三、三三一九三〇 | 〇 | 六五、〇三〇七三 | 六九五、五八八、四三四 |
| 同 第十一年度 | 五一九、三七二二六一 | 〇 | 〇 | 六八、七二二六五五 | 五八八、〇九四、〇一六 |
| 同 第十年度 | 四三九、九二八六九六 | 〇 | 〇 | 六五、六九六〇三二 | 五〇五、六二四、七二七 |
| 同 第九年度 | 三七〇、六〇四二九四 | 〇 | 〇 | 六三、五五〇九四八 | 四三三、一五五、二四二 |
| 明治八年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 四九八、二二八、四三三 |
| 第 八 期 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 三九五、三二五、八三三 |
| 第 七 期 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 二九一、八七八、七六一 |
| 同 十四年度 | 八八、七五七、七六六 | 九三、八九〇〇〇 | 〇 | 五七、六七九、七九〇 | 八八五、八二六、二八六 |
| 同 十五年度 | 八〇、三七〇、七二七 | 一〇、三六五、七〇〇 | 〇 | 五八、七二二、五〇〇 | 八七二、七九四、四七七 |
| 同 十六年度 | 六〇、三八一、五四九 | 七〇、五〇〇、〇〇〇 | 〇 | 四三、七四三、〇五六 | 六七二、一七九、六一五 |
| 同 十七年度 | 六五、八、六二四、四二六 | 二、六七四、六一〇 | 一、七六九、二四〇 | 〇 | 六七八、八九一、二七六 |
| 同 十八年度 | 四二、九〇、三八九、一八 | 一、二一〇、〇六五 | 五、五六五、七四〇 | 〇 | 四三五、八〇四、七三三 |
| 同 十九年度 | 五七、七〇、一七、七一一 | 一、八九九、九六五 | 八、七二一、七三七 | 〇 | 五八七、六二四、八七三 |
| 同 二十年度 | 五四九、六九三、三三八 | 二、七九四、五九〇 | 一、八八一、一四一 | 〇 | 五六三、三〇五、九六九 |
| 同 二十一年度 | 九六、二六八、〇〇〇 | 二、七四五、〇〇〇 | 一、二〇〇、〇〇〇 | 〇 | 九八五、〇三三、〇〇〇 |
| 同 二十二年度 | 六〇〇、四〇六、〇〇〇 | 三、五五三、〇〇〇 | 一、八、六〇〇、〇〇〇 | 〇 | 六二二、一三三、〇〇〇 |
| 同 二十三年度 | 五五三、六六一、五二四 | 三、七二四、七九〇 | 二、三三三、二三七四 | 〇 | 五八〇、七〇七、六八八 |
| 同 二十四年度 | 五五八、七二四、九〇三 | 三、七三一、九七五 | 二、五六五、二四七四 | 〇 | 五八九、〇九九、三三二 |
| 同 二十五年 | 六二八、七三三、六八五 | 五、五九七、六八〇 | 二、五、六六八、九二七 | 〇 | 六五九、九九九、二九二 |
| 同 二十六年 | 七六、八八九、八六三 | 五、六九〇、二九五 | 三、八九五、〇八四 | 〇 | 七六一、五三三、〇〇二 |
| 同 二十七年 | 七三七、四三八、五四三 | 九、三三一、九九九 | 四、六六七、四四六 | 〇 | 七九三、四三七、四八七 |
| 同 二十八年 | 八三六、五九〇、八六〇 | 一一、〇六六、一九五 | 六、三三三、〇八八 | 〇 | 九〇〇、九八〇、二四三 |
| 同 二十九年 | 一、〇〇五、三五一、九〇五 | 一五、五五一、一九五 | 九、五、一〇二、七四三 | 〇 | 一、一六、〇〇五、八四三 |
| 同 三十年 | 一、〇六一、一〇一、三三一 | 二五、二二六、九一〇 | 一、二、四、五、四〇〇、六七 | 〇 | 一、二二、一九七、八三二 |
| 同 三十一年 | 一、二六六、〇三〇、九三六 | 二二、七六三、五一〇 | 一、五、四、三、六、五、六三九 | 〇 | 一、四四、二一五、九〇八 |

| | | | | | |
|---------|---------------|------------|-----------------|------------|--------------|
| 同 十四年度 | 八八、七五七、七六六 | 九三、八九〇〇〇 | 〇 | 五七、六七九、七九〇 | 八八五、八二六、二八六 |
| 同 十五年度 | 八〇、三七〇、七二七 | 一〇、三六五、七〇〇 | 〇 | 五八、七二二、五〇〇 | 八七二、七九四、四七七 |
| 同 十六年度 | 六〇、三八一、五四九 | 七〇、五〇〇、〇〇〇 | 〇 | 四三、七四三、〇五六 | 六七二、一七九、六一五 |
| 同 十七年度 | 六五、八、六二四、四二六 | 二、六七四、六一〇 | 一、七六九、二四〇 | 〇 | 六七八、八九一、二七六 |
| 同 十八年度 | 四二、九〇、三八九、一八 | 一、二一〇、〇六五 | 五、五六五、七四〇 | 〇 | 四三五、八〇四、七三三 |
| 同 十九年度 | 五七、七〇、一七、七一一 | 一、八九九、九六五 | 八、七二一、七三七 | 〇 | 五八七、六二四、八七三 |
| 同 二十年度 | 五四九、六九三、三三八 | 二、七九四、五九〇 | 一、八八一、一四一 | 〇 | 五六三、三〇五、九六九 |
| 同 二十一年度 | 九六、二六八、〇〇〇 | 二、七四五、〇〇〇 | 一、二〇〇、〇〇〇 | 〇 | 九八五、〇三三、〇〇〇 |
| 同 二十二年度 | 六〇〇、四〇六、〇〇〇 | 三、五五三、〇〇〇 | 一、八、六〇〇、〇〇〇 | 〇 | 六二二、一三三、〇〇〇 |
| 同 二十三年度 | 五五三、六六一、五二四 | 三、七二四、七九〇 | 二、三三三、二三七四 | 〇 | 五八〇、七〇七、六八八 |
| 同 二十四年度 | 五五八、七二四、九〇三 | 三、七三一、九七五 | 二、五六五、二四七四 | 〇 | 五八九、〇九九、三三二 |
| 同 二十五年 | 六二八、七三三、六八五 | 五、五九七、六八〇 | 二、五、六六八、九二七 | 〇 | 六五九、九九九、二九二 |
| 同 二十六年 | 七六、八八九、八六三 | 五、六九〇、二九五 | 三、八九五、〇八四 | 〇 | 七六一、五三三、〇〇二 |
| 同 二十七年 | 七三七、四三八、五四三 | 九、三三一、九九九 | 四、六六七、四四六 | 〇 | 七九三、四三七、四八七 |
| 同 二十八年 | 八三六、五九〇、八六〇 | 一一、〇六六、一九五 | 六、三三三、〇八八 | 〇 | 九〇〇、九八〇、二四三 |
| 同 二十九年 | 一、〇〇五、三五一、九〇五 | 一五、五五一、一九五 | 九、五、一〇二、七四三 | 〇 | 一、一六、〇〇五、八四三 |
| 同 三十年 | 一、〇六一、一〇一、三三一 | 二五、二二六、九一〇 | 一、二、四、五、四〇〇、六七 | 〇 | 一、二二、一九七、八三二 |
| 同 三十一年 | 一、二六六、〇三〇、九三六 | 二二、七六三、五一〇 | 一、五、四、三、六、五、六三九 | 〇 | 一、四四、二一五、九〇八 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 |
| 五十九石未達滿 | 六十石未達滿 | 六十一石未達滿 | 六十二石未達滿 | 六十三石未達滿 | 六十四石未達滿 | 六十五石未達滿 | 六十六石未達滿 | 六十七石未達滿 | 六十八石未達滿 | 六十九石未達滿 | 七十石未達滿 | 七十一石未達滿 | 七十二石未達滿 | 七十三石未達滿 | 七十四石未達滿 | 七十五石未達滿 | 七十六石未達滿 | 七十七石未達滿 | 七十八石未達滿 | 七十九石未達滿 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | |
| 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | |
| 二 | 四 | 五 | 六 | 八 | 九 | 二 | 三 | 五 | 六 | 七 | 九 | 一 | 三 | 四 | 六 | | | | | | |
| 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 石 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 石 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 | 同同 |
| 七十七石未達滿 | 七十八石未達滿 | 七十九石未達滿 | 八十石未達滿 | 八十一石未達滿 | 八十二石未達滿 | 八十三石未達滿 | 八十四石未達滿 | 八十五石未達滿 | 八十六石未達滿 | 八十七石未達滿 | 八十八石未達滿 | 八十九石未達滿 | 九十石未達滿 | 九十一石未達滿 | 九十二石未達滿 | 九十三石未達滿 | 九十四石未達滿 | 九十五石未達滿 | 九十六石未達滿 | 九十七石未達滿 | 九十八石未達滿 | 九十九石未達滿 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 九 | 九 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 |
| 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 | 石 |
| 七 | 八 | 一 | 二 | 四 | 五 | 七 | 八 | 九 | | | | | | | | | | | | | | |
| 斗 | 斗 | 石 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 斗 | 石 |

月開拓使京坂二府並諸縣ハ每三月取束收稅帳相添大藏省へ納方可取計此旨相達候事

(別紙)

即今内外國事多端費用夥多ノ折柄ニ付陸海軍資ノ爲メ明治七年以後當分ノ所官祿稅被設候條勅任官三百五十圓以上ハ十分ノ一奏任官一百圓以上ハ二十分ノ一ノ割合ヲ以毎月其應へ上納可致此旨相達候事

右述フル所ノ如ク明治七年以降家祿稅官祿稅並ヒ行ハル、コト、ナリタリト雖モ陸軍武官ニ至テハ其俸給他ノ文官ニ比シ一等官ニ於テ百金ノ差アリ以下之ニ準シテ減額セラレ宮内省女官モ亦平常其官等三分ノ一ヲ減給セラレ、モノナルヲ以テ更ニ之ニ對シ官祿稅ヲ賦課スルハ事情甚々困難ナルモノアルヲ察シ明治七年一月十八日太政官ヨリ陸軍武官並ニ宮内省女官免稅ノ旨ヲ大藏省ニ達示セリ而シテ又新稅法ニヨレハ賞典祿ハ之ヲ免稅ト爲セルヲ以テ賞典祿ノ範圍ヲ明ニスルノ必要アリ仍テ同月二十七日大藏省ヨリ太政官ニ伺ヲ爲シ左ノ事項ニ關スル課稅上ノ解釋ヲ一定セリ

大藏省伺(明治七年一月廿七日)

今般家祿稅法御施行相成候ニ付テハ左ノ件々相伺候

- 一 戊辰戰功賞典トシテ各藩士並各士族へ朝廷ヨリ下賜候分
- 一 舊藩士へハ朝廷ヨリ別段賞典ハ不被下候へ共舊藩租ヲ以其藩士へ戊辰戰功賞トシテ給與致候分
- 一 軍曹及積年勤王ノ志シ不淺云々或ハ御一新ノ際格別勉強等ノ名義ヲ以テ戊辰ノ後更ニ朝

廷ヨリ御賞與ノ扶持方

- 一 近衛兵免役ノ者へ年限ヲ以被下候賞典扶持
- 右ノ件々賞典ノ部分ニ付收稅不致積リ取調可然哉
- 一 舊藩主ノ見込ニテ國事盡力等ノ名義ヲ以テ戊辰前後ニ増祿又ハ賞與致候分
- 一 舊藩中勤功又ハ奇特筋ニテ舊藩主ヨリ賞與ノ分
- 一 舊藩中祿券又ハ家產法施行中分券賣却致候分
- 右ノ件々一般ノ祿高ト同様稅法ニ照シ收稅致シ可然哉右件々相伺候也

太政官指令(明治七年二月七日)

伺ノ通

糞キニ陸軍武官ハ官祿稅ヲ免除セラレタリシカ海軍武官ニ至テハ未タ此例ニ準セラレズ然レトモ海軍武官及乘艦文官ハ其官祿ニ差等アルノミナラス萬事他ノ文官ト異ナル所アルヲ以テ此上官祿稅ヲ賦課スルハ事情甚々困難ナリ仍テ全七年二月十四日太政官ヨリ海軍武官及乘艦文官免稅ノ件ヲ大藏省ニ達示セリ而シテ官祿稅務手續ニ關シテ同月二十二日大藏省達第十六號ヲ以テ左ノ如ク令セリ

今般陸海軍資之爲メ官祿家祿之兩稅被設候ニ付而者兼テ該應奏任官以上ノ現今官員名前取調來ル三月十五日限東京府ハ二月十五日限租稅寮へ可差出自今轉免黜陟之都度同様可取計且收稅帳之儀者別表之通取調納月十五日限東京府ハ二月十五日限是亦同寮へ可差出此旨相達候事(別表畧)尋テ同年五月二十日第五十五號布告ヲ以テ家祿稅ノ石代納ヲ許セリ蓋シ同稅ハ從來現米ヲ以テ

徴シ來レルモ石代納ハ運搬費ヲ要セス政府ニ取リテ便宜ナルヲ以テ其標準相場ヲ其年ノ貢納相場ニ採リ換算シテ金納セシムルコト、セリ該布告ノ全文ハ左ノ如シ

布告第五十五號 (明治七年五月二十日)

華士族家祿稅石代納致度者ハ其年貢納相場ヲ以テ上納差許候條其管轄廳へ可願出此旨布告候事

但明治六年^{十二}第四百二十三號布告但書金給ノ分ハ前年貢納相場ヲ以テ米ニ直シ稅額ニ可引當ト有之候處其年貢納相場相用可申事

尋テ同月大藏省第五十三號達ヲ以テ家祿稅ノ上納期限並ニ上納方法ヲ左ノ如ク制定セリ

大藏省達第五十三號 (明治七年五月二十七日)

華士族元卒共家祿稅上納期限之儀客年第四百二十四號公布ノ通各管轄廳ニテ家祿相渡候節收入致シ翌年三月租稅寮へ納入可取計事

- 一 正米納之分者都而其地方ニ於テ入札ヲ以テ拂下ケ一般石代ヲ以テ上納可取計事
- 一 收稅帳書式之儀者別表雛形之通取調納月十五日限租稅寮へ可差出事

右之通相心得收稅可取計此旨相達候事
而シテ右上納期限ハ翌八年一月廿八日大藏省乙第十二號達ヲ以テ更ニ之ヲ改メテ翌年六月限り納入スヘキモノトセリ

抑々家祿稅ハ本ト陸海軍資補充ノ趣意ヨリ成リ特ニ從來世襲ノ軍職ニアリタル華士族ヲシテ其負擔ヲ爲サシムル趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナルコトハ明治七年四月內務大藏兩卿ヨリ各

地方官ニ與ヘタル内達ニ徴スルモ明カナリト雖モ既ニ一方ニ官祿稅ヲ起シテ官吏ヲシテ之ヲ負擔セシメタルノミナラス均シク國家ノ保護ヲ享クル以上ハ假令其身分華士族ノ列ニアラスト雖モ家祿ヲ有スルモノニ對シ家祿稅ヲ課セサルハ其當ヲ得サルモノト云ハサル可ラス是ニ於テ明治八年五月左ノ布告ヲ發シ平民ニシテ有祿ノ者亦家祿ヲ課スヘキ旨ヲ定メタリ

布告第七十八號 (明治八年五月九日)

平民ニシテ有祿ノ者本年ヨリ華士族同様賞典祿ヲ除ク外渾テ祿稅收入候條此旨布告候事
斯クテ明治八年十二月九日第八十六號及第八十七號布告ヲ以テ新ニ賞典祿ニ課稅スルコトトシ併セテ祿稅則ヲ改正セリ蓋シ當初祿稅設定ノ際特ニ賞典祿ヲ除外シタルハ時ノ情勢止ムコトヲ得サルモノアリタルニ由ルト雖モ爾來二三ノ星霜ヲ經タル今日ニ至リテ之ヲ顧ミルトキハ賞典祿ニ對スル祿稅免除ノ制ハ稍々妥當ナラサリシモノ、如シ何トナレハ現時ノ所謂家祿トハ皆昔日ノ賞典祿ニシテ今ノ所謂賞典ト異ルハ唯々新舊ノ差アルノミ然ルニ舊賞典ヲ家祿トシテ輕視シ新賞典ヲ家祿ト稱セスシテ重視スルノ理ナキノミナラス内外多事國費多端ノ際祿稅ヲ設ケテ陸海ノ軍資ニ充テラル、ニ家祿ニ課シテ賞典ニ課セサルカ如キハ頗ル其當ヲ失セルモノト云ハサルヘカラス故ニ今ノ時ニ當リテハ斷然舊制ヲ改メ各種ノ賞典祿ハ現在所有ノ儘引分ケ之ヲ華士族各自ノ家祿ニ併合シ一般家祿トシテ課稅スルノ必要アリ是レ此改正ヲ見タル所以ナリ
該布告及之ニ附隨セル太政官達ノ全文左ノ如シ

布告第八十六號 (明治八年十二月九日)

華士族平民賞典祿處分ノ儀左ノ通相定本年分ヨリ家祿同様當分課稅候條此旨布告候事

- 一 舊藩主へ下賜候賞典祿ノ内代數ヲ限リ或ハ終身或ハ年限ヲ以テ分與セシ分ハ舊藩主所有ノ賞典高ト合シ家祿^{舊藩主ノ家}ト合算シテ祿稅則ニ照準收入スヘキ事
- 一 前條賞典祿分與ヲ受ケシ士民死亡又ハ年限満期ニ至ルカ或ハ事故アリテ右祿沒收ノ時ハ舊藩主ノ賞典祿ニ合收スヘキ事
- 但本條舊藩主ノ賞典祿へ合收スヘキ時ハ其都度管轄廳ヨリ大藏省へ事由届出同廳ヨリ舊藩主へ相達スヘキ事
- 一 舊藩租稅ヲ以テ永世又ハ修身又ハ年限ヲ定メ付與候賞典祿並舊藩主へ下賜候賞典祿ノ内永世分與ノ分及ヒ家祿有之者ハ合算シテ其士民毎ニ祿稅則ニ照準收入スヘキ事
- 但終身並年限分與ノ内舊藩主賜高ノ内ト舊藩租ト混淆支給有之分ハ右ヲ區分シ前條々ニ照準スヘキ事
- 一 前條賞典祿ノ分ハ以後其士民死亡満期又ハ事故アリテ右祿沒收ノ時ハ總テ大藏省へ引揚候事

布告第百八十七號 (明治八年二月九日)

賞典祿課稅ノ儀今般第百八十六號ヲ以布告候ニ付明治六年^{第十四}第四百二十三號布告華士族祿稅則左ノ通改正増補候條此旨布告候事

祿稅則

家祿^高合^高スル^{但家祿賞典祿ノ一方ナラズ}各是ノ^{租稅}課稅^率ニ^{照準}ス^ル稅

| | | |
|------|---------|------------|
| 〔現米〕 | 六萬九千石マテ | 二萬四千二百五十石 |
| 〔同〕 | 六萬八千石マテ | 二萬三千八百七十五石 |
| 〔同〕 | 六萬七千石マテ | 二萬三千五百石 |
| 〔同〕 | 六萬六千石マテ | 二萬三千二百五十石 |
| 〔同〕 | 六萬五千石マテ | 二萬三千二百五十石 |

以下從前之通

右賞典祿ノ課稅ニ伴ヒ同月太政官達第百八十八號ヲ以テ右祿稅徵收ニ關シ左ノ如ク規定セリ

太政官達第百八十八號 (明治八年二月九日)

今般第百八十六號第百八十七號ヲ以賞典祿課稅ノ儀布告候ニ付テハ各管廳ニ於テ祿渡ノ節收入ノ收稅帳相添大藏省へ上納可致此旨相達候事

尋テ明治九年二月三日太政官達ヲ以テ元老院議官ニ對スル官祿稅ハ奏任官ノ稅率ヲ適用スルコト、爲セリ蓋シ其年俸月割三百五十圓未滿ナルヲ以テナリ而シテ明治八年分以後賞典祿ヲ課稅スルコト、ナリタルニ付テハ該稅課徵ニ關シ幾多ノ疑問ヲ生セリ即チ各種ノ賞典ノ内近衛鎮臺兵免役ニ付賞トシテ五箇年又ハ二箇年間秩持米ノ名義ヲ以テ二人口又ハ一人口宛下賜スルモノニシテ其名ハ年限賞典ト云フト雖モ其實ハ右年限中時宜ニヨリ徵召ノ命アレハ速ニ出張スヘキノ約束アルヲ見レハ固ヨリ其他ノ賞典ト同一視スヘキニアラス其他扶助米又ハ救助米及ヒ祭料ト稱スルモノモ亦何レモ維新ノ際王事ニ勤勞セルモノ、功績ニ對シ下賜スルモノニシテ要スルニ一ノ賞典ニ外ナラス所謂祭料トハ死後下賜ノ名義ニシテ生者ナシハ賞典ト稱スヘキモノナリ又扶助救助ノ名義モ死後ノ家族又ハ身體不具トナリタル者ニ下賜スルヨリ生シタル名義ニ

シテ其實ハ王事勤勞ノ功ヲ賞スルノ主旨ニ出ルナリ然レハ一方ヨリ見レハ一ノ賞典トシテ新規則ニ從ヒテ課稅スヘキモノ、如シ而カモ他方ヨリ見ルトキハ其名稱ニ於テ既ニ賞典ト稱セサルノミナラス其事情大ニ他ノ賞典ト異ル所アリ是ニ於テカ翌四月大藏省ヨリ太政官ニ伺出テタリシカ太政官ハ翌三月十九日指令シテ此等ハ都テ課稅ニ及ハサル旨ヲ以テセリ尙ホ皇族ノ賞典祿ニ至テモ由緒別格ノ趣旨ニヨリ四月五日ノ大藏省ノ伺ニ對シ同月二十六日附ノ指令ヲ以テ太政官ハ前同様課稅ニ及ハサル旨ヲ令達セリ

由來官祿稅ハ轉任兩廳ニ涉ル者ハ一月ノ收額ヲ折半シ兩廳ニ於テ徵收スルニヨリ屢々誤納ヲ生シ煩雜決シテ少ナシトセサルナリ況ンヤ有稅官免稅官ト交互遷轉ノ場合ノ如キ歸省病氣引籠糺問等ニテ減給ノ場合ノ如キ判任官へ逆退免職病死等ニ基キ向後無稅ニ屬スヘキ場合ノ如キ大ニ從來ノ徵稅法ヲ改メテ其手續ヲ簡易ニスルノ必要アリ仍テ明治九年十二月大藏省乙第百五號達ヲ以テ官祿稅徵收式並ニ收稅表書式ヲ定メ該稅徵收ニ關スル細則ヲ規定セリ

大藏省達乙第百五號 (明治二十九年十二月二十二日)

官祿稅ノ儀轉任ニ就キ兩廳へ係リ候分ハ是迄一月收額ヲ上下半月ニ分チ兩廳ヨリ徵收候儀ノ處以後月俸支給ノ廳ニテ給額ニ應シ徵收シ並轉免ノ節課除ノ區別等今般伺ノ上改正取計候ニ付テハ本年十二月分ヨリ別紙徵收式並收稅表書式ニ照準徵收納送可取計此旨相達候事

官祿稅徵收式並收稅表書式

- 一 官祿稅ハ其月毎ニ給スル所ノ俸額ニ應シ稅則ニ照シ徵收シ翌月五日限毎三月取束納付ノ分ハ納月十五日限リ租稅寮へ納付スヘシ

一 有稅官へ新タニ任補セララル、モノ並無稅官ヨリ轉任スルモノハ其月十五日前後ヲ區分シ支給スル處ノ俸額ニ因テ徵收スヘシ

一 十六日後昇等轉任ノモノハ上半月ハ前官ノ俸額ニ因リ下半月ヨリ後官ノ俸額ヲ以テ徵收ス

一 降等轉任ノモノ猶有稅官ニシテ稅則ニ別ナキトキハ支給スル所ノ俸額ニ因テ徵收シ前官ト後官ノ俸給増減ニヨリ稅則ニ別前官十分ノ一後官廿分ノ一アルトキハ上下半月ノ區分ヲ以テ各其俸給ヲ稅則ニ照シテ徵收シ無稅官へ轉任又ハ降等スルモノハ前官ノ全俸ヲ給スト雖モ其月ヨリ除稅ス

一 歸郷給暇病氣引或ハ糺問等ニヨリ全月減給ノモノハ其月稅ヲ課セス半月分全俸ノ半額ヲ支給スルトキハ其半額ノ稅ヲ徵收ス

一 他ノ廳へ轉任スルモノハ昇等降等ニ拘ハラス前條令ニ照シ月俸支給ノ廳ニテ給額ニ應シ徵收ス

一 但前官稅則二十ニテ收稅ノ後轉任シ後官稅則十ト稅則ノ別ニヨリテ爰ニ徵收セシ稅半額ニ増差ヲ加フヘキモノハ後官ノ廳ニ於テ増給ノ稅ト俱ニ其差額ヲ併セテ追徵ス免職又ハ病死ノモノハ十五日前後ノ別ヲ以テ半額或ハ全額ノ俸ヲ給スト雖モ渾テ其月ノ稅ヲ免除ス

一 從前新任轉免黜陟等各廳ヨリ租稅寮へ通達シ同寮ニ於テ收稅ノ元帳ヲ整理シ稅額ノ照査ニ供セシ所自今其都度通知ニ及ハス渾テ一箇月毎三月納付ノ徵收ニ關セシ事故ハ收稅表

ニ附シテ通知スヘシ

但新任轉免黜陟ハ其官就拜受ノ月日歸郷休暇或ハ病痾等ニヨリ減給セシモノハ出發歸著亦ハ引籠全癒ノ期日官及ヒ人名トモ詳記スルヲ要ス

(書式略)

尋テ翌十年一月十一日太政官第三號達ヲ以テ勅任官以上ノ官祿稅ノ稅率ヲ改メテ總テ二割ト爲シ越ヘテ明治十二年三月十三日太政官達ヲ以テ工部省中技監大技長權大技長小技長ノ官祿稅ヲ免除セリ蓋シ技術官ハ全ク準官吏ノ性質ヲ有スルモノニシテ通常文官ト區別スルノ必要アルヲ以テナリ

是ヨリ先キ明治九年八月五日第百八號布告ヲ以テ金祿公債證書發行條例ヲ制定シ家祿賞典祿ハ明治十年以降公債證書ヲ以テ一時ニ下賜セラル、コト、ナリ隨テ家祿稅ハ自然廢止ニ歸セリ斯クノ如ク一方ニ家祿稅ノ廢止アリタルノミナラス抑々祿稅ノモノタル當初陸海軍資ニ充ツルノ趣旨ニ出ツルト雖モ其實態ク一種ノ所得稅ナリ然ルニ獨リ有祿者ニノミ之ヲ課シテ其他ヲ問ハサルカ如キハ決シテ權衡ヲ得タルモノト云フヲ得ス是ニ於テカ明治十二年十二月廿七日第五十二號太政官達ヲ以テ翌十三年一月以降官祿稅モ亦タ之ヲ廢止セリ

| 年 度 | 官 祿 稅 | 家 祿 賞 典 祿 稅 | 合 計 |
|-------|------------|---------------|----------------|
| 第 七 期 | 五九、六八〇、七五〇 | 〇 | 五九、六八〇、七五〇 |
| 第 八 期 | 六四、一六三、六一〇 | 二、九四九、八三九、一四七 | 一三、〇一四、〇〇二、七五七 |

祿稅收入額

| | | | |
|--------|------------|---------------|---------------|
| 明治八年度 | 九二、六二〇、五七一 | 二、〇七五、一一八、〇三九 | 二、一六七、七三八、六一〇 |
| 明治九年度 | 七六、八八一、二九八 | 二、二三〇、一八七、二五二 | 二、二〇七、〇六八、五五〇 |
| 明治十年度 | 七〇、五九六、四三五 | 〇 | 七〇、五九六、四三五 |
| 明治十一年度 | 七七、二八五、一一一 | 〇 | 七七、二八五、一一一 |
| 明治十二年度 | 四〇、〇五二、五五九 | 〇 | 四〇、〇五二、五五九 |

(備考)

明治二年二月布告ニ依ル祿稅收入額ハ不明ナルヲ以テ之ヲ掲ケス

第十五節 僕婢稅

一般ニ僕婢ノ使用其モノニ對シ課稅スル制度ハ明治六年一月太政官布告第三十一號ニ始マル右布告第三十一號ニ依レハ皇族ノ外僕婢ヲ家事用ニ使役スル者ニ對シ僕婢稅ヲ課スルモノニシテ其稅額ハ僕婢ノ區別及其年齡ノ長幼ニ依リ之ヲ異ニシタリ而シテ該稅ハ馬車、人力車、駕籠、乘馬、遊船ノ諸稅ト同一法規中ニ定メタルヲ以テ該則中僕婢稅ニ關スルモノヲ左ニ掲クヘシ

布告第三十一號 (明治六年二月三十日)

- 今般僕婢稅施行被仰出候條別紙規則ノ通相心得明治六年一月ヨリ納稅可致事
- 今度僕婢稅被相定國內一般施行被仰出候ニ付テハ各管内ニ於テ別紙規則ニ照準シ明治六年一月一日ヨリ收稅ノ儀可取計事
- 右稅金ハ半年分ツ、取纏メ前半年分ハ其年八月後半分ハ翌年三月限り可和納其節見額

員數増減ノ廉廉別紙表式ノ通相製シ租稅察へ可差出事

但別紙表式ハ不日可相達候事

一 從來取立來候納稅ノ内今度被定候僕婢稅ト同種ニ屬シ候向ハ都テ別紙規則ノ通改正可致事

一 右稅ハ全國一般ノ稅ニシテ全國ノ經費ニ相充候儀ニ付其土地限リ道路橋梁ノ修復或ハ貧民教育小學費用遷卒入費等ニ宛テ候爲メ同種ノ諸品上ニ付テ別ニ稅額ヲ立テ幾分ヲ増稅セシメ増分ヲ以テ右ノ入費ニ宛テ候儀適宜次第不苦候得共其都度租稅察へ届出可申事

一 從前伺ノ上取立候分又ハ伺ヲ不經其應限リ取立候分トモ今般更ニ租稅察へ届出可申事

第一條 僕婢稅

第一則

一 皇族ノ外華士族平民ニ至ル迄家事用向ニ使用致シ候從僕ノ類ハ其身分ニ關セス十八歲以上ハ一箇年金二十五錢十七歲以下ノ者ハ全樣金十二錢宛各其主人ヨリ可相納事

但其年召抱候者或ハ一ヶ年未滿ニシテ暇遣シ候類ハ前後其日數ニ割合可相納事

第二則

一 下婢ハ上仕下仕ニ論ナク十八歲以上ハ一箇年金十二錢十七歲以下ノ者ハ一箇年金六錢宛其主人ヨリ可相納事

第三則

一 農工商其他職業ノ爲メ使用致シ候分ハ男女トモ無稅ノ事

但其職業トハ農ノ作男工ノ弟子商ノ手代等ノ類ト可相心得事

第四則

一 從來召抱候僕婢ノ儀ハ其生國出所姓名年齡等相認メ此度限リ各其主人ヨリ所屬戶長へ相達シ自後抱替或ハ暇遣シ又ハ新ニ召抱候分ハ其都度々々戶長へ可届出事

第五則

一 右上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分ツ、其地ノ戶長へ相集メ戶長ヨリ管轄府縣廳へ可相納事

然ルニ右僕婢稅ハ其收納額多カラサルノミナラス徵稅手續亦極メテ煩雜ナルヲ以テ明治八年二月布告第二十七號ヲ以テ之ヲ廢止セリ

第十六節 狩獵稅

第一款 狩獵稅ノ第一期

銃器ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ對シテハ舊幕府當時既ニ鐵砲役又ハ鐵砲運上ト唱へテ所在適宜ニ租稅ヲ賦課シタリシカ明治三年十月十四日大藏省達ヲ以テ從來ノ鐵砲役又ハ鐵砲運上ト稱シタルモノヲ改メ一般ニ獵師役ト稱スルコト、シ明治五年一月二十九日第二十八號太政官達ヲ以テ初メテ銃砲取締規則ヲ制定シ同年四月以降之ヲ實施セリ蓋シ此規則タル鳥獸ノ保護ヲ目的トスルヨリハ寧ロ兵器ノ取締ヲ嚴ニスルノ主意ニ出タルモノトス而シテ右銃砲取締規則中銃獵ニ關スルモノハ其第六則ニシテ即左ノ如シ

一 免許獵人ノ外獵リニ銃獵致間敷銃獵致度者ハ其管廳へ願出候得ハ吟味ノ上別紙ノ通其廳ヨリ免許獵札可差遣事

但免許獵人ノ姓名ハ其管廳ヨリ東京武庫司へ可届出事

然ルニ該則中ニハ徵稅ノ方法ニ關シテ別段ノ明文ナキヲ以テ同年二月二十日大藏省第二十三號達ヲ以テ從前通收稅方ヲ示シ併セテ獵師役ノ名義ヲ廢シ獵銃免許稅ト改稱セリ其達文左ノ如シ

大藏省達第二十三號 (明治五年三月二十日)

此程銃砲取締規則御布告相成候處規則中獵銃免許ノ儀一般ノ制法被相設候ニ付テハ從來收入致候獵師役稅額ノ儀モ改正可有之候得共追テ相達候迄ハ總テ先ツ是迄ノ通り收入可致事

但獵師役ノ名義ハ相廢シ獵銃免許稅ト相唱候事

由來銃獵ハ力耕ノ傍之ヲ以テ其生業ヲ助ケ或ハ僻鄉餘業無キノ地ニ於テハ專ラ之ヲ本業トセルモノニシテ從來鐵砲役或ハ獵師役ト稱シ永三百文以下ノ納稅ヲ以テ之ヲ許シ概テ村落近傍ニ於テ發砲スルコトヲ禁シタルカ故ニ人民ニ對シ障害ナカリシノミナラス時トシテ猛獸ノ稼圃ヲ害スルヤ彼等ノ力ヲ資リテ驅逐セラレ鄉村ニ於テモ別段ノ苦情ヲ生スルコトナカリシト雖モ火器ノ使用漸ク開ケ人民ノ出願ニ應シ輒チ銃獵ヲ許スニ及テハ往々ニシテ人家ノ近傍ニ鳥雁等ノ野禽ヲ狙撃シ遂ニ人民ノ害トナルノ虞ナシトセス故ニ宜シク從來ノ永二百文以下ノ納稅ヲ改メ更ニ其稅額ヲ重課シ併セテ其取締ヲ嚴ニスルノ必要アリ是ニ於テカ明治六年一月二十日第二十五號布告ヲ以テ鳥獸獵免許取締規則ヲ制定シ獵札免許稅ヲ起シ從來ノ銃砲取締規則第六則並ニ獵銃免許稅ヲ廢シタリ右布告中狩獵獵札免許稅ニ關スル規定左ノ如シ

鳥獸獵免許取締規則等別紙ノ通被定候ニ付管内無遺漏觸示シ願出候者有之候者ハ身元並近傍故障有無相糺差支無之ハ規則ニ照準鳥獸獵免許獵札相渡屹度取締可相立事

但從前ノ獵銃稅ヲ相廢シ第二十八號布告ノ銃砲取締規則第六條ハ此規則ニ引換候事

一 獵札免許稅ハ收入ノ度毎大藏省へ相納一箇年分一人別帳ヲ製シ毎年十二月限り同省へ差出右總計ハ雜稅帖へ組入歲入皆濟帖ヲ以成算可致事

一 新規免許獵札願出候者ハ時間ノ遲速ニ拘ラス稅金ハ一箇年ノ本額可爲納事

一 從前免許獵札ヲ渡置モノ此規則ニ從ヒ獵札改渡稅金上納濟ノ分ハ下戻更ニ本額ノ稅金可爲致上納事

鳥獸獵規則

第一條 銃砲ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ以テ生活トスルモノヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス

第五條 獵札ヲ渡スニハ職獵ニハ壹圓遊獵ニハ十圓ツ、ノ稅ヲ納ムヘシ

而シテ此規則ニ於テハ獵札免許稅ハ各地方廳ヨリ大藏省ニ收納セシメ鳥獸獵免許ノ者ハ地方廳ヲシテ大藏省ニ届出テシメ更ニ銃獵ノ分ハ陸軍省へモ届出ツヘキモノトセリ尋テ同年三月十八日布告第百十號ヲ以テ右ノ規定ヲ改正シ鳥獸獵規則ト稱シ從來免許稅トアルヲ免許料ト爲シ從來鳥獸獵免許ノ者ハ大藏省ノ外陸軍省へモ届出ツヘキモノト爲リ右布告第百十號中該稅ニ關スル條項ヲ舉レハ左ノ如シ

本年第二十五號布告鳥獸獵免許取締規則別紙ノ通改正候ニ付各管内へ布達シ願出候者ハ身元並近傍故障有無取調差支無之ハ規則ニ照準免許獵札相渡屹度取締可致事

但從前ノ獵銃稅ヲ相廢シ第二十八號布告ノ銃砲取締規則第六條並發砲ノ儀ニ付戊辰九月己巳四月庚午五月中途ノ趣ハ此規則ニ更換候事

- 一 免許鑑札料ハ收入ノ度毎大藏省ヘ相納一箇年分一人別帳ヲ製シ毎年十二月限り同省ヘ指出右總計ハ雜稅帖ヘ組入歳入皆濟帖ヲ以テ成算可致事
- 一 從前免許鑑札ヲ渡置モノ此規則ニ從ヒ鑑札改渡稅金上納濟ノ分ハ下戻更ニ本額ノ免許料可爲致上納事

鳥獸獵規則

第五條

鑑札ヲ渡スニハ職獵ニハ一圓遊獵ニハ十圓ツ、ノ免許料ヲ納ムヘシ

右ノ如ク銃獵稅ハ之ヲ免許料ト爲シタリシカ翌明治七年十一月十日第百二十二號布告ヲ以テ鳥獸獵規則ヲ改正シ免許料ヲ改メテ更ニ銃獵稅ト改メタリ

而シテ皇族ノ銃獵ニ付テハ從來ノ規則中何等ノ明文ナカリシカ全年全月二十五日第百五十七號太政官達ヲ以テ許可ノ手續並ニ稅金ノコトヲ定ム其達左ノ如シ

太政官達第百五十七號 (明治二十五年十一月二十五日)

皇族銃獵ノ儀別紙ノ通宮內省ヘ相達候條此旨爲心得相達候事

宮 內 省

皇族遊獵被願出候節ハ從其省該地管廳ヘ照會シ鑑札受取可相渡尤銃獵規則遵守可有之ハ勿論ニ候ヘ共納稅ニハ不及候條此旨相達候事

尋テ明治八年一月二十八日大藏省乙第十一號ヲ以テ納稅期限ヲ改正シ銃獵稅ノ收納シタルモノ

ハ時々租稅寮ヘ上納シ銃獵內譯帳ハ毎年六月三十日限り租稅寮ヘ差出スヘキ旨ヲ達セリ而シテ又外國人ノ遊獵ニ付テハ未タ何等ノ規定ナキヲ以テ免許鑑札下渡ヲ爲サ、リシ爲メ往々無鑑札ニテ銃獵スルモノヲ生シ其弊害少カラサリシヲ以テ政府ハ各國公使ト交渉ノ末其取締方ヲ協定シ明治十年一月四日內務省達丙第一號ヲ以テ外國人銃獵免狀取扱條例ヲ制定シ其第七條ニ於テ免狀ヲ付與スル場合ニハ免狀料トシテ金十圓ヲ徵收スヘキ旨ヲ定メタリ

又明治七年ノ公布ニ係ル鳥獸獵規則ハ不備ノ點少カラサルヲ以テ之ヲ改正増補スルノ必要ヲ認メ明治十年一月二十三日第十一號布告ヲ以テ該規則ヲ改正セリ其狩獵稅ニ關スル規定左ノ如シ

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルコトヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一 職獵稅 金壹圓

一 遊獵稅 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ內務省其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受クル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手数料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

斯クテ久シク大藏省ノ直轄ニ屬シタル狩獵稅ノ收入ハ爾來內務省ノ所管ニ屬スルコト、爲レリ是ヨリ先キ明治九年二月十八日甲第二號大藏省達ヲ以テ諸種ノ鑑札ヲ受ケタル後廢業又ハ換業等ヲ爲セル者ハ稅金ヲ返付シ手数料ヲ徵收スルコト、爲セルカ右ノ改正規則ハ從來鑑札ト稱シ

タルモノヲ免狀ト改メタルニ拘ハラス特ニ之ニ付テ規定スル所ナキニヨリ明治十年二月二十日乙第二十一號內務省達ヲ以テ廢換業者處分方ヲ右明治九年甲第二號大藏省達ニ準スルコト、爲セリ尋テ翌明治十一年十月五日丙第五十三號內務省達ヲ以テ外國人銃獵免狀取扱條例ヲ改正シ其第七條ニ於テ免狀付與スル節ハ免狀料トシテ金拾圓ヲ徵收ス但遺失毀傷等ニヨリ免狀再渡ヲ乞フ時モ同斷タルヘキ旨ヲ定メタリ斯ノ如ク免狀ノ遺失毀損等ニヨリ再渡ヲ乞フ外國人ニ對シテハ拾圓ヲ徵收スルコト、セルモ內國人ニアリテハ手数料トシテ二十五錢ヲ徵收スルニ止マリ甚タ權衡ヲ得サルヲ以テ明治十二年三月十七日丙第十四號內務省達ヲ以テ右條例第七條但書ヲ改正シ遺失毀傷等ニ因リ免狀再渡ヲ乞フトキハ手数料トシテ金貳拾五錢ヲ收入スヘキ旨ヲ定メタリ

越テ明治十四年九月十三日第四十三號布告ヲ以テ明治十年十一號布告鳥獸獵規則中內務省トアルハ農商務省ニ內務卿トアルハ農商務卿ニ改正セリ是ニ於テカ明治十年以降內務省ニ屬シタル狩獵免狀ノ事務ハ遂ニ農商務省ノ所管ニ歸セリ但シ東京府下ニ於ケル狩獵免狀渡方事務ハ取締上警視廳ニ於テ取扱フヲ便宜トスルカ故ニ十一月四日第六十一號布告ヲ以テ該規則第三條第六條中農商務省トアルヲ警視廳ト改正セリ越テ明治十六年五月七日第四號農商務省達ヲ以テ明治十年內務省乙第二十一號達ヲ廢止シ免狀ヲ受ケタル後廢業又ハ換業等ヲ爲スモ之ニ對シテ税金ヲ返付セサルコト、爲セリ而シテ我國在留ノ朝鮮人ハ歐米人及支那人等ト異リ條約上全然我國法ニ服從スヘキモノナルヲ以テ狩獵免許ニ付テ內國人一般ノ取扱ヲ受クヘキハ勿論ナリ然レトモ從來之ニ關シ特別ノ明文ナカリシヲ以テ同年十月二日第十二號農商務省達ヲ以テ其明文ヲ設

ケ本邦在留朝鮮人鳥獸獵免狀ヲ請求スルトキハ遊獵免狀ヲ下付シ總テ內國人同様處分スヘキ旨ヲ達セリ而シテ又從來鳥獸獵定期免狀ヲ受ケタル者ニ伸期ヲ許可スルトキハ本人所持ノ免狀ノ月日ノミ書キ改メ別ニ手数料ヲ徵收セサル成規ナリシモ改姓名又ハ轉居等ノ爲メ更ニ書改メ方出願ノ者ニ對シテハ未タ一定ノ成規ナカリシヲ以テ明治十七年六月三十日第二十號農商務省達ヲ以テ之カ取扱方ヲ定メ別ニ免狀書換手数料ヲ取立テス本人所持ノ免狀ニ姓名又ハ住所ノミ書改メ主任者檢印下付スルコト、爲セリ

第二款 狩獵稅ノ第二期

明治二十五年十月六日勅令第八十四號ヲ以テ狩獵規則ヲ制定シ鳥獸獵規則ヲ廢止ス蓋シ當時ノ鳥獸獵規則ハ明治十年ノ公布ニ係リ其規則甚タ不備ニシテ鳥獸獵獲ノ弊ヲ釀セルノミナラス殊ニ漸次遊獵ト職獵トノ區別明カナラサルニ至リ隨テ著シク職獵者ノ數ヲ増加シテ到ル處ニ鳥獸ヲ捕獲シ甚タシキハ其種類ヲ殺盡スルノ虞アルニ至ル況ンヤ現行規則ハ單ニ銃獵ニ關スル規定ニシテ其他ノ獵具ヲ問ハサルニ由リ銃獵以外ノ獵具ヲ以テ狩獵スル者ニ對シテハ殆ント其濫殺ヲ抑制スルノ道ナク僅ニ地方官ニ訓令シテ有益鳥類ノ捕獲ヲ禁止セシト雖モ其制裁嚴ナラス隨テ禁ヲ犯ス者甚タ多キニ至レリ而シテ此等ノ弊害ヲ芟除スルニハ區々省令又ハ訓令ノ能クスヘキ所ニアラスシテ根本的ニ狩獵規則ヲ改正スルノ必要アリタルニ由ルナリ今勅令第八十四號狩獵規則中免許料ニ關スル條項ヲ抄録スレハ左ノ如シ

狩獵規則 (抄錄)

第一章 獵具獵法

第一條 此規則ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器各種ノ網放鷹繙繩又ハ揆ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二章 狩獵免許

第七條 免許ヲ分チテ職獵免狀遊獵免狀トシ更ニ分チテ各甲乙ノ二種トス

職獵免狀ハ生計ノ爲メニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ遊獵免狀ハ遊樂ノ爲ニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許料ヲ納ムヘシ

| | | |
|------|----|------|
| 職獵免狀 | 甲種 | 金五十錢 |
| | 乙種 | 金壹圓 |
| 遊獵免狀 | 甲種 | 金五圓 |
| | 乙種 | 金拾圓 |

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一ケ年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

第三十三條 此規則ハ明治二十五年十月十五日ヨリ施行ス但銃器ヲ使用セサル狩獵ノ免許ハ

明治二十六年十月十五日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十年一月第十一號布告鳥獸獵規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

斯クテ右狩獵規則ハ明治二十五年十月十五日ヨリ實施スルコト、ナリタリシカハ之カ施行細則ヲ制定スルノ必要アリ仍テ同月十五日農商務省令第十三號ヲ以テ狩獵規則施行細則ヲ其第四條ニ於テ狩獵規則第十三條第二項ニ據リ免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘク前項ノ登記印紙ハ其請求書ニ貼付消印スヘキ旨ヲ定メタリ尋テ同年十一月一日勅令第九十號ヲ以テ狩獵及獵區決定ニ關スル免許料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ當該管廳ニ差出サシムルモノトシ同月二日農商務省令第十五號ヲ以テ狩獵規則細則中ヲ左ノ如ク改正セリ

第四條 狩獵規則第九條ノ免許料ハ狩獵免狀下付ノ際其金額ニ相當スル登記印紙ヲ免狀ノ受領書ニ貼付消印スヘシ

狩獵規則第十三條第二項ニ據リ免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第二項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第三款 狩獵稅ノ第三期

明治二十五年十月ノ公布ニ係ル狩獵規則ハ保護鳥獸鳥獸保護期限及狩獵者資格等實際ニ適合セサルモノアルヲ認メ明治二十八年三月二十七日法律第二十號ヲ以テ更メテ狩獵法ヲ制定シ前キ

ノ狩獵規則ヲ廢止ス新狩獵法ノ重ナル條項ハ左ノ如シ

狩獵法(抄録)

第一章 獵具獵法

第一條 此法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器各種ノ網放鷹、網繩又ハ揆ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二章 狩獵免許

第八條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲナス者ニ下附シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲナス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一等 所得稅拾五圓若クハ地租貳百圓以上納ムル者 甲種 金五圓 乙種 金拾圓
- 二等 所得稅參圓以上若クハ地租拾圓以上納ムル者 甲種 金壹圓 乙種 金參圓
- 三等 一等二等以外ノ者 甲種 金壹圓 乙種 金參圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一ケ年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

又同日第四號農商務省令ヲ以テ狩獵法施行細則ヲ制定セリ其狩獵稅ニ關スル個條ヲ摘載スレハ左ノ如シ

狩獵稅施行細則

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

斯ノ如ク免狀ノ再渡書換ノ手数料ニ限リ登記印紙ヲ以テ納付スルコト、爲シタリシカ免許稅モ亦隨時ノ收入ニ屬シ印紙ヲ以テ徵收スルノ官民ニ便宜ナルヲ認メ明治三十年三月十七日法律第七號ヲ以テ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトシ同年四月一日ヨリ施行スルコト、セリ

仍テ狩獵免許稅ヲ登記印紙ニテ納付スル件ニ付明治三十年八月十九日農商務省告示第三十號ヲ以テ「狩獵免許稅ハ本年法律第七號及本年大藏省告示第十六號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘキニ付テハ狩獵免許出願者ハ其願書ニ貼付シタル印紙ニ消印ヲ爲サス當該官廳ニ差出スヘシ當該官廳ハ免許ヲ與ヘタルトキ之ニ消印スヘシ」ト定メタリ

第四款 狩獵稅ノ第四期

從來ノ狩獵法ハ時世ノ進歩ニ從ヒ不備ノ點少ナカラサルノミナラス免許稅モ亦タ増加スルノ必要アルヲ以テ明治三十四年四月十二日法律第三十三號ヲ以テ狩獵法ヲ改正セリ其全文左ノ如シ

狩獵法 (抄録)

第一章 獵具、獵法

- 第一條 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、繃繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル器若ハ陷罪ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具、獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物、船舶若ハ汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 御獵場
 - 二 禁獵區
 - 三 公道
 - 四 公園
 - 五 社寺境内

六 墓地

- 第五條 欄、柵、圍障若ハ作物植物アル他人ノ所有地ニ於テハ所有者又ハ占有者、他人ノ共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 地方長官ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十箇年以内ノ期間ヲ以テ禁獵區ヲ設クルコトヲ得
- 第七條 地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ區域ヲ限リ銃獵ヲ禁スルコトヲ得
- 第二章 狩獵免許
- 第八條 狩獵ハ地方長官ニ願出テ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ欄、柵又ハ圍障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限リニ在ラス第二十二條ノ處罰ヲ受ケタルモノハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第十條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス
甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス
- 第十一條 免狀ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ
 - 一等 稅所得百圓以上、地租五百圓以上、若ハ營業金二十圓
 - 二等 稅所得三十圓以上、地租三百圓以上、若ハ營業金十圓

三等 一等、二等以外ノ者

金二圓

第十二條 免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

前項期間内ニ非ラサレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十四條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十六條 未成年者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 免狀ハ其効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十八條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ理由ニ因リ保護鳥獸又ハ其ノ他ノ鳥獸ノ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ何時タリトモ特ニ之カ許可ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス

前項ノ場合ニ於テハ第十一條ヲ適用セス

第四章 罰則

第二十一條 第八條第一項第十二條第二項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ狩獵免狀若ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケ又ハ詐リテ共同狩獵地ヲ表示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス

第二十二條 第二條第一項第三條若ハ第四條ニ違背シタル者ハ罰前條ニ同シ
前項ノ處罰ヲ受ケタルモノ、免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十三條 第五條第十四條第三項第十九條第一項第二十條ニ違背シタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス但第五條ニ付テハ土地所有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタルモノ、告
訴ヲ待テ處斷ス

第二十四條 第十四條第一項第十五條第一項第十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十五條 本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 本法施行前ニ免許ヲ受ケタル獵區及共同獵地ハ本法施行後ト雖其免許期間仍從前ノ規定ヲ適用ス

第二十七條 本法施行前ニ受ケタル狩獵免狀ハ本法施行後仍其ノ効力ヲ有ス

第二十八條 本法施行前ニ明治二十八年法律第二十號狩獵法ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタ

ルトキハ本法施行後仍其ノ罰則ヲ適用ス
 第二十九條 明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルモノハ滿一箇年ヲ經過スルニ非サレハ本法ニ依リ狩獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス
 第三十條 本法中地方長官ノ職務ハ東京市ニ於テハ警視總監之ヲ行フ
 本法中市町村長ノ職務ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ該當スヘキ者之ヲ行フ
 狩獵法ノ施行ニ關シテハ明治三十四年六月農商務省令第七號ヲ以テ狩獵法施行規則ヲ公布シタリ但シ稅法ニ關スルモノナキヲ以テ之ヲ畧ス

| 年 度 | 銃獵稅收入額 | | | |
|---------|------------|------------|--------|-------------|
| | 職獵免許稅 | 遊獵免許稅 | 書狀換手料及 | 合 計 |
| 同 十一年度 | 四四、六二八、四四八 | 三九、〇〇〇 | 〇 | 四八、五三八、四四八 |
| 同 十年度 | 三八、六八五、三三六 | 三七、二〇〇 | 〇 | 四二、四〇五、三三六 |
| 同 九年度 | 四四、八二二、二七一 | 一、八一〇、〇〇〇 | 〇 | 四六、六三二、二七一 |
| 明治八年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 四六、九二〇、六〇〇 |
| 第 七 期 | 〇 | 〇 | 〇 | 三六、四〇九、三〇七 |
| 第 八 期 | 〇 | 〇 | 〇 | 四五、九九二、二五〇 |
| 同 十三年度 | 七三、六二八、一二七 | 五六三、〇五〇 | 〇 | 七九、二五八、六二七 |
| 同 十四年度 | 八三、七二一、九五〇 | 六、五九二、四〇〇 | 〇 | 九〇、三一二、九九〇 |
| 同 十五年度 | 七八、九四一、四〇〇 | 六、九五〇、七五〇 | 〇 | 八五、八九二、一五〇 |
| 同 十六年度 | 六一、九六八、〇〇〇 | 六、八八三、二五〇 | 〇 | 六八、八五一、二五〇 |
| 同 十七年度 | 四九、六七四、二五〇 | 六、五四一、〇〇〇 | 〇 | 五六、二二五、二五〇 |
| 同 十八年度 | 四三、四三六、二五〇 | 六、五八一、五〇〇 | 〇 | 五〇、〇一七、七五〇 |
| 同 十九年度 | 四一、五六一、〇〇〇 | 六、八六〇、〇〇〇 | 三七、七五〇 | 四八、四五八、七五〇 |
| 同 二十年度 | 四九、八七二、〇〇〇 | 七、六四〇、〇〇〇 | 三八、五〇〇 | 五七、五五〇、五〇〇 |
| 同 二十一年度 | 六三、七五五、〇〇〇 | 八、六七〇、〇〇〇 | 五四、〇〇〇 | 七二、四七九、〇〇〇 |
| 同 二十二年度 | 八一、四二一、〇〇〇 | 一〇、五二〇、〇〇〇 | 〇 | 九一、九四一、〇〇〇 |
| 同 二十三年度 | 八六、五三四、二五〇 | 一〇、〇一三、七五〇 | 〇 | 九六、五四八、〇〇〇 |
| 同 二十四年度 | 八八、六七七、二五〇 | 一三、三二二、二五〇 | 〇 | 一〇一、九八九、五〇〇 |
| 同 二十五年度 | 一七、二二二、五〇〇 | 一、九六〇、〇〇〇 | 〇 | 一九、一七二、五〇〇 |
| 同 二十六年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 同 二十七年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 同 二十八年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 一四九、一九八、六〇〇 |
| 同 二十九年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 一八七、九一八、〇〇〇 |

| | | | | |
|---------|------------|------------|--------|-------------|
| 同 十二年度 | 五九、〇八〇、〇四〇 | 四、九〇〇、〇〇〇 | 〇 | 六三、九八〇、〇四〇 |
| 同 十三年度 | 七三、六二八、一二七 | 五六三、〇五〇 | 〇 | 七九、二五八、六二七 |
| 同 十四年度 | 八三、七二一、九五〇 | 六、五九二、四〇〇 | 〇 | 九〇、三一二、九九〇 |
| 同 十五年度 | 七八、九四一、四〇〇 | 六、九五〇、七五〇 | 〇 | 八五、八九二、一五〇 |
| 同 十六年度 | 六一、九六八、〇〇〇 | 六、八八三、二五〇 | 〇 | 六八、八五一、二五〇 |
| 同 十七年度 | 四九、六七四、二五〇 | 六、五四一、〇〇〇 | 〇 | 五六、二二五、二五〇 |
| 同 十八年度 | 四三、四三六、二五〇 | 六、五八一、五〇〇 | 〇 | 五〇、〇一七、七五〇 |
| 同 十九年度 | 四一、五六一、〇〇〇 | 六、八六〇、〇〇〇 | 三七、七五〇 | 四八、四五八、七五〇 |
| 同 二十年度 | 四九、八七二、〇〇〇 | 七、六四〇、〇〇〇 | 三八、五〇〇 | 五七、五五〇、五〇〇 |
| 同 二十一年度 | 六三、七五五、〇〇〇 | 八、六七〇、〇〇〇 | 五四、〇〇〇 | 七二、四七九、〇〇〇 |
| 同 二十二年度 | 八一、四二一、〇〇〇 | 一〇、五二〇、〇〇〇 | 〇 | 九一、九四一、〇〇〇 |
| 同 二十三年度 | 八六、五三四、二五〇 | 一〇、〇一三、七五〇 | 〇 | 九六、五四八、〇〇〇 |
| 同 二十四年度 | 八八、六七七、二五〇 | 一三、三二二、二五〇 | 〇 | 一〇一、九八九、五〇〇 |
| 同 二十五年度 | 一七、二二二、五〇〇 | 一、九六〇、〇〇〇 | 〇 | 一九、一七二、五〇〇 |
| 同 二十六年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 同 二十七年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 同 二十八年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 一四九、一九八、六〇〇 |
| 同 二十九年度 | 〇 | 〇 | 〇 | 一八七、九一八、〇〇〇 |

| | | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|------------|
| 同三十年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 二〇四、五八九〇〇〇 |
| 同三十一年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 二一、一六六〇〇〇 |
| 同三十二年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 二三、七七六三〇〇〇 |
| 同三十三年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 二四、四九五三〇〇〇 |
| 同三十四年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 二七、二六一六〇〇〇 |
| 同三十五年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 二五、四一〇六〇〇〇 |

(備考)

- 一 第五期以前ニ於ケル收入額ハ逕上諸筈加金中ニ合算シ本稅各期間ノ收入額不明ナリ
- 一 第六期ヨリ明治八年度ニ至ル本稅收入額ハ其細別不明ナルヲ以テ其合計額ヲ示ス
- 一 明治二十八年年度以降ハ稅法改正ノ爲メ遊獵職獵ノ別ヲ存セサルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス
- 一 明治二十五年年度ヨリ同三十五年度迄ハ印紙貼用ノ法ニヨリ徵稅セルヲ以テ此期間ニ屬スル各年度ノ狩獵免許ニ對スル課稅額ヲ掲出ス
- 一 明治二十五年十月勅令第八十四號ニ依リ明治二十五年十月十五日ヨリ明治二十八年三月三十一日迄ハ本稅ハ手數料トシテ徵收セラルタルヲ以テ其收納額ヲ示サス

第十七節 車 稅

車ノ使用ニ對シテ課稅スルノ制ハ維新以前ニ於テモ己ニ存在セリト雖モ畿ニ都府ニ於ケル貨物運搬ノ車輛ニ課スニ止マリタルモノ、如シ然ルニ維新以來各地車輛ノ用途歲々遂フテ開ケ就中明治四年ヨリ六年ノ際ニ及ヒ人力車ノ流行一時ニ盛ントナリ隨テ道路橋梁ヲ破損スルコト少カ

ラサルニ至レルヲ以テ明治四年五月二十四日太政官布告第二百五十六號ヲ以テ先ツ東京府下ニ於テ所用ノ諸車ニ限り租稅ヲ課徵シ以テ道路修繕費ニ充ルコトヲ定メタリ其布告文ハ左ノ如シ

今般東京府下道路修繕ニ付商賈所用大小ノ車取入賃銀百分ノ三ヲ以テ右入費へ爲差出候間在府ノ諸官員及華士族卒タリ共馬車人力車所持致候者右定額ニ準シ入費可差出事

右ノ布告ハ車稅ニ關スル規定ノ嚆矢ナリト雖モ未ダ國稅ノ性質ヲ備フルニ至ラザリシカ明治六年一月布告第三十一號ヲ以テ馬車人力車稅ヲ新設シ全國一般ニ之ヲ施行スルコト、セリ右布告ニ依レハ馬車ハ輪數及馬匹ノ數ニヨリ稅額ヲ異ニシ人力車ハ輪數及構造ノ大小ニヨリ其稅額ヲ別チ營業者ニ對シテハ其稅額ヲ半減セリ而シテ右布告ハ車稅ノ外僕婢駕籠乘馬遊船等諸稅ヲ併セ規定シタルヲ以テ今車稅ニ關スル部分ノミヲ左ニ抄録スヘシ

布告第三十一號 (明治六年一月三十日)

- 一 今度馬車人力車稅被相定國內一航施行被 仰出候ニ付テハ各管内ニ於テ別紙規則ニ照準シ明治六年一月一日ヨリ收稅ノ儀可取計事
- 一 右稅金ハ半年分ツ、相纏メ前半年分ハ其年八月後半分ハ翌年三月限り可相納其節現額員數増減ノ廉々別紙表式ノ通相製シ租稅寮へ可差出事
- 一 但別紙表式ハ不日可相達候事
- 一 從來取立來候納稅ノ内今度被定候馬車人力車稅ト同種ニ屬シ候向ハ都テ別紙規則ノ通改正可致事
- 一 右諸稅ハ全國一般ノ稅ニテ全國ノ經費ニ相充候儀ニ付其土地限リ道路橋梁ノ修復或ハ貧

民教育小學費用遲卒入費等ニ宛テ候爲メ同種ノ諸品上ニ付テ別ニ稅額ヲ立テ幾分ヲ増稅セシメ増分ヲ以テ右ノ入費ニ宛テ候儀適宜次第不苦候得共其都度都度租稅寮へ届出可申事

一 從前伺ノ上取立候分又ハ伺ヲ不經其應限リ取立候分トモ今般更ニ租稅寮へ届出可申事
僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船等諸稅規則

第二條 車駕籠稅

第一則

一 皇族ノ外華士族平民自分用ノ馬車人力車等ハ第二則ヨリ第四則ニ照準納稅可致事

第二則

一 四輪以上ニテ貳疋立以上之馬車ハ一ケ年金五圓四輪以上ニテ一疋立ハ一ケ年金四圓三輪以下ニテ二疋立ハ三圓一疋立ハ金二圓可相納事

第三則

一 人力車四輪以上ハ一ケ年金二圓三輪以下二人乘ハ一ケ年金一圓五十錢一人乘ハ金壹圓可相納事

(第四則略)

第五則

一 免許ノ上馬車人力車等ヲ以テ渡世相營候者ハ都テ前定稅ノ半高可相納事

第六則

一 荷物運送之爲メ相用候馬車大八車手車小車等ハ此稅則ニ不入事

但府縣應限リ道路橋梁修葺等ノ爲メ取立候儀ハ此限ニ非ス

第七則

一 從來相用居候分モ此度限リ所持ノ分員數取調其所屬戶長へ可届出事

第八則

一 有稅無稅ノ論ナク以來新調ノ車ハ其都度々々戶長へ届出檢印可申受事

第九則

一 新調ノ分納稅ノ儀六月以前ノ分ハ全年分七月以後ノ分ハ半年分上納ノ儀ト可相心得事

第十則

一 右上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分ツ、其地ノ戶長へ相集メ戶長ヨリ管轄府縣應へ可相納事

第五條

一 無届ニテ馬車人力車受用致シ居ル者後日露顯致スニ於テハ過料トシテ一箇年定稅ノ五倍ツ、可爲差出事

以上述フル如ク車稅ハ當初婢僕遊船等ト一括シテ規定セラタリシト雖モ此ノ如キハ錯雜ヲ免カレサルノミナラス僕婢駕籠乘馬等ハ寧ロ廢稅ト爲スノ便ナルヲ認メタルヲ以テ茲ニ明治八年二月二十日第二十七號布告ヲ以テ車稅規則ヲ定メ同時ニ從來行ハレタル僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則ヲ廢止セリ該車稅規則ノ全文左ノ如シ

車稅規則

第一則

- 一 馬車二匹立以上 壹箇年稅金三圓
- 一 同 一匹立 壹箇年稅金二圓
- 一 荷積馬車 壹箇年稅金一圓
- 一 人力車二人乘 壹箇年稅金二圓
- 一 同 一人乘 壹箇年稅金一圓
- 一 牛車 壹箇年稅金一圓
- 一 荷積大七八車 壹箇年稅金一圓
- 一 荷積中小車但大六以下 壹箇年稅金五拾錢

第二則

新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集メ其管轄廳へ可相納事

但前半年分ハ其年七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ其管轄廳へ可相納事

第五則

荷積車ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

斯クテ明治八年三月二十四日大藏省達乙第四十號ヲ以テ右車稅規則第五則荷積車ノ内耕作一途ニ用フル車ハ車稅免除ノ檢印ヲ爲シ之ヲ取締ルヘキ旨ヲ達シ尋テ明治十一年二月十五日布告第四號ヲ以テ納稅期ヲ改正シ税金前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限其管轄廳へ納付スヘキ旨ヲ定メ同年七月十五日大藏省達乙第三十五號ヲ以テ大車及中小車ノ區別ヲ明ニスルタメ左ノ如ク之ヲ達セリ

大藏省達乙第三十五號 (明治十一年七月十五日)

車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺全クノ積ノ縱橫相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車以下ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

更ニ明治十三年六月十一日大藏省達乙第二十三號ヲ以テ車輛ニ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタルトキハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ税金ヲ徵收スルコト、爲シ同年十月十五日同達乙第三十五號ヲ以テ自轉車ヲ人力車同様取扱フヘキ旨ヲ布達セリ

大藏省達乙第三十五號 (明治十三年十月十五日)

自轉車之儀各地取扱方區々相成居候趣相聞候處右ハ素ヨリ人力車部中ノモノニ付同様課稅可致儀ニ候條爲心得此旨相達候事

尋テ明治十四年九月二十二日大藏省達乙第三十二號ヲ以テ人力車壹人乘二人乘ノ區別ヲ明ニシ横巾内法曲尺二尺未滿ヲ以テ壹人乗トシ右以上ヲ以テ二人乗トナス旨ヲ達セリ而シテ自轉車ニ關シテハ明治十三年達ヲ以テ人力車同様取扱フヘキ旨ヲ達シタリシカ明治十六年八月十五日大藏省達第五十四號ヲ以テ右達ヲ廢止シ之ニ車稅ヲ課セサルコトハセリ

斯ノ如ク車稅規則ニ關シテハ隨時疑義ノ生スルニ應シテ布達ヲ發シテ規則ノ意義ヲ明ニシタリト雖モ如何セン其條文ノ不備ナル往々良民ヲシテ識ラス知ラス稅則違犯ニ陷ラシメ他ノ一面ニハ動モスレハ稅則上稅務官吏ノ間ニ異見ヲ生スルノ例頻々相接セリ是ニ於テカ明治二十年十一月大藏省訓示第六二五三號ヲ以テ該則適用ノ要點ヲ詳示セリ車稅規則取扱心得是ナリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省訓示第六二五三號 (明治二十年十一月二十五日)

從來車稅規則取扱ニ關シ各地ニ於テ往々一定ナラサルモノアリ右ハ自今左ノ各項ニ據リ區々ニ相成ラサル様取扱フヘシ

右訓示ス

車稅規則取扱心得

第一項 凡ソ物品運搬ノ用ニ供使スル車ハ總テ稅則第一則第七項第八項ニ準シ其稅ヲ徵收スヘシ

第二項 稅則第五則ノ耕作一途用車トハ稅則第一則第三項第六項第七項第八項ニ該當シ若クハ第七項第八項ニ準スルモノニシテ農家ニ於テ農具種子肥料塵芥收穫物ヲ運搬スル自家所用ノ車ヲ云フ

第三項 耕作一途用車ト雖モ前第二項ニ掲クル物品ヲ販賣ノ爲メ運搬スルモノハ免稅ノ限ニアラス

第四項 耕作一途用車ノ外左ノ場合ニ供使スルモノハ其用途ヲ烙記シ免稅ノ取扱ヲ爲スヘシ
一 非常專用ノ車
一 郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ遞信省ノ指定ニ據リ構造スルモノ
一 公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ
一 避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒藥品若クハ死體汚穢物ヲ運搬スルモノ

第五項 製造所若クハ鑛山借區内ノ如キ一場内ニ專用スルモノ又ハ祭典專用ノ山車ノ如キハ課稅ノ限ニアラス

第六項 免稅車及前項ノ車ヲ普通ノ用途ニ供使セント欲スルモノアルトキハ郡區役所ニ願出更ニ普通車ノ檢印ヲ請ハシムヘシ

第七項 馬車壹疋立ヲ貳疋立ニ兼用スルモノハ兼テ郡區役所ニ届出馬車貳疋立ノ檢印ヲ受ケシムヘシ

第八項 普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ架設シ其坪數ヲ増加シテ使用スルモノハ其本車ト共ニ郡區役所ニ届出檢印ヲ受ケシムヘシ

第九項 馬車荷積馬車人力車牛車荷積車ノ各類中其車類ヲ變更シ若クハ其一類中馬車馬ノ匹數人力車乘臺ノ橫巾曲尺或尺未滿ナリ或尺荷積車ノ坪數坪以上十四坪未滿ナリ金ニ増差ヲ生シタルトキハ該期ヨリ其増差ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第十項 車ノ檢印ヲ爲ストキハ稅則第一則ノ各類ニ從ヒ第一號ヨリ逐次其番號ヲ烙記スヘシ但再記スルトキ舊番號ハ之ヲ缺號トナスヘシ

第十一項 車體ノ檢印等ヲ磨滅毀損シ若クハ左ノ場合ニ係リタルトキハ速ニ郡區役所ニ届出檢印ヲ請ハシムヘシ

- 一 車類ヲ變更シタルトキ
- 一 馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルトキ
- 一 車ニ修繕ヲ加ヘ税金ニ差異ヲ生シタルトキ

第十二項 車ヲ解撤シ又ハ之ヲ亡失シ若クハ改姓名代替轉居シタルトキハ其始末ヲ詳記シ速ニ郡區役所ニ届出サシムヘシ

第十三項 車ヲ賣拂ヒ若クハ讓渡シタルトキハ其買受人若クハ讓受人ト連署ノ上郡區役所ヘ届出サシムヘシ

其買受人若クハ讓受人ト郡區役所ヲ異ニスルトキハ連署ヲ以テ仍ホ其買受人若クハ讓受人ノ郡區役所ヘ届出サシムヘシ

第十四項 買受人若クハ讓受人ノ郡區役所ニ於テハ第十三項第二節ノ届出ヲ受ケタルトキハ車臺帳ヘ登記シ速カニ其旨ヲ賣拂人若クハ讓渡人ノ郡區役所ヘ報道スヘシ

尋テ明治二十一年二月二十四日勅令第七號ヲ以テ車稅規則ニ左ノ附則ヲ追加シ七月一日以降之ヲ實施セリ是レ當時北海道ニ於テハ大ニ拓地殖民ヲ獎勵スルノ際交通運輸ノ機關タル諸車ニ課稅スルカ如キハ全ク其趣旨ニ反スルノミナラス其稅額甚タ些少ニシテ之ヲ免除スルモ敢テ歲入ニ影響ヲ及ホスノ虞ナキヲ以テナリ

勅令第七號 (明治二十一年二月二十四日)

明治八年二月第二十七號布告車稅規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

附則

北海道廳管内ニ限り第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七八大八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

明治二十一年十月大藏省訓示第四三八號ヲ以テ車稅規則取扱心得第四條中烙印シノ三字ヲ檢定シノ三字ニ改メ明治二十二年六月大藏省訓令第二七〇三號ヲ以テ車稅規則取扱心得第十項ヲ削除シ更ニ同年三月大藏省達第五六六號ヲ以テ車稅規則取扱心得第十四項ヲ左ノ如ク改正セリ是レ從來車輛賣買ノ甲乙兩管廳ニ交渉スルモノニ付テハ乙廳ハ賣買ノ事實ノ届出アリタル後臺帳ニ登記スルノ手續ナルニ依リ其届出ヲ怠リ又ハ届出サルモノアリテ徵稅上不都合少カラサリシニ由ルナリ

第十四項 第十三項第二節甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ甲廳ハ直チニ乙廳ニ通牒シ乙廳ハ之ニ依リ臺帳登記ノ手續ヲ爲シ其旨更ニ甲廳ニ通牒スヘシ

而シテ同年市制町村制ノ實施アリ是ニ於テカ五月七日大藏省令第七號ヲ以テ諸車ノ檢印ヲ請求

スヘキ官署ヲ明示シ市ニ於テハ府縣知事町村ニ於テハ郡長ト爲セリ斯クテ車税規則ハ別段ノ變
 更ヲ受クルコトナクシテ施行シ來タリシカ途ニ明治二十九年四月六日法律第六十九號ヲ以テ明
 治二十九年限り該規則ヲ廢止スルコト、爲レリ是レ當時新ニ國稅トシテ營業稅法ノ制定アリ從
 テ車税ハ之ヲ地方ノ稅源ニ移スノ必要アリタルニ由ルナリ

| 年 度 | 車税收入額 | | | | |
|-----------|------------|---------------|-----------|---------------|------------|
| | 馬車税 | 人力車税 | 牛車税 | 荷車税 | 合 計 |
| 第 八 期 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 明治八年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 同 九 年 度 | 1,018,000 | 1,600,000 | 1,439,000 | 7,237,340 | 11,294,340 |
| 同 十 年 度 | 1,478,500 | 1,743,583,000 | 1,668,500 | 8,357,880 | 12,158,463 |
| 同 十 一 年 度 | 1,988,000 | 1,819,548,858 | 1,818,250 | 1,037,733,143 | 12,663,540 |
| 同 十 二 年 度 | 2,561,500 | 1,996,626,191 | 2,391,500 | 1,313,133,973 | 13,362,851 |
| 同 十 三 年 度 | 3,296,500 | 2,103,342,651 | 3,103,500 | 1,627,744,115 | 13,938,959 |
| 同 十 四 年 度 | 4,991,500 | 2,300,340,667 | 3,406,500 | 1,997,878,798 | 14,706,825 |
| 同 十 五 年 度 | 7,347,000 | 3,292,942,388 | 3,673,000 | 2,165,554,755 | 16,488,875 |
| 同 十 六 年 度 | 9,133,000 | 3,768,355,919 | 3,934,100 | 2,163,339,919 | 19,008,604 |
| 同 十 七 年 度 | 11,660,000 | 4,378,827,515 | 4,919,500 | 2,343,333,355 | 23,291,698 |

| | | | | | |
|-------------|------------|---------------|------------|---------------|------------|
| 同 十 八 年 度 | 12,790,340 | 5,289,979,664 | 5,780,570 | 2,466,784,539 | 26,327,674 |
| 同 十 九 年 度 | 15,534,060 | 5,977,326,993 | 6,853,848 | 2,790,032,033 | 30,157,338 |
| 同 二 十 年 度 | 20,687,138 | 6,359,300,008 | 7,100,550 | 3,132,668,637 | 37,287,635 |
| 同 二 十 一 年 度 | 26,419,000 | 6,385,500,000 | 8,883,000 | 3,377,507,000 | 44,685,507 |
| 同 二 十 二 年 度 | 33,881,000 | 6,986,000,000 | 10,433,000 | 3,831,999,000 | 55,333,999 |
| 同 二 十 三 年 度 | 36,078,500 | 7,230,372,066 | 11,091,858 | 4,037,764,239 | 58,438,757 |
| 同 二 十 四 年 度 | 36,965,933 | 7,466,136,994 | 11,622,250 | 4,196,078,433 | 60,214,710 |
| 同 二 十 五 年 度 | 41,968,340 | 7,747,886,655 | 12,635,916 | 4,511,551,211 | 66,856,202 |
| 同 二 十 六 年 度 | 47,935,500 | 8,280,477,069 | 14,365,027 | 4,836,610,425 | 73,427,629 |
| 同 二 十 七 年 度 | 51,995,975 | 8,330,123,401 | 16,187,500 | 5,127,755,000 | 79,697,000 |
| 同 二 十 八 年 度 | 59,468,798 | 8,925,738 | 18,595,750 | 5,500,970,886 | 87,586,774 |
| 同 二 十 九 年 度 | 66,128,350 | 9,361,919,933 | 20,860,500 | 5,989,911,814 | 97,040,757 |

(備考)

- 一 明治六年布告第三十一號ニ依ル車税ハ駕籠税ノ部ニ出ツ
- 一 第八期及明治八年度ハ本稅收入額細別不明ナルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス

第十八節 船 税

第一款 船税ノ第一期

徳川幕府時代ニ在テハ或ハ船年貢船運上又ハ川船役ト稱シ船稅ヲ賦課セリ而シテ明治維新以後モ亦姑ク舊慣ニ仍リ所在適宜ニ船稅ヲ賦課シ來リシカ當時尾紀水三藩及旗下ノ名ヲ藉リ脫稅ヲ謀ルモノ少カラサリシヲ以テ明治元年八月十九日太政官ハ左ノ布告ヲ發シテ此弊ヲ防ケリ

舊來尾紀水三藩並旗下ノ名前ヲ借リ無稅ニテ改モ無之船數多有之候處近來右様之名ヲ偽リ惡徒共不所業之次第モ有之趣不取締之儀ニ候間以來軍船之外假令武家所持之分ト雖モ商船遊船之向不殘相改稅銀上納改濟之分ハ目印ノ燒印相付可申無印之船決テ往來不相成候事

右ノ布告ニヨリ軍船ノ外商船及遊船ハ總テ船稅ヲ課徵スルコト、ナレリ然レトモ其稅率ハ別ニ之ヲ一定セス專ラ各地ノ舊例ニ依準セシメタリシカ明治二年十二月民部外務兩省ノ布達ヲ以テ始メテ海上ヲ航行スル商船ニ關シ全國一定ノ稅率ヲ施行スルニ至レリ

西洋形商船蒸汽ハ百噸ニ付一箇年金拾五兩風帆ハ百噸ニ付一ヶ年金拾兩宛稅金通商司エ可相納事

但在來日本製商船ノ分者積石數百石ニ付金壹兩宛可相納事
右之通相定候條嚴重可相守事

右布達ニ依ル船稅ハ翌明治三年三月二十七日太政官布告ヲ以テ商船規則ヲ制定スルニ及ヒ全部之ヲ襲用シ只郵船ニ關シテハ之カ例外ヲ設ケタリ即左ノ如シ

太政官布告 (明治三年正月二十七日)

蒸汽郵船規則 (抄錄)

一 百姓町人所持船ヲ以テ郵船ニ仕立度願出候分ハ船ノ大小間數馬力等見分ノ上良船ニ候ハ

ハ御許容可有之廻漕會所付郵船同様取扱運賃ハ會社ニテ取立右ノ内爲稅金金高ノ十分一廻漕會所へ相納其餘船主へ相渡候事

商船規則

一 西洋形商船蒸汽ハ百噸ニ付一箇年金十五兩風帆ハ百噸ニ付一箇年金十兩宛稅金通商司へ可相納候事

但在來日本製商船ノ分ハ積石數百石ニ付金一兩宛可相納事

而シテ右商船ニ對スル稅率ハ明治四年船稅規則ノ繼承スル所トナリ明治十六年船稅規則モ大體ニ於テ之ヲ繼承シタリ

此ノ如ク船舶ハ其噸數ニヨリ租稅ヲ賦課スルニ至リシモ其取扱ニ關スル細目ニ至テハ之ヲ各地方官廳ニ一任シタルヲ以テ其取扱區々ニ亘リ往々錯雜シタル問題ヲ惹起セリ是ニ於テ船稅規則制定ノ必要ヲ認メ明治四年八月五日太政官布告ヲ以テ船稅規則ヲ公布シ同年以降之ヲ實施セリ而シテ此稅則ニ於テハ各船ニ對シテ鑑札ヲ下付シ其石數噸數ニ應シテ年々一定ノ稅額ヲ課徵スルコト、爲セリ然レトモ此稅則ハ五十石以上ノ海船ニ施行シタルモノニシテ淨漁船並ニ其他諸小船ニ關シテハ尙舊例ニ依ラシメタリ今其全文ヲ舉クレハ左ノ如シ

布告 (明治四年八月五日)

商船ノ儀布告書並ニ規則書トモ去庚午正月中相達候處今般船稅ノ儀別紙規則書相定候條各管内共區區ノ所爲無之様可取扱候事

(別紙)

一 在來日本商船ハ勿論西洋形商船ニ至ル迄船稅取立方ノ儀商船規則中ニ揭載有之候處右ハ管轄所ニ於テ不取懸候テハ不都合ニ付各府縣ニ於テ取調別紙規則ニ從ヒ鑑札相渡シ當辛未年ヨリ年々定則通稅金取立可申候事

船稅規則

第一則

一 各管轄所ニ於テ其管下船持共取調每一艘篤ト見分ノ上積石數相改メ鑑札相渡石數噸數ニ應シ在來日本船ハ百石ニ付金壹兩蒸汽船ハ百噸ニ付金拾五兩風帆ハ同斷金拾兩宛稅金年々可取立事

但新規合船或ハ讓請船鑑札願出候節モ本文同様篤ト見分ノ上積石相改メ鑑札可相渡事
右鑑札ハ他方航海中常々大切ニ所持可爲致尤盜難火災其外等ニテ失ヒ候分ハ其仔細明瞭ニ相分候ハ、最前渡置候積石高ヲ照シ新規鑑札可相渡事

第二則

一 各管内船稅金ハ每年四月中迄ニ取立六月中迄ニ調書トモ相添當省へ可相納事
但當辛未年ノ分ハ十月中迄ニ取立十二月中ニ納方可取計事

第三則

一 各港入津ノ船々ヨリ所持ノ鑑札爲差出相改可申若シ積石數鑑札面ト相違致シ候ハ、其積石ノ差違ニ應シ日本船ハ百石ニ付金三兩蒸汽船ハ百噸ニ付金四拾五兩風帆ハ金三拾兩ノ罰金其港役所ニ於テ取立其管内ノ分ハ更ニ鑑札相渡シ差違ノ石數ニ應シ增稅金取立其次

第明細ニ相認當省へ相届可申事

但取立候罰金納方ノ儀ハ外稅金同様可取扱事

他管下ノ船積石相違有之候ハ、罰金ハ其改出シ候港ニ於テ取立可申其他鑑札書並ニ增稅金取立方ノ儀ハ其管轄所へ相達其段當省へモ可申立事

第四則

一 各管下ノ者新規合船或ハ解船破船又ハ船讓渡シノ分ハ其時々相届可申事

但四月前解船破船並ニ四月後合船ノ分ハ其年ノ稅金相納ニ不及事

第五則

一 右ニ揭候船ハ積石五十石以上ノ商船ニ限り可申尤モ解漁船等ハ積石五十石以上以下ニ候共例外ノ事

但解漁船ノ類取扱方各所區々ニ付一定ノ御規則御詮議可相成候條船數等取調稅則見込可申立候尤モ右稅則御確定相成候迄ハ従前ノ通取扱可申事

第六則

一 鑑札燒印並ニ押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ右印鑑當省へ差出且諸港へモ相廻シ置可申事

第七則

一 右規則施行ニ付候諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事
右ノ通規則相定候事

